

残雪の明神岳(北アルプス) 中川 光郎

世界の山旅

初境の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」
それにお応えするのが
実体験に基づいた
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

3つの山の上ホテルに泊まり、3つのピークにも登頂 壮麗な自然、雄大な岩壁、東アルプス最大の氷河 地元ではクール・ド・モンブランとして人気のコース

**アルプス・スカイライン
ハイキング 12日間**

日程 大阪・名古屋・東京
●6/21発……………¥480,000
●7/5発……………¥498,000
●7/12発……………¥512,000

ロッキーのハイライト部分をハイキング三昧!

**初夏のカナディアン・ロッキー
満喫ハイキング 8日間**

日程 大阪・東京
●6/7●6/21●6/27発……………¥325,000
●6/10●6/18発……………¥338,000

世界遺産とシーズンごとの高山植物を楽しむ

**九寨溝、黄龍と四姑娘山
山麓ハイキング 9日間**

日程 大阪
●5/27●6/22発……………¥218,000
●7/22●8/18発……………¥258,000

台湾の最高峰と第2峰に登頂!

**玉山と雪山
台湾の2座登頂7日間**

日程 大阪・名古屋・福岡・東京
●5/28発……………¥242,000
●8/24発……………¥344,000
●10/6発……………¥256,000

**チロル・ドロミテ、オーストリア
3つの最高峰展望と絶景の谷 9日間**

日程 大阪・名古屋・東京
●7/4発……………¥490,000
●7/11●7/18●8/5発……………¥498,000
●8/1発……………¥552,000

シンプルでロジックライフで深い感動が続いています

**アシニボイン・ロッジと
レイクルイズ 8・9日間**

日程 大阪・東京
●5/13●6/20発……………¥420,000
●5/22発……………¥458,000
●6/12発……………¥462,000

星屋で内容充実のペルー・アンデスのトレッキング

**アンデス・ブランカ山群
トレッキング 11日間**

日程 東京
●5/24●6/14●6/29発……………¥398,000
●8/9発……………¥546,000
●9/13発……………¥399,000

手近な4,000m級登頂とオランウータンの森

**Mt.キナバル登頂と
ボルネオ島ワイルドライフ 7日間**

日程 大阪・名古屋・東京
●5/25●6/22発……………¥182,000

**モンブラン山群一周
トレッキング 9日間**

日程 大阪・名古屋・東京
●7/15●8/28発……………¥470,000
●7/29発……………¥496,000

山小屋から山小屋へ、雄大なパノラマを独占!

**エスプラナーデ
山小屋縦走トレッキング 10日間**

日程 大阪・東京
●7/13発……………¥498,000
●7/17●8/14発……………¥588,000
●7/21●7/29発……………¥576,000

空想の山岳景観が近くに、秘境デオサイ高原も探検

**K2・バルトロ氷河ヘリ・フライト
とコンコルディア管陸 12日間**

日程 東京
●6/16●6/26発……………¥538,000
●7/17●8/28●9/18発……………¥516,000

快通なKLMオランダ航空でアフリカ最高峰に挑戦

**キリマンジャロゆったり登頂と
サファリ 11日間**

日程 大阪・東京
●6/22●7/7●7/20発……………¥576,000
●8/3発……………¥596,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF 総後橋ビル2F
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557
札幌/☎011(711)7106 仙台/☎02(265)4511(転送)
(掛りんゆう観光) 広島/☎082(542)1660(転送)
e-mail:osaka@alpine-tour.com

山仲間がオリジナルツアーを企画してあげませんか?

山岳会、ハイキングクラブで企画
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイ
キングを企画したい、いつもの山仲間と海外の山歩き
をしてみたい、というような場合には、アルパインツアー・カ
ラツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行ブ
ランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのライドを上映します



紫陽花 (矢田寺)

良質の地下水に恵まれた伏水
 昔ながらのたたずまいを残す
 秀吉は巨椋池を宇治川と切り離し
 伏見城の外堀と結び港を開いた
 京や大阪への交通の要衝
 飛脚問屋、運送問屋が軒を接し
 舟宿がひしめく港町・伏見
 参勤交代の西国大名の逗留
 寺田屋近くの橋から
 濠川沿いの柳並木を眺めた
 柳の緑が鮮やかでした
 白壁土蔵の酒蔵と水路
 豊かな湧き水で作られる芳醇な酒
 船宿に集った勤王の志士たち
 十石舟が川面を滑っていった

酒蔵 (伏見)

Photo essay

泉月

題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一

ほりかわ
 濠川 (伏見)





マムシグサ

季節の



野鳥?

緑流



実景

初夏

箱館山 (平池)

撮影 武市通治



平池

タニウツギ (ベニウツギ)





御所平よりミズナシ（鈴鹿） 金谷 昭



霧の中のレンゲツツジ（車山高原） 高岡 富美子



初夏のハヶ岳（横岳より） 武田 誠司



ハライドより腰越峠のアカヤシオ（鈴鹿） 一芝 義雄

遅い春の便り - 取立山 (加越国境) -

奥田 英一郎

●目次

表紙：松田敏男「ワタスゲ咲く 苗場山の湿原」(信越国境)

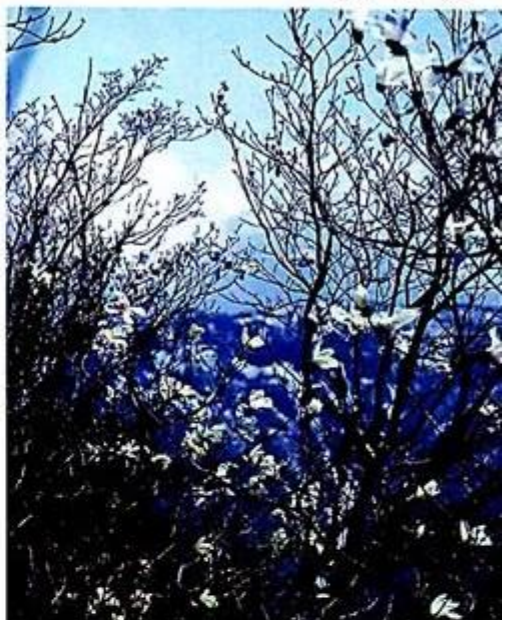
●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌、山岳画の編集多数関係。(京都平安山岳、南アルプス山水小報、東京キャリアー一頁、他)山の雑誌編集「光る山山」刊行(東京新聞社協賛)。京越山と野に携し心会代表、日本山岳会会員

別冊 関西の山
新伴 06 5・6月 初夏 第88号

沿線ハイキングガイド せせらぎ 新ハイサービスチェーン	84 82 80	新ハイ関西山行計画 新ハイ関西山行報告 編集後記・広告案内	112 102 90
コース ①史跡・太尾山城跡と南尾根(湖東) ②母袋馬帽子岳・毘沙門岳・見当山(奥美濃) ③比叡山から瓜生山・狸谷不動院(比叡) ④人形山(恵中)	長宗 清司 山形 歳之 松尾 一郎 金谷 昭	岩野 明 西尾 寿一 松永 恵一 上田 侍弘	78 74 72 70 69 66 62 46
●旗振り通信の資料区 ●エリヤ別荘庭研究 伊能ウォーク INやまと ●伊園寺前より大和上市駅 ⑨大和上市駅一休庵 ●一休庵と越部駅(奈良) ●文学歴史探訪ハイク ⑩ ●中野野街道 平野から丹南へ(大阪) ●「山」のレポート ●「ノ」と「ガ」の用法 ●山のレポート ●金峯塔尾雪場	柴田 昭彦 上田 侍弘 松永 恵一 西尾 寿一 岩野 明	磯部 純 上田 侍弘 松永 恵一 西尾 寿一 岩野 明	52 46 46 66 69
●紀行 大和葛城山(大和葛城) 又川谷・大井谷・太夫谷(鈴鹿) 雨降山(上信越) 連軸 標高による山の紹介シリーズ 28 △△△の山 天ヶ岳・大座礼山・雲母峰 硫黄岳・横岳・赤岳へ(八ヶ岳) 戸隠表山(北信) ホトラ山北西尾根から栗木田谷へ(北良) 泰山・黄山(中国) 連軸 三角点を訪ねて 伊吹山西麓の山、板並岳へ(湖北)	木村 太郎 長谷川 雅俊 高島 伸浩 松田 敏男 田中 明 鷺見 守康 小山 誠次 生駒 賢峰	木村 太郎 長谷川 雅俊 高島 伸浩 松田 敏男 田中 明 鷺見 守康 小山 誠次 生駒 賢峰	22 18 14 12 10 4 2
●グラビア ●(口絵) 中川光郎 高岡富美子 一芝義雄 金谷 昭 武田誠司 奥田英一郎 ●随想(山のエッセイ) 三上山の由来 初夏の花風景	撮影 由井 収 文 松永 恵一 武市 通治 奥田英一郎	武市 通治 奥田英一郎	4 2



温もりがやって来て(ミスバシヨウ)



春風にそよぐ(タムシバ)



花の顔が見えるよう(ショウジョウバカマ)

●巻頭言

たとえば、「今、中高年の登山が盛んである」と表現されるように、「中高年」という言葉があらゆる場面で多く使われるようになった。少子高齢化の反映だろうか、年はずっとも大変に元気で定年を過ぎて現役で仕事を続け、仕事以外でも各方面で積極的に活躍している中高年が多いからだろう。少々の困難にもめげず、昔から苦労させられて辛抱強く、何があってもこたえない強い年齢層である。60歳代、昭和10年代生まれの世代である。後に「団塊の世代」が続く。

昨年還暦を迎えた私は、ちょうどその境目に当たる。山歩きを始めて約30年間、夢中になって山に登り続け、やっと「中高年」の登山層へ仲間入りした。しかし、考えさせられることが多くなった。家庭や仕事のこともあるが、その一つは山への姿勢や取り組み方である。最近今までのスタイルをわずかながら変化させている自分に気づくが、まだはっきりとした方向が打ち出せていない。先月号で書いたが、ただ登るだけでとりたてての趣味・趣向が無いこともあろう。先輩を見習って得心する方向を何と見出したいものだ。

新ハイキング関西(代表) 村田 智俊



三上山の由来

網本 逸雄

三上山(4733)は山城町森林公園(京都府相楽郡山城町神童子小字三上)東端の鳴子川源流域に立地する。サワガニの生息する川と共に「京都の自然二〇〇選」(京都府)に選ばれ、地質は風化花崗岩からなる。山麓の神童子集落には、修験道の行場として栄えた古刹・神童寺(金剛院とも号す)がある。奥書に大永二年(1522)とある「北吉野山神童寺縁起」(当寺蔵)によると、推古天皇四年(596)に聖徳太子が創建した。白鳳四年(675)に役行者が入山し、蔵王権現を彫刻して本尊とし、神童教護国寺に改称、平安期に興福寺の僧願安が再建と伝える。秦澄・行基・鑑真・良弁・最澄・空海・円珍

など、名僧が来山したという。また「縁起」では、治承、元弘時代に寺が兵火にかかるが、応永十三年(1406)興福寺の懐乗が蔵王堂を再建したと伝える。

他方、嘉吉元年(1441)の「興福寺官務帳疏」には、末派寺社として「神童寺 相楽郡 狛之郷北吉野に在り。僧房廿六宇、修験道供僧三人神人二人、修験道兼帯、中興応永六年(1399)官務四家再建」とあり、真言宗智山派に属する神童寺がかつては、法相宗大本山興福寺の末寺だったことを物語る。しかし、「平安期の願安まで遡るに於ては、他宗の最澄や円珍など興福寺と対立関係にあった天台宗の僧が来山したという縁起の記事と矛盾している」(山城町史・本文編)。

最近、「北吉野山神童寺縁起」(興福寺官務帳疏)は出所が「楳井文書」で、江戸後期、楳

井正隆(山城町)の創作だという指摘がある(史教刊行会「史教」二〇〇五年春号、大阪大学日本史研究室)。したがって、神童寺の由来は鶴呑みにできない。ただ、興福寺修験道は、平安末期から吉野の金峯山寺を末寺として当山派修験を形成している。よって神童寺が興福寺と関わりをもつのはこれ以降だろう。奈良期の開創伝承も、聖徳太子や役行者に仮託したものである。

寺所蔵の十体を越す仏像は平安期の作が多く、吉祥大立像や菩薩形立像などがある。建治三年(1277)の年号がある十三重石塔もある。

山城町教育委員会「山城町内遺跡発掘調査概報Ⅳ」(1993)によると、これら平安期の仏像は南山城の蔵王信仰の一大霊場としての寺の性格とは直接結びつかない。大和の吉野金峰山の山岳信仰がこの地に伝わって神童寺が北吉野と号し、修験道の



随想 (山のエッセイ)

拠点として定まるのは平安仏造像以降という。また、同寺本尊の蔵王権現像や役行者像は、本堂(蔵王堂)が再建された室町期のもとも指摘している。

この時期は、興福寺大乗院門跡尊尊の日記「大乗院社雑事記」文明十一年(1479)五月十三日条によると、「御祈禱所、山城国神童子」とあり、大悲山峰定寺などと共に興福寺大乗院門跡の祈願所であった。

神童寺伽藍の規模を知る手掛かりとして「北吉野山金剛院蔵院神童教寺伽藍之図」がある。永正六年(1509)製作を寛永十年(1633)に描き直し、さらに模写したと記す。「楳井文書」のひとつだが、先の「調査概報」では、調査・復元し、蔵王堂を中心に谷々に数多くの堂宇・塚を確認している。

絵図には蔵王堂から遠く東北あたりにのびる連嶺上に「山上ヶ嶽」とある。現在の三上山を

指し、近世、同山は神童寺、上狛・楳井・林・北河原各村の入会山だったが、東の瓶原郷と紛争(山論)が生じ、寛文二年(1662)に境界を示した裁許絵図が作成された。絵図には「山上ヶ嶽」が載り、前出の「伽藍之図」と山名が一致する。

山上ヶ嶽には「西之のそき 東ノのそき」と呼ばれる行場や、神童寺と山頂の間には弥勒堂があり、吉野・大峰山系に擬えた金峯山信仰の一拠点だった。

『山州名跡志』には「北吉野山神童寺 一説に云、和州大峯に毒蛇有り、山伏入峰断絶すること久し。其の時笠置山を以て大峯に比し、当山を開くに吉野山に准える」(都名所図会)も同様、『山城名跡巡行志』は「鷲峰山を以て大峰に比し、当山を以て吉野山に准す」と、吉野山の北方にある山、北吉野山の山号由来を伝える。

大峯山は吉野から熊野に至る

山系で、北端に山上ヶ岳(奈良県吉野郡)がある。狭義には山上ヶ岳を指す。吉野山から山上ヶ岳に至る山塊を金峯山と呼ぶ。

神童寺の中心蔵王堂あたりが古くに「北吉野」と呼ばれるのに対して「大峯」は、鷲峰山・笠置山でなく三上山であろう。「この地に金峯山信仰が伝播したのは明確でなく、本尊が蔵王権現とされたのは平安末期か鎌倉初期ころと考えられるので、平安時代には金峯山信仰が何らかの形で伝わり、三上山山頂が大峯と呼ばれた可能性は大いにある」(八田達男「山岳寺院の寺地について」『国史学研究』二〇号・龍谷大学国史学研究会、一九九四・十一)。

さて、山岳修行場の山名によくみられる「サンジョウ」(サンジョウ)(サンジョウ)の転訛例は、大峰山系の山上ヶ岳や、京都府では丹後の大江山(千丈



随想 (山のエッセイ)

白色のヤマシヤクヤクとの相違点は色だけでなく、雌しべの一部で子房のびた部分の花柱が、ヤマシヤクヤクが三個であるのに対してベニバナヤマシヤクヤクは五個あり、長くて先が強く渦状に巻き込むのが特徴である。

ベニバナヤマシヤクヤクは日本全土に分布するが、限られた山地しか自生しない。園芸目的等で盗掘により激減しているといわれる。

京都府ではもちろん絶滅寸前種だが、環境省カテゴリーのレッドデータブックでも絶滅危惧種ⅠB類に分類されていて、いかに貴重な植物であるかがわかる。「関西では見られなくなった」と言われたいようにしたいものだ。

一方、樹木花はまずはクロウメモドキ科のホナガクマヤナギ。母種のクマヤナギは伊吹山

で見慣れているのだが、6月に赤坂山で観察した時には、赤い果実の独特の雰囲気にも異様な思いをした。

帰宅後調べてみると、日本海寄りに分布し、花序が8つと長く花が密に付くというではないか。花期は8月というから、赤い果実は翌年に赤から黒く熟すことになる。その実も倒卵形のおもしろい形をしている。葉は七対ほどの側脈で、先が丸くてひと目見れば忘れられない独特の姿である。

8月に咲くという花序も目にしたいが、この時期はアルプスへのハイシーズン、赤坂山に足が向くか心もとない。

最後はエゴノキ科のハクウンボク。金剛山で見てからはほとんど忘れていたが、京都北山でも見られるとのこと、八ヶ峰にわざわざ案内してもらった。

直徑2つほどの白い花が20個ほど下向きに長く総状となって

咲くさまは実に豪華である。この雰囲気が好きになり、違った場所にもないかとあたりをつけ、比良の小女郎池を目指して、薬師ノ滝の谷筋をつめていくと、たかさんのハクウンボクに出会った。大満足し、ネット上のハンドルネームの変更を口に出すほどであった。

例年なら6月は梅雨の最中、しかし、昨年は空梅雨で山歩きが楽しめ、初夏の花風景が繰り広げられていたのを思い出して楽しんでる。



ヶ岳)があり、大江山はかつては三上ヶ岳ともいった。仙丈ヶ岳・戰場ヶ原同様、修験道の道場であったことを示す山名である。

修験道では、高い山とか霊場に登って修行すること、および霊山の頂上(絶頂)を「禪定」というが、この「ゼンジョウ」を漢字表記する際、種々の漢字を当てたのだろう。

『義経記』(七、直江の津にて夜探されし事)に「この清川と申すは、羽黒権現の御手洗(手水)なり。月山の禪定より北の腰に流れ落ちけり」と載る。岩科小一郎『山岳語彙』(体育評論社、一九四〇)も「ゼンチャウ 修験者の主宰する所の山に、この修法がある」と指摘している。

*参考文献『山城町史と本文編・史料編』

初夏の花風景

田中 明

冷たい冬の雨の日、山行から解放されて、なにげなく昨年の6月頃の山歩きを振り返ってみた。

何と、三種の比較的珍しい山野草、そしてこれまであまり意識していなかった樹木花に出会っていた。

山野草の一つは、アカネ科のサツマイナモリと近縁種のイナモリソウである。

三重県の稲森山で発見されてその名が付いた淡紅紫色の花で、花冠2・5cmの何ともいえない可愛いお花である。京都府でも絶滅寸前種となり、近年見られなくなったという貴重なもので、大阪府南部の山で出会った。サツマイナモリにはすでに会っ

ているのでできれば、花冠約1cmとやや小さく、シベが花冠より突き出る、同じイナモリソウ属のシロバナイナモリソウにもいずれば会いたいのである。

二つめは、ヒメハギ科のナガバカキノハグサ。以前に伊吹北尾根で、その母種の葉が長楕円形のカキノハグサは見ているが、銀助平のバラボラアンテナ撤去工事によって絶滅した。その後寂しく思っていたものだが、和歌山県で両方を見た。

主に近畿・中部地方に分布し、京都府でも準絶滅危惧種に指定され、個体数を急激に減らしている種である。花好きな人ならヒメハギはよくご存知だが、このカキノハグサはあまり知られてないようだ。

続いてボタン科のベニバナヤマシヤクヤク。同じ仲間のヤマシヤクヤクは馴染み深い、1ヶ月ほど遅く咲き、淡紅色の何とも派手好みのお花である。

『万葉集』歌枕紀行

大和葛城山

やま と かつら ぎ さん

木村 太郎

大和葛城

「五月礼賛」の詩篇で、与謝野晶子は「五月は好い月花の月」と思いを伝えている。ポプラ・マロニエ・プラタナス・つつじ・芍薬・藤・蘇方、花の名を挙げ、手放して五月を賛美している。

晶子の花賛歌に触発されたわけではないが、5月の野山を美しく飾るツツジの群生を求めて大和葛城山へ出かけた。

5月のゴールデンウィークは、御所駅からロープウェイ登山口駅への道路が渋滞する。そこで、青崩から登ることに決め、富田林駅から水越峠行きのバスに乗った。

農家数戸の坂を登り、天狗谷の沢道を進んだ。鎖のある大岩を越え、水場を後

に急勾配の尾根に取り付く。階段まじりの道は急峻で、時折吹き抜ける風が心地好い。小ピークを越え、道がゆるんで治水石堤を過ぎる。弘川寺に通じる五ツ辻への小道を見送り、ショウジョウバカマの大群生に出会う。

五ツ辻への本道に出合い、キャンプ場を抜け、山上のビジターセンターへ着く。大勢のハイカーにまじり、大和葛城山(959m)の山頂に向かった。2等三角点のある山頂に立ち、展望を楽しむ人々に仲間入りする。金剛山や大和葛城山は見えるが、大峰や大台方面は春霞がかかっている。

葛城の高間の草野はや知りて

葛城高原つつじ園



標刺さましを今そ悔しき

(巻七―二三七)

泉州平野や大和盆地から仰ぎ見られる葛城山、その美しい草野の高嶺は、万葉の昔より人々のあこがれであった。美しい草野を早く知り、自分の持ち物だと標を刺しておきたかったと詠んでいる。好ましい女性が他人のものになり、今では悔しいという思いを、葛城の草野に置き

換えて詠んだ歌であろう。

草野を横切り、つつじ園に向かう。一目百万本という、群生地はツツジはまだ蕾を開いていない。満開には少し早い蕾のツツジでも、群れを成しているので高原一帯を真っ赤に染めている。

『万葉集』には「つつじ花にほへる君子……」(巻三―四四三)「つつじ花にはえ娘……」(巻十三―三三〇九)と詠まれている。若さの象徴としては、満開よりも蕾のツツジがふさわしいかも知れない。ロープウェイ葛城山上駅へ歩き、天神社へ出る。国常立命をまつる天神社のそ

ばに、役行者神変大菩薩の祠がある。舒明天皇の時代に、御所茅原の里で生まれた役行者小角は、葛城山で大王権現を感じ得たとされ、この地に山岳修験道を開いたという。

葛城山にはその昔、土蜘蛛のような手足の長い土着民が棲息していた。『日本書紀』に記された由来によれば、葛の蔓で編んだ網具で一族は捕えられ掃き捨てたという。暗い幽邃の山として伝わる葛城山だが、ロープウェイで運ばれた人々が都会並みに賑い、現在の葛城山に昔の面影など求めようもない。



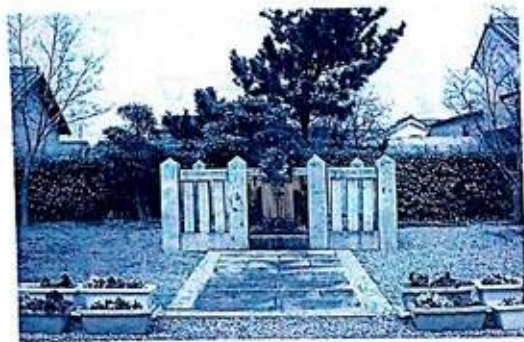
天神社広場のブナとミズナラの大木との再会を果し、人込みを避けて自然研究路の遊歩道に入った。思い起こせば、「ファミリーハイク」の第1回の山行が5月の葛城山であった。当時サブの中村さんと、雪の2月と花の4月に下見を重ねた。4月に歩いた自然研究路のブナの林床で、カタクリの群生に出会ったの思い出す。

ものふの八十娘が汲みまがふ
寺井の上の堅香子の花

(巻十九―四一四三)

古くにはカタカゴと呼ばれていたカタクリの花。寺井戸で水汲みをしている少女たち。その化身のようなカタクリの群れ。短命ゆえに美しい花を詠んだ大伴家持の歌である。春早く眠りを覚ましたカタクリは、5月になれば清い花形を絶やしてしまふ。残された葉に実を付けたのち、木々が緑の衣装を広げる頃に、姿を消して眠りにつく。

自然破壊を受けやすい大阪近郊の山で、いまなおお生のカタクリが見られる葛城山は貴重な山域である。春の草花が開けば、林間には春の女神と呼ばれるキフチウが舞う。



孝女伊麻の碑

の花。舗装の林道脇には露地栽培のキク畑が見られた。
林道の到達地は南阪奈道の葛城インター付近である。大峰山系や奥高野の山域に出かける時、美原から南阪奈道に乗り継ぎ葛城インターで降りる。この場所まで歩いて来たことでより懐かしい。高速道路をまたぐ歩道橋を渡り、花を供えた地藏堂に出会う。



自然研究路入口

自然研究路には、葉の若芽を食用にするリョウブも目立つ。ウツギは雪色に円錐状の花を付けている。コナラは黄色い繊細そうな花房、ウリハダカエドはお洒落な花かんざしを垂らしている。ツツジ類では、紫のコバノミツバツツジは散り始めたが、紅色のヤマツツジは山上のものより開いている。
自然研究路はいったん谷にくんだり、対

近鉄磐城駅を指して町歩きに入る。南今市の現徳寺の前に、「本朝二十四孝」の孝女伊麻の碑が立つ。現徳寺に運如上人お手植の松栢の霊木が保護されている。この場所から葛城山脈を仰ぎ見ることが出来る。岩橋山と岩橋峠と見える山の鞍部もうかがえた。
しろすみれ桜がさねか紅梅か
何につつまに君に送らむ
与謝野晶子が「晶子の名で、与謝野鉄幹の「明星」誌に、「花がたみ」の題で初めて発表した時の一首である。
わが二十町娘にてありし日の
おもかげつくる水引の花
泉州堺の旧家に生まれた与謝野晶子は、20歳のころの面影は水引の花であったと自画像を記している。泉州からすぐ側にそびえる葛城山脈は、晶子にとって日々見つめ話を交わした親しい風景であった。少女時代より、心の親として胸に抱いた葛城山に、晶子は育てられたといえよう。与謝野晶子が世に出た、処女歌集「みだれ髪」には、「金色の羽をつけた恋のキュービッドは、ツツジを唇にくわえやつて来る」という歌がある。晶子の歌を掘り下げて理解するならば、紅のヤマツ

ツジにおおわれた葛城高原は、恋を仲介する場所になるのである。
金色の羽あるわらはつつじくはへ
小舟こぎくるうつつしき川
歌集「みだれ髪」には、生駒葛城の道を蒼笠姿で共に歩いた恋人に、恋の歌を無理強いし甘える晶子の歌も出てくる。
すげ笠にあるべき歌と強ひゆきぬ
若葉よ薫れ生駒葛城
恋に生き情熱に生きた与謝野晶子。その歌の原点は、「五月礼賛」の詩篇を開くまでもなく、若葉と花の季節に違いない。
人恋しくなった時には、恋をとりもつ天使が唇にすると、ツツジの葛城高原を訪ねてみたいのである。
(平成17年5月5日歩く)
AコースタイムV
葛城登山口青崩(40分) 水場(1時間) 葛城山(10分) つつじ園(15分) 天神社(自然研究路遊歩道周遊50分) ダイトレ道出合(30分) 葛城山麓公園分岐(1時間) 岩橋峠(1時間) 地藏堂(30分) 現徳寺保護樹(20分) 近鉄磐城駅
△地形図V2万5千〃御所・大和高田

岸を元来た方向に登り返す。谷から離れた遊歩道にチゴユリがたくさん群れている。顔を下に向け、お稚児さんというよりもはにかんだ少女のようである。少し高くなった斜面で白のイカリソウを見つけた。見慣れた薄紫でない白色のイカリソウが、日本海側でもない葛城山で咲くのかと不思議に思えた。
白色のイカリソウを見ている私に、通りがかった登山者が立ち止まった。山野草に詳しい人で「ヤチマタイカリソウですよ」と声がかかった。その人の話では、別名ソハヤキイカリソウとも呼ばれているとか、雙連紀要素をもつ植物であるという。中央構造線以南に自生する特徴的な花だとも教えられた。
春さればまづ三枝の幸くあらば
後にも逢はむな恋ひそ我妹
(巻十一一八九五)
『万葉集』に詠まれた三枝については諸説がある。ミツマタ説は、中国からの渡来植物で万葉時代に自生していたのか疑問が残る。率川神社の三枝祭をよほどこころにしたヤマユリ説は、ユリは夏の花なので異論がある。「古名録」ではイカリソウを三枝としている。和船の船形が

幸運星のようにも見え、春の幸せの花として、最も似つかわしいと思える。
自然研究路を廻る登山者に別れを告げ、遊歩道を離れてダイヤモンド・トレールへの道に登った。新庄町有林の学校山へみちびく道標に出た。「上山と横尾山」を結ぶ長大な縦走路を北に向かった。
味気ない植林帯の道だが、ツツジが時々目を慰さめてくれる。葛城山のツツジは、コバノミツバツツジ・ミヤコツツジ・ヤマツツジ・レンゲツツジ・モチツツジなどが次々に咲き競い、山地を花色に染めていく。
葛城山麓公園の分岐を通り過ぎ、持尾辻に来てひと息入れる。久保辻を過ぎ、石仏が置かれた岩橋(伏越)峠にたどり着く。階段を上り下りしたせいかわりに、膝の皿を割ってから、時々痛みが出てくる。岩橋山の頂きを見送り、当麻町へ下ることにした。
峠からの下りは、棧橋が架かる太田川源流の沢道である。この道にも花が多く想定外の展開を楽しめた。ヤマブキやキケマンの黄色い花、シャガやシャクの白い花、沢道を離れるとスモトリバナの紫

竜ヶ岳・静ヶ岳西面の

又川谷・大井谷・太夫谷

鈴鹿

長谷川 雅俊

行きたくてもなかなか行けない山域は誰にでもあるとは思うのだが、小生の場合、竜ヶ岳西面の又川谷・大井谷もその一つであった。

冬は石博峠を越えられない、春は花の季節で御池・藤原へ、梅雨時は次川林道の落石が恐くて入れない、台風もゲメ、秋の黄葉はすばらしいが日が暮れるのが早い……等々、御託を並べて行くことができなかつた。

しかし、今年は空梅雨で「行くのなら今じゃ！」急ぎよ茨川林道を走って丈治谷橋と茶屋川橋間の空地に0時11分到着。東の間の仮眠後、4時50分出発。茶屋川橋を過ぎたあたりから茶屋川へ降りる。

間もなく河原にカモシカの死体を見る。かなり大きなカモシカだったが、老衰か病気で冬を越せなかったであろう。不憫に思えておもわず写真を撮る。たまたしチャックリとツノはいただいた。

すぐに又川谷出合にたどり着く。入口は朝早いせいもあるが、地形図で思い描いていたイメージと違って何となく薄暗い感じだ。左岸に炭焼きの窯跡があり、S字状に曲がりその後へアビンのように折れていて、右岸がダイヤラのように良い雰囲気になってくる。

アカショウマの白い花を右岸に見つけた後、川の真ん中に針葉樹の原木が立っている（残念ながら小生は今だに杉と楡の区

又川谷の6号滝（左岸の袖道を高捲く）



別がつかない)。またもやメスジカの白骨死体を見送った後、5時43分に立派な窯跡にたどり着く。窯の中にもイノシシ？の骨が散乱している。野生動物の何%かが飢えや病気で冬を越せないことは頭ではわかっているのだが、実際に死体が目の前に横たわっているのを見るとやはり悲しい。

最初に又川谷出合に立った時には想像

もできない程の広い河原を抜け、左へ曲がり右岸に窯跡を見送ってから6時13分に白谷出合に着く。左岸の窯跡を過ぎ、6時25分に最初の滝にたどり着く。又川谷の滝といえばこの滝の写真が掲載されている。高度計は530mだったが無難に左岸を高捲く。また左岸に窯跡が並んで二つあり、4分程歩くともう一つあ



た。これだけ炭焼き窯が多いということは、この又川谷がいかに穏やかで、仙人がよく入っていたかがわかる。

次に出合った6号滝は真登できそうだったが、やはり安全のために左岸を高捲くと、うっすらと昔の袖道があった。当然仙人は滝の直登なんてしないよなあと思いつながりながら歩くと、続いて滝になっているのでそのまますま高捲く。

右岸から高捲くと、再び二又（右76度、左334度）が現れ、右俣へ行く。7時26分、635号で右岸に初めて住居跡のある炭焼き窯があった。さらに二又（右165度、左106度）に出合い、左俣へ進むとまたもや窯跡と住居跡があった。

8時2分に680号で10号滑滝を右岸から高捲き、右岸窯跡を過ぎると740号でまた二又（右113度、左14度）になる。右俣谷が本流、左俣谷が支流である。地形図で確認しながらコンパスをチェックすると、ちょうど真ん中の尾根を指している。うーん、どうしよう？ 気分的にはやはり本流である右へ行くこととするのだが、あせらずにオニギリを頬張りながらじっくりと地形図を読む。



大井谷乗越の二重山稜の池

乗越にピッタシカンカンで到着。ホッとすると共に最高の気分を味わう。
この池は竜ヶ岳・静ヶ岳間の二重山稜の間にある二つの大きな池なのだが、登山道から少し離れているので気づかずに通り過ぎる登山者も多く、いつも静かな佇まいを見せている。小生はどちらかというときオノコバの池よりもこちらのほうが雰圍氣的に好きである。

これで今回の山行目的はほとんど達成できたのでノンビリ気分です歩き出す。静ヶ岳へは立ち寄る必要はなかったのだが、とりあえず高度計のチェックに向かうことにする。

9時42分に静ヶ岳(1088.6m)に着き、高度計は1050mだったので1085mに修正する。少しガスっているが竜ヶ岳や御在所岳が白い霞のなかに眺められた。

一人でポツンと頂上においても手持ち無沙汰なのですぐに下山する。西尾根や静ヶ谷からくだるのが手取り早いので、せつかくなので未体験の太夫谷をくだることにする。

頂上からそのまま谷へ降りることも可能だが、やはり源頭部のセキオノコバからはなくってほとと、来た道を戻る。尾根をくだって行くので左手下にセキオノコバの池が見えたので道はずれて直接池に下り立つ。今年には空梅雨で、このセキオノコバの池にしろ先程の大井谷乗越の二つの大池にしろ本当に水が少ない。今年池だけを見ていると、はたして池と呼んでよいのか疑問に思うが、池守氏の池の定義からすれば、とりあえずモリア

オガエルの卵塊が木にぶら下がっているので、池と呼んで差しつかえないであろう。

このあたりを鈴鹿の大御所の西尾寿一氏はセキオノコバと呼ばれて景観を絶賛しておられるがまさしくその通りで、小生も大好きな場所の一つである。

10時13分に945mの太夫谷源頭部に到着。右岸斜面をトラバース下降しながらくだりかけたが、アッと言う間もなく滑落。途中で一度止まったが再び滑り出し、谷底まで落ちてしまった。幸い体に異常は無さそうだが、落ちる瞬間に草をつかんだ右手の平がじんじんと痺れている。皮が破れて肉が飛び出しているかも、おそろおそろと見ているが幸い何ともなくホッとす。事故はほとんど下山中に起きるから気をつけねば……。こんな谷で動けなくなったら誰も来ないから、今日出合ったたかさんの動物たちと同じ運命をたどることになる。

885mで左岸に最初の窯跡が現れたので、ここにも以前人が入っていたのだとわかってホッとす。860mで水が流れ出し、右岸にも窯跡発見。790mで麓下になったので左岸を大きく高捲く

が、先程の滑落のこともあったので、もしこから谷底に落ちたらどうしようとし細くなり、膝が震え出した。

またもや動物の骨が散乱しており、左岸の窯跡を通り過ぎてしばらくくだると、705mあたりで右岸が崩壊して、下たかさんの木が谷底に散乱している。下方に堰堤が見えたので降りて行くと真新しい(未完成?)堰堤で、作業道といつか捲き道もまだ出来ていない。コンクリート製ではなく、長方形の鉄骨を隙間を空けて横に並べてある構造なのでおそろおそろ鉄梯子のようによじ登って行ったのだが、上には何もなく反対側にアルミ梯子が架けてあるだけだった。降りる最中にこのアルミ梯子が倒れたら大変なので、近くにあってロープで堰堤と梯子の上部を縛り、覚悟を決めて降りる。10m以上はあったと思うがさすがに今回の山行で一番キモを冷した時で、全身に震えが走った。すぐその下にも堰堤が現れたが、これはほとんど埋まっていた。

そういえば、数年前に茨川の伊勢谷に入った時に、完成予定日の3日前だったのだが、三つあった堰堤の全てが、倒れた木で埋まっていた。百年前につくら

れたオランダ人デレーケの堰堤が今だに何の支障もなくあるのに、日本の最新技術でつくられた堰堤はすぐに埋まってしまう……。日本は本当に科学立国なのだろうか?

11時30分、640mでもメスジカの死体があり、第四堰堤を降りた所にも大きなからしてたぶんイノシシと思われる骨が散らばっていた。

この後、第五、第六堰堤まであり、12時18分、太夫谷橋の上にとどり着いた。これでとりあえず下界に戻れてホッとす。高度計は540mだったので515mに修正する。

しかし、この太夫谷にはガツカリした。まさかこんなにも多くの堰堤があるとは予想だにできなかった。もう二度と訪れることはないであろう。これなら南側の静ヶ谷のほうがよほどすばらしい。

ノンビリと林道を歩いて静ヶ谷橋を過ぎた所で、茶屋川に出会う無名の小さな谷でもシカの死体を見つける。まだ大人になり切っていない小さなシカで、頭が熱くなってきた。ふと右下の茶屋川を覗くと何と大きなシカも倒れているではないか! 早速河原に降りて見るとメスジ

カだった。このシカも冬を越せなかったのか、しばし合掌の後、再び歩き出し、丈治谷橋を過ぎた所の駐車地に到着。12時59分だった。(平成17年6月26日歩く)

△参考コースタイム▽

駐車場4・50―又川谷出合5・20―白谷出合6・13―最初の池6・25―6時池6・55―大井谷乗越二重山稜の大池9・13―静ヶ岳9・42―セキオノコバの池10・02―太夫谷源頭部10・13―第一堰堤の下11・14―太夫谷橋12・18―駐車場12・59
△地形図▽2万5千1:竜ヶ岳

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!



・小型 (20人・24人)
・中型 (28人乗り)
・中2階 (45人乗り)
・大型 (55人・60人)
いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市鴻池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

四季彩豊かな

雨飾山

中年4人組。梅雨の中休みが続く6月中旬、朝まだ暗き敦賀を4時に出発した。全国的に晴れという気象庁のお墨付きに、北陸の空は徐々に明るくなってきた。北陸道から富山の散居村を前景に錦・立山の雄姿が横たわる。

糸魚川インターで降り、**雨飾山**の温泉に着いたのがちょうど8時。支度後8時15分出発。前庭の一面に露天風呂「都忘れの湯」が、京都庭園のような自然木に囲まれてある。

ここで標高820㍍、雨飾山の高さは1963㍍、標高差1143㍍。標識に所要4時間とある。祠の鐘を叩き、役行

高島伸浩

上信越

者像に無事の下山をお願いして登り出す。

斜度のきつい溶岩ゴロゴロの道に足場を選んで進むとニリンソウの群生。アツそうか、ピンときた。「都忘れの湯」と名付けた理由が……。30分喘いで尾根に出た。樹陰で汗をぬぐう。

別尾根との間に幾筋もの雪渓が見える。尾根歩きに慣れてくると、春先の花にまじり、いろんな小鳥の鳴き声が聞こえる。特許許可局とホトトギス。ツーピービビビと四十雀。もちろんウグイスもあちこちで鳴く。小鳥さんを先生として鳴き方を真似る。よく見渡せば四季全ての風物詩が混在している。雪渓の冬。春は

ウジコウバカマの紫が濃い。カタクリたちは青年のように花びらをピンと反らせている。エンレイソウも清々としている。コメバツガザクラが道脇に群生している。

花に見惚れていると、目の前で細長いものがぐにゅと動いた。樹の根と間違っ

てつかまらなくてよかった。右前方を見上げると頂上に人が小さく動いている。早くあそこに立ちたいと思うが、まだまだ厳しい試練がまっている。

雪渓を横切ると、涼風が肺の中まで清



涼してくれる。雪を割ってシラネアオイやミスバシコウが顔を出したところまではよかった。「ウワーっきれいやー」「いいなー」と歓声がかり上げていた。

雪渓がだんだん厚く広がる。ふと見上げると、どこまでも続く長い雪の帯。少し上を何人か歩いていく。点々と足跡が続いている。「エーっこれを登るのー」「登れるかな?」、しかし登らなきゃ行けないし、こんなにも本格的な大雪渓とは思ってもしなかった。アイゼンも持ってこなかった。足跡や回みに足をのせ、一步一步慎重に登る。

「キヤッ」とT枝さんが滑落している。10㍍位で止まった。まだ登り始めて傾斜がゆるかったので事無きを得た。女房が「足がつった、ちょっと待ってメ」と訴える。上を見ると終わりが見えず延々と続く。とても2人には無理だと思い、「下山せよ」と上から指示するが、おさまったらしくポチポチついてくる。スプーンカットでキックすると顔に雪がピチャッと冷たい。靴の中にも入ってくる。まだ300㍍もあるのか。

どうやら雪渓の終点が見えてきた。前

雨飾山山頂にて(左から2番目筆者)



いうまでもなく数々の花。この暑さに誘われて蝉がジージーと夏を思わせる。ナナカマドは秋に備えて白い花から甘いにおいを漂わせている。四季の彩りが全てある。

明え出したばかりの若葉が瑞々しく、思わず撫でてみる。雪結晶の天使たちが小躍りしているようなユキザサの花。低山ではとうに終わったイワカガミやシ

の人に追いついていっしょに登っていたら、女の人が「アッ」という声と共に滑落してきた。10㍍位下にいるご主人にぶつかると、ご主人が必死で止めようとしてみつかると止まらな。自分も一瞬奥さんの服をつかんだが、ぐと引張られた。つかみきれずに2人は滑落していく。これが最初かと奥さんの目付きが凄かった。シャツは捲れ上がり背中が雪に擦れて滑り落ちていく。「奥さん腹ばいになれ」と叫ぶが、見ているしかない。ようやく少しゆるい所で止まった。50㍍位滑ったか、同行のK氏の目の前だ。もう少しで彼も巻き込まれるところだった。

2人は放心状態。ご主人の眼鏡も飛んでいる。奥さんのストックと帽子を拾って放り投げてやった。この光景を見ていた女房たちは、「こんな恐ろしい所はもうかなん。帰りは小谷の方へくだる」と言う。

ひと騒動の後、5分もしたころ、さらに女の娘が「キヤッ」と叫ぶ。見上げるとまた滑落してきた。2㍍程横だ。今度は手が届かない。必死に「腹ばいになれ」と叫ぶ。滑りながら腹ばいになる。灌木のなかに突っ込む。「枝をつかめー」

山歩き & ウォーキング 総合カタログ

2006年3月 ▶ 2007年3月

完成しました! **送料無料**

お電話・FAX・お手紙
ホームページから **ご請求ください!**

山歩き & ウォーキング (年間・総合カタログ) ▶
国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した
総合カタログ。オールカラー! 写真も満載!

初心者のための
山歩教室
パンフレット▶

山歩き初心者の方集合!
お一人からでも気軽にご
参加いただけるプランで
す。ゆったりとした行程で
山歩きを楽しみましょう。



高山病対策&高所登山はこれで解決!?

低酸素室設置!

●利用料 (1組/3時間) **¥2,700**

「低酸素室」とは、人工的に高所環境をつくり、高感度センサーに耐性することを目的とする装置です。設定高度も3000m~4000mに調整することができます。初めて国内・海外の高所登山を目指している方、山岳会やグループでの高所登山を計画されている方もお気軽にお問い合わせください!



① まず低酸素室に約30分間入ります。
② 次に低酸素の状態でも、心拍数と血中の酸素飽和度を監視しながら、自問自答を繰り返して30分間トレーニング。
これで終了です。できれば室内に酸素を上げながら休憩にわたっての使用が可能です。

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社
アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amtose@amuse-travel.co.jp
06-6456-3366 FAX **06-6456-3377**

と叫ぶ。女の娘は杖をつかみそこで止まった。そのまま恐怖でうずくまっていた。連れの男性が駆け下りる。幸いカスリ傷ですんだ。K氏はこれも目撃。男ではあるが「下りはよう下りん」と小谷側への下山を決意する。

三件の滑落シーンがあり、高山植物に心ウキウキの気分は吹き飛んだ。ようやくとみな道い上がってきて一段落。滑落事故の話はひとしきり。いやこの話はいつまでもほとぼりが冷めず続いた。

小谷側との分岐に乗り越し、笹平を頂上に向かうと、シラネアオイ・ハクサンイチゲ・ミツガシワ・シナノキンバイなどに囲まれて、大勢の人がそここに弁当を広げている。雨飾山は花飾山でもあった。

目の前に立ちほかかる頂上峰を、蟻のように登っているのが見える。我々もその中にまじって頂上に着いた。つい登頂!

「あまかざり」、そのネーミングと百名山に魅かれて頂上に立った。成功を祝って五体の石仏の間から四つの顔を出し記念写真。

霞んではいるが西に朝日岳、白馬は少し雲のなか。南にすくくと頭を出す高妻山、そして東近くに妙高・火打山が魅力的な鋭峰で誘う。北は糸魚川市の後方に日本海が広がる。

「喉元過ぎれば何とやら」で怖さも忘れ、360度連なる高名な山々をオカズに昼食とする。双耳峰といえども2等三角点の東峰は50分も離れていない。再び妙高・火打をバックに記念写真。

「もう絶対死んでも下りん」と、登ってきた大雪渓をやめて小谷側へくだる3人。自分は車へ戻らなければならぬので登ってきた大雪渓へ下りる。雪渓頭部で数人のグループがアイゼンを着けている。自分は何もない。ストックと経験だけが頼りだ。自信があるわけではない。登りは目の前の一歩一歩だが、はるかな下まで続く雪渓が目に入る。下山で一歩間違えば滑落である。精神的に固くなつて体がガチガチになってしまふ。しかし、落ち着いてバックキックでシャッシャッとリズムをとれば下りは速いもの。上りは4時間15分かかったが、下りは1時間40分であった。

「都忘れの湯」にも入らず、小谷温泉へ車を走らせること1時間。約東の山田旅館の玄関先には翌日の登山を前に登山客が右往左往。しかし、3人は見当たらない。少し上の無料露天風呂かも知れないと探すがいない。しからば、と登山口まで走る。登山口広場も翌日に備えて何台も駐車してある。しばらく待って何氏が「地獄に仏」とばかり手を振って下りてきた。しばらくして後の2人も下りてきた。「これで生きて帰れる」と思ったと言う。

3時間15分かかっている。所どころに雪渓横断、高い岩場の下り、ぐちゃぐちゃの道などがあり、かなり難儀したようだ。

16時50分、地獄極楽の雨飾山を後にして無事到着に着いたのは21時30分であった。その後4人が顔を合わせれば大雪渓滑落事件で盛り上がったのである。しかし、もう誰も二度と行こうとは言わない。(平成11年6月12日歩く)

▲コースタイム▼文中を参照
△地形図▼
2万5千 越後大野・雨飾山

新ハイ関西88号

標高△△88mの山

天ヶ岳 (788 呎) 京都北山
 大座礼山 (1588 呎) 石鎚山系
 雲母峰 (888 呎) 鈴鹿山脈

天ヶ岳

愛宕山と比叡山を別格にすると、私が登った最初の京都北山の山が天ヶ岳だ。高校一年生時に長兄に連れてもらって登った。その記憶をたどって3年後に初めて1人で山に登ったのも天ヶ岳だ。だから天ヶ岳には特別の親しい思い入れがある。現在は樹木が育ち、当時より展望は悪くなっているが、印象的な名前も手伝って平凡な山にしては繰り返し登りたくなる山だ。

が、小出石よりシヤクナゲ尾根を登ればずいぶん奥深い山との印象を得ることだろう。(平成4年9月12日歩く)

▲コースタイム▼

花背峠(1時間) 滝谷山(2時間30分) 陸地谷経由百井(1時間) 天ヶ岳(2時間) 栗王坂経由鞍馬

▲地図▼昭文社「京都北山」

大座礼山

2002年より年一回の割合で四国の山へ行っている。4年連続の四国行き最初の山行時に大座礼山に登った。まず剣山系の美しい三角錐形の天狗塚

た天狗塚や筒上山の美しい紅葉の風景には出会えないなあと思いつながら井野川越へと登っていった。

ところが、井野川越から稜線をしばらく進んだ時だった。突然、巨木という言葉がびつたりと出会ったのである。続いて何本ものブナが林立している広い尾根道を進んだ。35°広角レンズでは到底入り切れない圧倒的な存在感があった。紅葉の最も美しい時で、日の光を受けてまばゆく光り輝くブナの巨木の山稜は、極めて高貴な異空間だった。

そのあとの頂上への往復が、このほどど付け足しだった山は他にない。連休の快晴の日だというのに、登山者もそんなに多くなく、立て礼とか開いとかもなかった。それがまた好印象の要因となっているかもしれない。

(平成14年10月14日歩く)

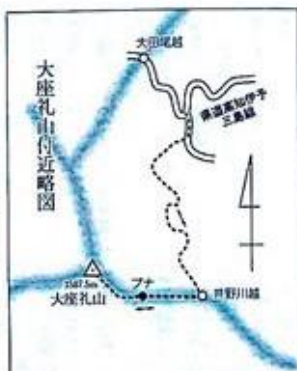
▲コースタイム▼

県道高知伊予三島線・大田尾越の東500 材林道三叉路(2時間) 大座礼山(1時間30分) 車止

▲地形図▼2万5千±土佐小松



大座礼山の巨木ブナ林



雲母峰

山の会のメンバー4人で出かけた。金谷不動の前を通り、その奥の滝谷不動の前で車を止める。

谷沿いのかかなり暗い植林の道を進む。6月の鈴鹿、それもじめじめとした谷道、暗い道。来てはいけない所に来てしまった。姪だ。すぐに4人の足首などから血がにじむはめとなった。これまでに何度か遭遇しているのに、また身を投げ出すようなコースを選ぶとは。

できるだけ林道を歩こうと衆議一決して、6月の暑苦しい林道歩きを選んだ。蛇行しているから長かった。伊勢平野が一望できるはずだったが、その日はどんよりとしていて視界が悪かった。どんよりとはしているが鈍い光が暑かった。姪の攻撃から逃れることだけが救いの行程だった。(平成12年6月11日歩く)

▲コースタイム▼

滝谷不動(2時間30分) 大部分が林道歩きで雲母峰(1時間50分) 往路を車止

▲地図▼昭文社「霊仙・伊吹・御在所」

岩稜帯続く花の縦走

硫黄岳・横岳・赤岳へ

八ヶ岳

田中 明

近年、花旅をすみかとする私は、片雲の風にさそわれ、山旅へのあこがれをいつも抱いている。

この年も梅雨入り宣言はあったが、空梅雨の様相を呈していた。ヒートアイランド現象の表れだろうが、植物達への影響はもちろん、自然界全てに大きな悪影響をおよぼすのは否めない。

花巡り山行には空梅雨がうれしい助けとなり、高山植物の宝庫である八ヶ岳へ、大満足の登頂を成し遂げたのである。

長野・山梨両県にまたがり、南北約25キロ東西約15キロにも及ぶ八ヶ岳連峰は、北部と南部では景観が異なる。四圍に広がる雄大な展望は八ヶ岳ならではの魅力で

あり、登山の手軽さとあいまって、その人気は衰えるところを知らない。

今回、我らは八ヶ岳南部の、砂礫と岩稜帯のアルプス的な山岳景観をつくる硫黄岳・横岳、盟主赤岳を踏破した。

いつものJR青春18きっぷでなく、今回は貸し切りバスを利用した。夜行のバスに揺られ一睡もできず、早朝に美濃戸口へ降り立った。人気の山域に22名での山旅はさすがに多過ぎる。

美濃戸口の八ヶ岳山荘前にはあどけない顔の学生たちがいて、静けさを破るほどの大声を出し、これから登る八ヶ岳への興奮を押さえ切れなっている。静まり返る大自然のなかでの彼らの振る舞いは、

を掻き分けて我らを追い越して行く。メンバーの中には早くも遅れがちな人が出てくる。平坦と聞いていいほどの林道歩きで遅れるようでは先が思いやられると心配しながら、美濃戸山荘に1時間で到着した。

ここは柳沢の南沢と北沢との分岐点になっている。この小屋でも、登山口の八ヶ岳山荘と同じく、登山者にお茶を振舞っ

てくれる。赤岳頂上直下の天望荘と同じ経営で、もてなしの心を熟知している。手前二軒の山小屋には誰一人登山者の姿は見えないのに、ここには多くの姿がある。小屋の人氣がわかるとういうものである。

小屋前のコマガダケスグリ・ウラジロヨウラク・オオヤマフスマなどは普段あまり目にしないので珍しさもあって、早速カメラタイムだ。

北沢林道を進むと満開のカエデ科オガラバナが多数見られる。残念ながら高木のためカメラはつらい。

赤岳鉱泉までの2時間の道のりもなかなか楽しい。クルマバツクバネソウ・ミヤマエンレイソウ、とりわけ針葉樹林帯でオサバグサがずつと超満開で見られ、加えて大同心の雄大な姿にも励まされながら、赤岳のピークが見える赤岳鉱泉に到着した。

天候に恵まれ、今晚の宿の赤岳天望荘もくっきりと見える。ここでゆっくり休憩とした。「まだですか?」との声も出るほどの一服、これからの長い登りに備えたのだ。「さあ、12時には硫黄岳に着きたいので歩きましよう」と声をかける

横岳から見る赤岳



断片的しなければならぬものがあろう。我らのメンバーは不眠で食欲もない顔が並んでいるが、何とか腹に詰め込んで林道歩きをスタートした。

ベニバナイチヤクソウ・レンゲツツジ・アイツシモツケなどはもう終わりだろう。でもシロバナヘビイチゴ・ツマトリソウなどは満開である。

登山者の車が引きも切らずに狭い林道

と、「長いですねー、そんなにかかるんですか」との声。当然のごとくスタートした。

赤岳鉱泉から大同心を見上げながら、ジョウゴ沢からは次第に針葉樹林のなかなとなり、どんどん高度をかせいで長い長いジグザグ道を行く。ダケカンバの樹間から阿弥陀岳や赤岳を望みながら一本立てた。ミネザクラの別名のほうがよく知られるタカネザクラが薄ピンク色で可愛く咲いている。登山道のバレイリーナだと私は滔々と話した。可愛いヒメイチゲもあり、疲れを癒してくれた。

「もう少し頑張るとハイマツの恋人に出会えますよ」と話していると、キバナシヤクナゲがハイマツのそばで咲いている。急な登りもようやくヤマ場をこしたようだ。

右手に硫黄岳の絶壁が見えてくると、白砂斜面の小広い赤岩の頭に着いた。花好きな一同だけにすぐにミツバオウレン・ツガザクラ・イワヒゲなどを見つけ、興奮気味にデジカメタイムが繰り広げられる。だが、見てはほしかったウラシマツツジ・ミネズオウ・コメバツガザクラなどは、残念ながらほとんど終わりに近いよ



うだ。

岩礫を踏みながらようやく広い岩屑の硫黄岳到着である。手元の時計を見ると11時10分。あれ、12時着の予定だったがこれはピッチを上げすぎたのかなあ、などと考えていると、妙に頭が痛くなってきた。

12時までの大休止を告げ、食事の間もガンガン頭痛がする。高山病にかかったのだ。やはり、一睡もしていないツゲがきたのだろうか。赤岳鉱泉から標準タイム2時間を30分も早く歩いたようで、これらが重なっての高山病だろう。

大タルミの硫黄岳山荘でキジ撃ち後、サプのIさんにトップの交替を依頼し、一番最後を囁きながら歩くという大失態となってしまった。

横岳を過ぎたあたりで何とか頭痛薬が効いてきたものの、高山植物の核心部では可愛いウルップソウやツクモグサのお花を見て声が全く出ないありさま、メンバーの方々には大変な迷惑をかけてしまった。

岩稜帯には矮小低木のイワウメ・イワヒゲなど、高山植物の世界が繰り広げられている。一方登山道には網目状の鉄板

が渡りに付けられたり、鎖場やハシゴも繰り返されるなど、緊張がどこまでも続く。小さなピークの二十三夜峰をくだり切った鞍部から登り返すと、暮末頃に修行僧によって祀られたという地藏仏が西向きに鎮座している。このあたりまで来るともう本日の稜線歩は終わりである。

5分も歩けば今夜の宿、赤岳天望荘がそこに待っている。歩いて来た岩稜帯のピークが鋸歯のように突き上げている横岳などを振り返り、よくもこれだけの難路を歩いて来たものだ、自らを褒めているのであった。

「日照りが長く続いているから、たぶん風呂は駄目でしよう」と言いながら歩いて来たのだが、小屋に着くと、「お疲れでしょう、さもお風呂はすぐにでも入れますよ」と、今年からの新オーナーのやさしい声にびっくり。3000以上に程近い山小屋のお風呂だ、多くは望めないがザブンと汗だけでも流せたことは大きな幸せであった。

前オーナー同様、福田新オーナーも岩稜に咲くお花たちを、スライドなどを交えて紹介してくれるのを期待しよう。

コルで、目の前にはだかの中岳への小さな登りを見て一本立てた。

息を整えた後、ミヤマシオガマ咲く岩砂の道を一気に中岳の狭いピークに立ち、緊張した赤岳の狭い岩場帯を振り返りながら、誰ともなく「あそこを降りてきたんだね」との声に頷く顔が暗れやかだ。

下山予定の阿弥陀岳から御小庵尾根コースは長いばかりで、とりたててのお花も無い。まして「20名の大人致なら止めべきだ」とのオーナーのアドバイスもあり、行者小屋にくだり、柳沢南沢コースを下山することにした。

若い登山者の通過を待って中岳コルから行者小屋へくだる。「カメラはしまっ



ウルップソウ



ツクモグサ

美濃戸山荘直前では、「サルナシだ、いやマタタビだ」などと、ここまで来れば樹花の同定も賑やかだ。葉の色はまだ白ばかりであり、紅色に変わっていないかった。薔の色からおそらくミヤマカタビだろう。ミヤマハンショウヅルもきれいに咲いていたが、ミヤマザクラが咲き終わっていたのは残念だった。美濃戸山荘で昼食後、キバナノヤマオダマキやヒレアザ

夕食もなかなかの美味である。土曜日で1000人程がこた返していたが、まずまずの山小屋であった。

日の出を期待したが雲がとれなかった。赤岳に向けて出発。すぐにオヤマノエンドウ・ハクサンイチゲなどのお花畑が広がる。

岩屑のジグザグ道で鎖場を過ぎれば頂上小屋のある北峰到着である。

みんなが揃うのを待って、待望の1等三角点埋まる赤岳2899mに登頂成功。八ヶ岳の峰々の眺望はもとより、南アルプスまで薄っすらと見えていて飽きない。

思い思いに記念撮影を済ますと、南方側にくんだり、狭い岩場を下降すると右に曲がって鎖場だ。声をかけながら慎重に進み、キレット方面を左に見送って小石でガラガラの下り道をどんどんくだる。

文三郎尾根の指導標あたりでは行者小屋が箱庭のように俯瞰できた。あの小屋でランチにしよう。緊張する下りを無事通過したので、みんなの顔はほころびがちであった。さらに下降し、中岳のゆったりとした

ミなどをデジしながら超ゆっくりで美濃戸口の八ヶ岳山荘に着いた。

バスに乗り、途中の「もみの湯」で花旅の汗を流し、再訪を胸に八ヶ岳に別れを告げた。

(平成17年6月24日〜26日歩く)

▲参考タイム▼

- (24日 晴れ) JRR京都駅22・50(バス)
- (25日 晴れ) 諏訪南インター3・30(バス) 美濃戸口3・50(飯眠) 5・00(朝食) 5・45-美濃戸山荘6・45(7・00-赤岳鉱泉9・05(30-赤岩の頭10・45-硫黄岳11・10(昼食) 12・00-硫黄岳山荘12・15(40-横岳13・35(45-大権現14・10-二十三夜峰14・55(地蔵仏15・05-赤岳天望荘15・13(泊)
- (26日 晴れ) 小屋5・40-赤岳6・05(30-中岳7・30(50-コル8・02-行者小屋9・00(20-美濃戸山荘11・25(昼食) 12・10-美濃戸口13・33(バス) もみの湯14・00(入浴) 15・10(バス) 諏訪インター15・30(バス) 京都駅19・50(解散)

△地図▽昭文社「八ヶ岳」

新ハイ例会自然観察山行

戸隠表山

戸隠連峰は、戸隠山を中心とする表山と連峰最高峰の高妻山を中心とする裏山として西岳とに大別される。

高妻山は2004年に12人で歩いたが、戸隠表山は、2003年に計画したものの、当日が雨のため、宿泊先ペンションオーナーの助言にしたがって黒姫山に変更、翌2004年の10月に再計画したところ、台風接近のため中止したといういきさつがある。そして、2005年6月いわば「三度目の正直」で計画したのである。私はこの戸隠表山の山行に、いつもの例会山行とは別の期待を抱いていた。

ペンションのオーナーは、ペンション

鷺見守康

北信

経営の一方で、戸隠の山岳ガイドとして、かつ、戸隠遭難対策協議会救助隊長としても活躍していた。そのオーナーをわれらがパーティのリーダーとして迎えることとなっているのだ。

私は山岳会に所属したこともなければ登山の講習会に参加したこともない。要は自己流の山歩きで過ごしてきたのだが一度、登山プロのリーダーと山を登ってみたいと考えていた。そんな望みがやっとな実現する。しかも、こちらの計画に合わせて歩いてくれるのだ。

「岩場の苦手な方はご遠慮ください」という断りを入れたため、戸隠山行への

予定額を下回った。

JR岐阜駅を夜の22時に出発し、一路戸隠村へ。今回は、夜中にペンションに到着し、仮眠することになっている。本来なら1・5泊の料金を請求されても仕方ないところだが、1泊2食に朝食をもう一日分プラスした料金で対応してくれた。

翌朝の午前3時にペンション着。ペンションは静まり返っていたが、玄関はオープンで灯火がつけられ、壁の張り紙に部



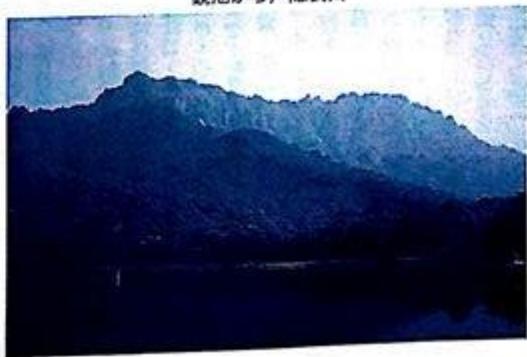
屋割りの案内があった。全員しらずと指定のベットで寝入った。朝6時頃には起床し、食堂に入ると馴染みのオーナー家族の顔があった。

2003年、戸隠連峰への山行を思い立ったとき、夜行着後の早朝の食事を引き受けてくれる宿を探した。そして、朝4時の朝食を苦もなく承諾してくれたのが、このペンション「アゼリア」であった。清潔な館内と親切な対応に引かれ、宿泊するのは今回で三度目である。

朝食後、私たちのレンタカーとオーナーのワゴン車の二台で出発。まず、下山口のキャンプ場駐車場にオーナーのワゴン車を配車し、登り口の森林植物園駐車場に走った。

駐車場から、オーナーはリーダーとして先頭に立ち出発。私はサブ・リーダーとして最後尾についた。当初の参加予定の20人で蟻の戸渡りなどをどう通過するか、そんな相談を持ちかけたところ「私がいっしょに行きましょうか」ということになった。とは言うものの20人規模である。本来なら、3人ほどガイドが付く人数なのだが、他にガイドを依頼するとなれば、正規の料金が必要になって

鏡池から戸隠表山



申し込みハガキは少なく、観光バスを借りるには予告の費用を値上げせざるを得ない事態となってしまった。そこで、増額の旨を説明し、改めて参加希望を確認したところ、最終的に8人になった。

8人では観光バスの利用は無理。10人乗りのレンタカーを使用し、Nさんと私と交代で運転することとした。レンタカーの使用により、結果として費用は当初の

しまう。オーナーが1人で私たちをガイドしてくれることになったのは、オーナーの配慮である。結果的には8人という手頃な人数となり、オーナーもやりやすそうだし、小人数のパーティだから私たちも個人山行のような和やかな雰囲気であった。

戸隠神社奥社の樹神門から、スギの巨木が立ち並ぶ参道を行く。このあたりからすでに深山の野草が姿を見せ、ラン科のショウキランが咲いていた。

オーナーは、山岳ガイドとしてはばかりでなく、自然観察のガイドとしても活躍している。花や野鳥のさえずりについて解説が始まる。ところが、水辺でミソサザイのかん高い複雑なさえずりを聞いたとき、オーナーが「カワスズメ」だと説明したため、メンバーから次々と質問が飛び出した。私はミソサザイの方言だろうと考え「ミソサザイのことですね」と取めようとしたものの、「いや、ミソサザイとは違います」との返事で、話はさらにややこしくなってしまう。この日、ペンションに帰ってから、オーナーが図鑑を持ち出してきて「カワガラス」との違い、ミソサザイとの関連など、ひ



八方睨にて

オーナーのアドバースにしたがい、メンパーは尾根をまたいで進んだ。剣の刃渡りからひと登りで八方睨だった。表山ではもっとも見晴らしいいいポイントだ。梅雨期だから、大気は水蒸気を含んで霞んではいないが、予想外の好天に恵まれた。北アルプス、高妻山、飯綱山、西岳、妙高山や雨飾山などの信越の山々の展望がすばらしい。とりわけ、高妻山の秀麗な山容は圧巻であった。20分ほど休憩して出発。アップダウンはあるものの快適な尾根歩きで花も多彩だ。お花畑というような規模の群落は見

から鋭い声が飛ぶ。上から見下ろしているオーナーの表情は厳しい。岩を登るメンパーの一人一人を自分守っていたオーナーは、最後に私が取り付くと、ブイッと横を向き、さっさと出発していった。幅50cm、長さ20cmで、両側に切れ落ちたナイフエッジだ。「驚見さん」と呼んで、オーナーはどうするかと身振りでも聞く。蟻ノ戸渡りをそのまま進むか、それとも捲き道にするか、現場で決めようということになっていた。メンパーから不満が出るかと思ったが、私は手で右方向を示した。捲き道である。コースの状況から見て、蟻ノ戸渡りを登らなければ充実感を得られないようなものでもない判断したのである。

そんな私たちのすぐ背後に青年が追いついており、どちらを行くのか迷っていた。「正規のルートはこちらですよ。四つ足で行けば大丈夫ですよ」と私が蟻ノ戸渡りのほうをすすめると、首肯して、その通り四つ足で進んで行った。次は「剣の刃渡り」である。ここは捲き道は無いが距離は短い。バランスをとってテンポよく歩けば怖くもないのだが、当たらないが、ベニバナイチヤクソウ・ミヤマハンショウヅルなどの深山の花、ハクサンイチゲ・ミヤマオダマキなどの高山の花と、驚くほど種類が多い。花が出てパーティも賑やかになる。メンパーには花への関心が高い人が多いので、オーナーの説明にも一つ一つ感嘆して首肯するような「素直な生徒」の雰囲気はない。むしろ、花の名前を先取りして言ったりするなど解説する側にはやりにくい相手だ。オーナーは「説明することがない」と苦笑するしかない。私は黙って聞き役に回っていたが、一歩不動からの下りの沢で、オオバミノホオズキの群生をオーナーがオオバキスミレと説明したときには急きょ「解説役」となり、あえてオーナーに「間違え」を指摘した。植物名が違っていたくらいで事故を招くわけでもないし、間違えをいちいちあげつらうのも好きではないので、ふだんから私は他人の説明にはあまり口を挟まないようにしている。けれど、オーナーは自然観察のガイドでもあるので、これだけの群生を今後も間違えたまま説明するのはまずい、と考えたのだ。

△参考コースタイム▽
 (24日 晴れ) 岐阜駅22:00(車)
 (25日 晴れ) 越水ヶ原ペンション3:00(仮眠・朝食) 6:30(車) 戸隠神社奥社入口6:45~50 | 奥社7:30~40 | 百間長屋8:35~45 | 八方睨10:05~25 | 戸隠山10:35~九頭龍山11:20(仮眠) 12:00 | 不動13:05~15 | 戸隠キャンプ場14:45~15:10(車) 鏡池(車) ペンション15:50(泊)
 △地図▽昭文社「妙高・戸隠」



蟻の戸渡り

としきり野鳥談義となった。7時30分、奥社の登山口に到着。社務所の手前から本格的な登山道となる。オーナーのペースは注文通りゆっくりで、段差はあるものの歩きやすく、1時間後には百間長屋に着いて視界が開けた。梅雨の晴れ間で見通しがきき、快適な登りと言いたいところだが、気温が上がって、ヒートと虫がまとわりついて閉口する。「虫の活動が活発な時期だから仕方ないですよ」とオーナーは涼しい顔である。百間長屋から最初の鎖場に至り、戸隠表山の核心部となる。オーナーから岩登りの注意があり、1人ずつ岩に取り付く。天狗ノ露地を過ぎて胸突岩の長い鎖場を登る。「体を岩から離して」とオーナー

から鋭い声が飛ぶ。上から見下ろしているオーナーの表情は厳しい。岩を登るメンパーの一人一人を自分守っていたオーナーは、最後に私が取り付くと、ブイッと横を向き、さっさと出発していった。幅50cm、長さ20cmで、両側に切れ落ちたナイフエッジだ。「驚見さん」と呼んで、オーナーはどうするかと身振りでも聞く。蟻ノ戸渡りをそのまま進むか、それとも捲き道にするか、現場で決めようということになっていた。メンパーから不満が出るかと思ったが、私は手で右方向を示した。捲き道である。コースの状況から見て、蟻ノ戸渡りを登らなければ充実感を得られないようなものでもない判断したのである。

オリジナルザック & 登山用品専門店

◆ワオーキングライト◆

神戸ザック
<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

クライミングからハイキングまで使えるシンプルなデザイン。トップとフロントに大型のポケット、両サイドには、ストック等の収納に便利なワンドポケットを装備。軽量化と機能性を追求した日帰りから一泊用のノンフレームのNEWザックです。

☆25☆

- カラー フル×ネイビー・レッド×ネイビー・ワイン×ネイビー・オレンジ×ネイビー
- 重量 820g
- 素材 ナイロン・リップ
- 価格 ¥10,500

イモック山遊行くらぶ
 5月14日(日) 横尾川源流の夜叉ヶ池と三ツヶ岳
 6月18日(日) 岡山県アルペンロードの和気富士と神ノ上山
 詳細はお問合せ下さい。
 イモック 7年です!!

IMOCK.
 KORE
 〒853-0039 神戸市東灘区日島町1番30号
 カナヰビル2F
 TEL (078) 621-5851
 FAX (078) 621-3528
 営業時間 10:00~20:00 日曜日不営業

栃生口から黒谷に到る

ホトラ山北北西尾根から栗木田谷へ

比良

小山 誠次

平成17年6月26日、すでに梅雨入りしたというものの空梅雨で、本日の降水確率は京都府では午前・午後共0%、滋賀県でも午前0%、午後10%なので、筆者の足はやはり比良山に向いてしまう。

本日の予定は、栃生口でバスを降り、ホトラ山北北西尾根(シン谷南方尾根)を登高することである。7時45分出町柳発朽木学校行きの京都バスに乗ろうと、「栃生口!」と告げて乗車券を買い求めた。すると、券売所の人が聞き返したうえで、「さらに「朽木栃生ですか」と尋ねる始末である。どうも登山客が栃生口で下車するのはめずらしいようだ。そういえば、昭文社の「比良山系」地図にも栃

生口は記載されていない。バス路線は朽木栃生、腰越、栃生口を経て村井に到る。

実は筆者も栃生口で下車するのは今回が初めてである。栃生口バス停車前でのみホトラ山北北西尾根の一部は警見できるが、地図上の判断だけで登高してみようと思いついたからである。

9時1分栃生口に到着し、たまたま出町柳から同乗していた、本誌でもお馴染みの秦泰夫氏ともここで別れた。

さて、下車して北方に2分歩くと、関西電力柳高島制御所栃生発電所に到った。右手山側には大きな送水管が設置されているが、栃生口で下車しなければ、発電

所もこの送水管も全然気にならなかったらう。

本日の取付点は全く手探り状態なので、そのまま北方に向かってシン谷に架かる橋まで行ったところ、何となく歩きやすそうな地道を発見した。これをたどりながら、たまたまシン谷の右岸に沿うシン谷林道を走行する車が目に入った。地図上ではすぐに終点になってしまはずだ

が……。一方、この地道もすぐ先で行き止まりとなってしまったが、古い棚田のような湿地のなかをやぶ潜ぎしながら、尾根の下端部に見当をつけて歩き出した。どうもわざわざ北方に向かう必要はなかつたようである。

たようである。

9時25分、少し寄り道をしてしまったが、いよいよこれからホトラ山北北西尾根を正面に見据え、磁石で南南東を確認しながら登高する。ここで標高2550付近である。少し尾根をたどると、

下端部は杉の植林地帯で、鹿による皮剥ぎ防止対策が徹重に施されている(写真!)。その見事なまでに整然とした斜面をたどることになり、徐々に急登になってきた。まだ身体が十分慣れきる前なので、いつものように急斜面をジグザグに登高するものの、実は足許は絶えず注視したままである。

というのも、一週間前に桑野橋から白倉岳に登ったが、ちよっとアブノーマル・ルートを経たためか、ヤマビルに両手各1ヶ所・背部2ヶ所を吸血されてしまったからである。不幸中の幸いか、途中でロングスパッツをチェックしたので、足周りだけは無事だっ

た。しかしながら、本日はまだその時の余韻が残っているのが敏感になっている。どうやらこちらのホトラ山北北西尾根にヤマビルはいないようだ。

さて、標高3500付近から4100付近にかけての急坂を経ると、登路上にカヤの大木とブナ・ミズナラに赤松がときに混在する初めての緩傾斜地に到った。ほぼ右手に自然林、左手に杉と檜の植林という植生である。ここで4分間休憩して9時54分出発した。

登路を注意して観察していると、ここから自然林と植林との境界辺りに古道跡を発見した。周囲より凹陥し、枯れ木が除去されることなく堆積し、時に根剥ぎの倒木も放置されたままである。しかし、尾根をずっと南南東方向に直登しているため、古道跡をわざわざ追求する必要はない。

10時23分、標高5550付近に達したところ、尾根の形状は特に変化しないが、枝打ちされない杉の植林が密生している場所に遭遇した。枝が邪魔して無傷での通行を妨げそうだった。ちよっと休憩した後、腕捲りしていた長袖シャツの袖を下ろし、肌身の露出を避けた。そのうえ、なるべ



(写真1) 整然とした皮剥ぎ対策の杉植林地帯



(写真2) ヒジキ滝

く植林の外縁を歩くようにも心掛けた。杉の植林はいつの間にか檜の植林に変わっているが、やはり枝打ちされないままである。10分間歩いて標高6100mに達し、ようやく難所を切り抜けた。

このあたりからは進路を南南東から南方向にとることになる。ここまで来ると、尾根上のピーク650が目前である。昭文社の地図でも特に標高点の記載は無い

が、周囲は疎林帯なのでよく見通せる。10時47分、ピーク650に到達した。後はこちらから1分歩いて、地蔵峠道がホトラ山北西尾根に乗って越す峠に到着した。標柱には、橋生にも地蔵峠にも2・1と案内されている。

ここで約10分間の休憩をとった。「このままホトラ山山頂まで登高する手もあるな」とも考えたが、それだったら後はコメカイ旧道(重峠道)か新道(イタワタ峠道)に行くしかないもので、やはりヒジキ滝を見て地蔵峠を目指すことにした。このルートの方がおもしろそうだ。

10時58分、腰を上げてワリ谷を目指す。このあたりの地蔵峠道は気持ちのいい山腹の古道然としたトラバース道で、13分後ワリ谷に到着した。何と水量の少ないことか。これも空梅雨の影響であろう。その1分後、道の谷側に立つ大木のトチノキの横を通過した。

ワリ谷から10分後、目前にヒジキ滝を捉えた。その手前の下りの斜面上の道は、明らかな崩壊跡でちょっと注意が必要である。ヒジキ滝は二段になって落ち込んでいて、ここからは途中の段上の様子や滝壺があるのかどうかも全くわからない

(写真2)。ヒジキ谷はさすがにワリ谷より水量は多いが、いつもよりは少ないはずである。そして、ヒジキ谷から先の山腹の山道を進む箇所は、地蔵峠道で最も難所である。ほんの数秒間、全体重を設置されている虎ロープに預ける必要があるからである。虎ロープはリスにしっかり打ち込まれたハーケンに固定してある。そして、ヒジキ谷を通過したばかりの谷側にも、大木のトチノキが無事の通行を見届けるように聳然と立っている。

ヒジキ滝から10分後、シン谷に到着した。古い標柱が半分倒壊しかかっている。ここで標高6000m。標柱にはシン谷と記されているが、ここから何回か渡り返す谷沿いの標柱には、全てシン谷と書かれているので、このあたりはシン谷の源流なのである。そして、地蔵峠道はやや不明瞭な登路となっている。

最後の標柱は標高6600mに立ち、地蔵峠まで0・5mと表示されている。踏み跡をたどるが、油断していると道を間違えてしまうので、全体の方向だけは常にチェックする。そのまま最後の登路から前方にチラホラ空が見えるようになり、

12時20分無事地蔵峠に到着した。

荷物を置いて、周囲を四本の松で囲まれたお地蔵さんに合掌する。そして2分後、標高7900mの地蔵山に到着した。誰もいない山頂で、昼食休憩をたっぷりとることにした。

当初はせいぜいおにぎり一個を食べるだけですぐ満腹感を覚えたが、時間の経過と共に空腹感を覚えるようになり、いつものカップラーメンに湯を注いだ。空は時々重なる高積雲が太陽を隠すが、間もなく薄雲に戻ってしまう。現在は気温26度で全くの無風状態。下界は31〜32度位だろう。聞こえるのは、複数の虫の羽音と飛行機のエンジン音のみ。どういふわけか、ここでは小鳥のさえずりは全く聞こえない。

本日はちょっと新しいことを試みた。

昨日、スポーツ飲料の粉末タイプを購入し、本日持参してきた。先程のシン谷で清流を1リットル汲んできたので、その粉末を溶解してスポーツ飲料を即製した。味はなかなかのものである。結局、下山までに本日は3・8リットルの水分と塩分補給をしたことになる。

1時間余の昼食後は北稜を南方に向けて出発。10分後は標高7700mの笹峠に到着。本日の下山路は、ここから改めて北方に1分間歩いた地点の北稜から右斜め下方に分岐する古道である。

分岐点付近は枯れ木が散乱しているが、少し先は大変歩きやすい溝状の道となる。この道にはもちろん全くマーキングは無い。また途中で数ヶ所の分岐点があるの

で一本道というわけにはいかない。特に、分岐路のなかで一ヶ所は、枝道と思われる方を選ばなければならないので、この点は要注意である。

それでも、全体の進行方向が南東を向いていることを確認しながら下山して行く。途中、道の脇には可愛らしいツルアリドリオンが咲いており、その先には花期を過ぎたばかりのフタリスズカが群生していて、踏みつけないように注意して進んだ。

すると突然、進行方向前方の木々の間に、人家の屋根かと思わせる均一な青緑色の風景が現れた。「こんな所に人家は無いはずだが……」とあって、その風景を凝視しながらさらに下山すると、何と鴨川を挟んだリトル比良の山並の色調が

新日本山岳誌

日本山岳会編著 菊判一九九二頁 上製
クロス装/函入り 一八九〇〇円

日本山岳会百周年記念出版。25支部頒布有余名が、全国約四〇〇〇の山へ実際に足を運び執筆にあたった、最新・最大の山岳情報事典。

世界の屋根に登った人びと

酒井敏明著 四六判並製 一八九〇円
ヒマラヤ、アルプス、アンデス、もう一つの「最高峰」チンボラソ……その登頂の歴史と人物をいきいきと描き出す。ノックアウト初登頂の貴重な体験も綴る。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161

均一化して見えたものだった。状況次第では道迷いの原因ともなる錯視である。分岐点から20分後、古道は手越谷の左岸に突き当たった。標高550m付近である。しかし、この風景には見覚えがある。そう、本誌78号「笹峠・ヨコタニ峠・シロク谷峠」で、笹峠に到達した平成15年10月4日の前、9月15日にたどった道筋である。その時は手越谷の右岸を行きつめて対岸に渡ったが、どうやら元々、この場所には手越谷に木製の橋が架かっていて、古道はそこを通っていたようだ。見れば、谷には崩壊した丸太が数本残っている（写真3）。



(写真3) 手越谷を渡る古道跡

代わりに、片足の幅だけしかない崖沿いの道が20分弱続いている。もちろん補助ロープの設置はない。注意しながら9月15日の再現となった道を慎重にたどることとした。

今たどって来た笹峠からの古道を知っていたら、平成15年9月15日に手越谷右岸に出合ったとき、もっと容易に笹峠に到達していたはずで、木製の橋の崩壊さえなければ、今でも比較的容易に黒谷から笹峠への山道となりえるであろう。どうもこのルートのほうが、本来の旧高島町側から笹峠への山道ではなかったかと、今になって考え直す次第である。

後はこちらから記憶に残るしつかりした山道を開き、造林公社の大きな看板を確認し、一部石のゴロゴロした箇所はあったが、たいがい問題はなくたどれる道を開く。そのまま行くと、本年5月28日以来の栗木田谷沿いの簡易舗装路に出合った。14時35分である。

さらに7分後には、標高310m付近の八瀬の滝道との分岐点まで下りて来た。ここからゆっくり歩いて、ウツボグサ・ヒメジョオン・チガヤを道端に見ながら、15時7分黒谷バス停に到着した。16時19

分発のバスまでかなり時間が余っている。本日の山行を反省しながら待つことにした。

本日は橋生口で初めて下車し、無事にホトラ山北西尾根（シシ谷南方尾根）をたどれたことも嬉しい。笹峠からの古道を注意深く追うと手越谷に行き着き、さらに黒谷にまで通じていることを再確認できたことも嬉しい。一重の喜びであった。（平成17年6月26日歩く）

▲コースタイム▼

橋生口バス停（2分）橋生発電所（8分）シシ谷川縁（14分）ホトラ山北西尾根下端（14分）急坂（11分）緩傾斜地（23分）枝打ちのない植林地帯（10分）緩傾斜地（10分）ピーク650（1分）地蔵峠出合（13分）ワリ谷（10分）ヒジキ滝（10分）シシ谷（15分）最後の標柱（17分）地蔵峠（2分）地蔵山（10分）笹峠（1分）古道との分岐点（20分）手越谷（5分）造林公社の看板（15分）栗木田谷道出合（7分）八瀬の滝道出合（25分）黒谷バス停

▲地図▼
昭文社「比良山系」（2003年版）

中国の山の思いで

タイザン ホワンザン 泰山・黄山

以前、あるツアーで中国に出かけた。団体旅行だから中国語を話す必要は全く無いのだが、会話集を構読みにして買い物等をしたら、案外と通じ、中国の人達と和むことができた。ひと言でも理解できると、中国人は喜んで応対してくれる。そこで、帰国後中国語に興味をもち、NHKや北京放送の中国語講座を聞いてみた。そうして次の旅行では、さらに言葉が通じ、楽しさが増した。

前置きが長くなったが、その中で、中国の名山を知ることになり、特に「大（泰）山鳴動して風一匹」の謎のある泰山。また、山水画のモデルともなった黄

生駒 聳 峰

中国

山の印象が強く残り、何とか登れないかと考えた。今では当地への団体旅行も可能だがその当時（二十数年前）は全く無く、個人で行くしか方法が無かった。

当時個人旅行の経験など全く無く、中国語も片言を少し習っているところで、とても会話などできる状態でない。しかし、登りたい願望は抑え難く、1人で行く決心をした。

当時はまだ若かったので、往復の航空券と「地球の歩き方」を片手に、サブザックを背負って出発した。中国では現地の入道が乗る汽車やバスを乗り継ぎ、いろいろなトラブルにも巻き込まれながら、何とか泰山の町に到着した。

泰山



泰山（標高1532.7m）は中国の五名山の一つで、中国山東省済南市の東南の山脈の中にあり、歴代の皇帝は神の山として参詣した。山中には多くの寺院や山門があり、参道の7400段の石段は世界一である。中国でも有数の観光地で、山には旅館や食堂があり、中腹の中天門まで車道がある。上部にはロープウェイが通じ、簡単に登ることができる。

均一化して見えたものだった。状況次第では道迷いの原因ともなる錯視である。分岐点から20分後、古道は手越谷の左岸に突き当たった。標高550m付近である。しかし、この風景には見覚えがある。そう、本誌78号「笹峠・ヨコタニ峠・シロタ谷峠」で、笹峠に到達した平成15年10月4日の前、9月15日にたどった道筋である。その時は手越谷の右岸を行きつめて対岸に渡ったが、どうやら元々、この場所には手越谷に木製の橋が架かっていた、古道はそこを通過していたようだ。見れば、谷には崩壊した丸太が数本残っている(写真3)。



(写真3) 手越谷を渡る古道跡

代わりに、片足の幅だけしかない崖沿いの道が20分弱続いている。もちろん補助ロープの設置は無い。注意しながら9月15日の再現となった道を慎重にたどることとした。

今たどって来た笹峠からの古道を知っていたら、平成15年9月15日に手越谷右岸に出合ったとき、もっと容易に笹峠に到達していたはずで、木製の橋の崩壊さえなければ、今でも比較的容易に黒谷から笹峠への山道となりえるであろう。どうもこのルートのほうが、本来の旧高島町側から笹峠への山道ではなかったかと、今になって考え直す次第である。

後はこちらから記憶に残るしっかりした山道をくだり、造林公社の大きな看板を確認し、一部石のゴロゴロした箇所はあったが、たいがい問題はなくなるとされる道をくだる。そのまま行くと、本年5月28日以来の栗木田谷沿いの簡易舗装路に出合った。14時35分である。

さらに7分後には、標高310mの八洲の流道との分岐点まで下りて来た。ここからゆっくり歩いて、ウツボグサ・ヒメジョオン・チガヤを道端に見ながら、15時7分黒谷バス停に到着した。16時19

分発のバスまでかなり時間が余っている。本日の山行を反省しながら待つことにした。

本日は栃生口で初めて下車し、無事にホトラ山北西尾根(シシ谷南方尾根)をたどれたことも嬉しいし、笹峠からの古道を注意深く追うと手越谷に行き着き、さらに黒谷にまで通じていることを再確認できたことも嬉しい。二重の喜びであった。(平成17年6月26日歩く)

▲コースタイム▼

栃生口バス停(2分) 栃生発電所(8分) シシ谷川縁(14分) ホトラ山北西尾根下端(14分) 急坂(11分) 緩傾斜地(23分) 枝打ちのない植林地帯(10分) 緩傾斜地(10分) ピーク650(1分) 地蔵峠出合(13分) ワリ谷(10分) ヒジキ滝(10分) シシ谷(15分) 最後の標柱(17分) 地蔵峠(2分) 地蔵山(10分) 笹峠(1分) 古道との分岐点(20分) 手越谷(5分) 造林公社の看板(15分) 栗木田谷道出合(7分) 八洲の流道出合(25分) 黒谷バス停

▲地図▼
昭文社『比良山系』(2003年版)

中国の山の思い出

タイザン・ホワンザン 泰山・黄山

以前、あるツアーで中国に出かけた。団体旅行だから中国語を話す必要は全く無いのだが、会話集を棒読みにして買い物等をしたら、案外と通じ、中国の人達と和むことができた。ひと言でも理解できると、中国人は喜んで応対してくれる。お陰で他の人達より旅行が楽しめた。

そこで、帰国後中国語に興味をもち、NHKや北京放送の中国語講座を聞いてみた。そうして次の旅行では、さらに言葉が通じ、楽しさが増した。

生駒 聳 峰

中国

山の印象が強くなり、何とか登れないかと考えた。今では当地への団体旅行も可能だがその当時(二十数年前)は全く無く、個人で行くしか方法が無かった。

当時個人旅行の経験など全く無く、中国語も片言を少し習っていると、とても会話などできる状態でない。しかし、登りたい願望は抑え難く、1人で行く決心をした。

当時はまだ若かったので、往復の航空券と「地球の歩き方」を片手に、サブゼックを背負って出発した。中国では現地の人が乗る汽車やバスを乗り継ぎ、いろいろなトラブルにも巻き込まれながら、何とか泰山の町に到着した。

泰山



泰山(標高1532.7m)は中国の五名山の一つで、中国山東省済南市の東南の山脈の中にあり、歴代の皇帝は神の山として参詣した。山中には多くの寺院や山門があり、参道の7400段の石段は世界一である。中国でも有数の観光地で、山には旅館や食堂があり、中腹の中天門まで車道がある。上部にはロープウェイが通じ、簡単に登ることが出来る。



泰山での人夫

当時私は1人旅で、ガイドも無く前記のことなど全く知らなかった。もともと最初から歩いて登るつもりだったが、折から車道は工事中で通行できなかった。天候はあまり良くなく、泰山の頭は雲に包まれている。しかし、雨の心配はなさそうである。ホテルからの道は紅門に到ると階段で行き止まり。周囲には杖・帽子・サングラスなどの登山用品から、りんご・お茶・アイスクリームなどの露店が立ち並び、大勢の人達が集まっていた。登山口というよりお寺の門前の賑わいである。

石畳の階段は4〜5分の幅があるのに、人を避けて登らねばならないほどの混雑である。

万仙楼で入山料を支払い、石段を登って行く。道の両側に露店は無いが、50分置きくらいに箱一つを抱えたアイスキャンデー売りが声を張り上げている。前も後ろも人で



泰山・黄山付近略図

万仙楼で入山料を支払い、石段を登って行く。道の両側に露店は無いが、50分置きくらいに箱一つを抱えたアイスキャンデー売りが声を張り上げている。前も後ろも人で

登山客はロープウェイに乗り継ぎ、歩く人は少なくなりましたが、荷担ぎ人夫が長い天梯で階段を塞ぐ、彼ら避けながら登って行くと、濃霧のなかから突然人が現れては消える。全くの夢の中である。

やがて霧のなかから大石の門が現れる。南天門だ。やっと稜線にたどり着いた。風が出てきて霧が流れる。雲の隙間から北アルプスのような風景が望まれたが、道はどこまでも石畳が続く、所どころに宿舎や食堂があり、露天商までが店を広げている。頂上は玉皇頂なお寺が占め、入場料を払って入ったが、霧のため全く展望が得られず、単なるお寺の境内で、頂上の趣は感じられなかった。山頂にはホテルもあり、1泊してこ米光を見ることも可能だが、この天候では無理だろう。お寺の坊主は厚い綿入れを着ている。Tシャツでは少し寒かった。展望台の岩の上で1人、青島ビールで登頂を祝った。下りは速い。急な階段を飛ぶように駆けくだる。次々と人夫が荷物を担いで登ってくる。包装の無い生の豚肉、生きた鶏を20羽も、茄子・葱などの野菜もあり、建築資材の鉄筋まである。あらゆる生活

用品が全て人の背で運ばれる。どれもこれも相当の重量があり、人夫の顔は苦痛に満ちている。

山はもちろん登山の山だが、お寺があり道路が通じ、全くお寺参りの感覚であった。

今や中国の発展は目覚ましく、もう歩いて登る人も少ないと思われるし、日本人観光客も減少には歩かないだろう。

泰山に別れを告げ、孔子の故郷の曲阜や、南京・揚州・鎮江・無錫・蘇州・杭州と、汽車・バス・船を乗り継ぎ、黄山に向かつて観光の旅を続け、数日後に登山口に到着した。

黄山は安徽省南部にある中国有数の景勝地で、奇峰怪峰が林立し、連花峰(1873m)・光明峰(1840m)・天都峰(1829m)が三大主峰である。

外国人専用ホテル桃源賓館に荷置き、ホテルの外に出て見ると、目の前に山水画で見た通りの見事な岩峰が夕陽に輝いていた。

翌朝まだ6時だというのに、橋の上には物売りが並んでいる。友達商店の横から登山口の階段が始まる。パラパラと登

埋まり、これでは方に近い人が山に登っているのではないかと思わせるほどである。道沿いの沢にはきれいな水が流れているが、所どころのトイレから汚水が溢れ悪臭が深い、聖山に登っている気が削がれた。

やがて道は徐々に勾配を増し、岩壁にはいろいろの銘文が刻まれている。それがあまりにも多くて、自然の風景が損なわれるのではないかと思うが、中国と日本の文化の違いかも知れない。

見上げる台地に建物が見え出すと、ロープウェイの中天門到着である。五〜六軒の旅館や食堂、露店も並び、ここでもアイスキャンデー売りが大声を張り上げている。彼らは2時間もかけて箱を担いで売りに来るのだろうか？ 上に来るほど値段が高くなるのも当然だろう。ここは山の中間地点である。腹こしらえをして登路を見上げると、急な階段は一直線に高度を上げて、峰は雲のなかに消えている。泰山に登ることは「天に登る」と言われるが、まさに道は天に消えている。荷を担いだ人夫が雲のなかに消える。全く天上に登る姿で、このような幻想的な光景を見るのは初めてであった。

る人達が集まって来る。登山者のザックを幾つも籠に入れて担いでいる女達が荷物を持つと言う。お茶やジュースも売られている。茲光閣で入場料を支払う。



●地下鉄二乗駅3番出口A'BOXへ450m 都営池袋線
●駐車場完備

中川光郎 写真展 「四季山彩」

2006年
4月22日(土)~4月27日(木)
10:00~18:00(最終日は17:00まで)

エイエムエスギャラリー
〒604-8425 京都市中京区御前通御池上ル A'BOX
お問い合わせはTEL:075-841-1470まで

プロラボ
エイエムエス
http://www.amsnet.co.jp/amsnet/



黄山にて

が変わり、あちこちの谷から霧が舞い上がる。晴れた時の景色とは一変し、岩峰を漂う雲が峰を包み、やがてうっすらと姿を現す。次々と湧き昇る雲は二度と同じ状態にならずに変化し、これが本当の黄山の姿かと、山水画の原点を思わせた。排雲亭の頂上の岩に腰を掛け、西海に広がってゆく雲海を眺める。西海・北海の海の意味がわかった。海とは即ち雲海であった。山頂に泊して十分に黄山を楽

しんだ。
翌朝は雲ひとつない快晴。空にはオリオンやオシオペア座が輝いていた。東の空が明るくなると、太陽は私達の視線の下の雲から顔を出した。真っ赤な太陽はたちまち黄金に輝き、ご来光の儀式は終了する。
下山である。登った道を蓮花峰に登り直し、玉屏楼にくだる。急傾斜の階段が200メートルも一直線に下降している。急坂は下りのほうが危険で、前につんのめりそうである。玉屏楼から登りに行かなかった天都峰に向かう。傾斜、60度?近い岩壁に階段が刻まれ、鎖の手摺が付いている。全くロッククライミングである。よくぞこんな所に道をついたものだ。緊張の連続で登った山頂は狭く、10人くらいのスペースしかない。下りを考えると落ち着いて景色も見えない。何しろこの狭い岩場の階段では登る人をお互いのが大問題。本道に取り付くまでに1時間以上も費やしてしまった。本当に怖い思いをしたが、特に山慣れしているとは思えない中国人が続々と登ってくる。しかも日常の生活そのままのサンダル履きであ

る。事故が起こらないのが不思議なくらいで、日本ならとくに通行禁止にされているだろう。
ホテルのベッドで横になりながら考えた。さすがに黄山は中国を代表する山だ。いったい何段の階段を登ったのだろう。泰山は7400段だが、黄山では岩に刻まれた足場も含めると往復で2万段を数えるのではない。もう二度と登りたくない恐怖の階段であった。
現在はロープウェイで登れるようだが、私の行った当時は歩くしか方法が無かった。
泰山よりは黄山のほうが余程すばらしく、特に黄山は歩いて登ると、ロープウェイで登るのは全く違った山が発見できよう。登山をしている方はぜひアタックしてみてください。
旅行中、日航機が墜落して500人余死亡のテレビを見る。数秒の映像で中国語が解せず、不安な思いもしたが、今や全世界の出来事が瞬時に伝わる時代である。
私の定年直後のことで、現在周囲の状況は変わっているだろうが、山に変わりはないはずである。

内資(中国人)2元、外資(外国人)4元とある。外国人は二倍の料金だ、どうせ日本人とわかれば4元取られるだろうと5元のお札を出すと、私の顔を覗き込んで「香港、米」(香港から来たのか)と言った。私が「対」(そうです)と言うと、3元のお札をくれた。私の顔は中国人と変わりないが、持ち物が変わっていたので、香港から来た中国人と思ったのだろう。広い中国では幾つもの言葉があり、下手な私の中国語が通じなくても、田舎から来た奴くらいで通る。当時中国では外国人料金が有り、公園の入場料や乗物は中国人の2〜3倍請求された。また外国人は特別な紙幣を使用させられ、その紙幣を出すとすぐ外国人と判明してしまう。香港人や華僑は中国人である。
急な階段がどこまでも続く。目の前の見上げる岩峰に、一列に登山者が続く。所どころの道端にはお茶やみやげ物を売っている。それにしても泰山でたくさんいたアイスクャンデー売りの姿は全く見えない。

ここは大展望台で、食事や宿泊もできるようになっていた。一度くだって黄山最高峰の蓮花峰の登りとなる。急な岩壁に足場が切ってあったり、石の階段であったり、岩と岩の隙間を滑り抜けたりと、登山というより岩登りである。
頂上は10人程の空間しかなく、眼下に先刻の玉屏楼が望まれ、行く手には気象台のある北海が望まれた。頂上から少し下の岩場で、すごい風景を眺めながら、持参の缶ビールで黄山登頂の幸福感を味わった。これで今回の目的だった二つの山を完登した。
気象台のある北海・西海は広い台地で、表側とは趣を異にし、穏やかな周遊路が幾つもの岩壁を巡り、次々とすばらしい展望を広げる。その光景は言葉では表現し難い。ただただ「絶景かな、絶景かな」。谷は深く、覗くと目が眩む。泰山とは比べものにならない。
今夜の宿を探す。あまり快適ではなさそうなバラック建の宿に入ると、外国人は駄目だとその先を指される。さらに5〜6分歩いて行くと、今度は四階建の立派な北海賓館が現れた。2人部屋にしては安いと思っていたら、後から見知らぬ

中国人が入ってきた。外国人専用の食堂があり、売店には青島ビールに日本の缶ビールも置いてあった。大部屋では五〜六台もベッドが並んでいる。テレビはユニバシアードの神戸大会をやっている。田中角栄に判決がくだったと中国人が言っていた。Tシャツでは少し寒く、長袖の登山シャツでちょうどよい。高度1700メートルで気温は17度だった。
日の出は4時半頃、4時には皆起き出してホールに集まってくる。ホテルの門前には如て卵などを籠に入れた売り子がもう集まっていた。空には雲が多く、日の出は見られなかった。
朝食後周辺を散歩する。椰子林・始信峰など石畳の遊歩道を巡る。各所の展望台では数々の岩峰が次々と姿を現し、全く山水画の世界で、ここなら誰でも傑作が描けるだろう。見上げる岩峰に人影が見える。あんな絶壁と思われる上まで道があり、長い歴史を物語っている。泰山でも黄山でも中国の山は縦横に道がつくられ、一度も土を踏むことなく登山ができるのは驚きである。
午後ひと雨あったが15時頃には青空が覗く。西海の方を歩いてみる。雨で天候

エリア別徹底研究

伊能ウオーカーINやまと⑮

岡寺前〜稲淵〜栢森〜芋ノ峠〜千股〜大和上市駅

上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年12月14日〔1809・1・29〕

朝小雨。同所逗留。地図を成。終日雨、夜曇る。

文化5〔1808〕年12月15日〔1809・1・30〕

朝曇天。六ツ半〔7時〕頃、岡村出立。昨日逗留稲淵村・栢森村境より初〔メ〕、栢森村、同字芋ノ峠（人家四軒）、それより同国吉野郡（池田仙九郎御代官所）千股村地先、（同）中増村地先を過〔キ〕、千股村（茶屋にて中食）、同村地先にて急雨に逢〔イ〕測留。

八ツ〔2時〕頃、上市村（同前 池田御代官所）着。止宿橋屋秀治。

〔伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達夫編著より引用

●実施日 平成13年8月28日(火) 晴れ
●参加人数 19名

近鉄橿原神宮前駅東口9時05分発のバスに乗車し、岡寺前に9時21分着。先週とは違い晴天となり、日差しは真夏だが、風は爽やかで秋が近いのを感じる。9時30分に岡寺前を出発し、稲淵に向かって歩くと美しい棚田が広がり、飛鳥川に掛る「雄綱」が見える。稲淵集落の入口に掛かる勸請縄で、子孫繁栄・五穀豊穡を祈るとともに、悪疫などが集落に入ることないことを祈願する。栢森入口には「雄綱」が掛かり、毎年1月中旬に綱掛け神事が行われる。稲淵と栢森の境界に飛鳥川上坐字須多伎比売命神社があり、180段の急な階段を登ると神殿。希望者のみ参拝した。

そこから芋ノ峠に向け自動車道を歩く（2年前「峠一番」で4月下旬に来た折は山ザクラがきれいに咲いていたのを思い出す）。時々、車が通る程度なので歓談したりマタビの実を採りながら、役行者像まで行き、そこで昼食。

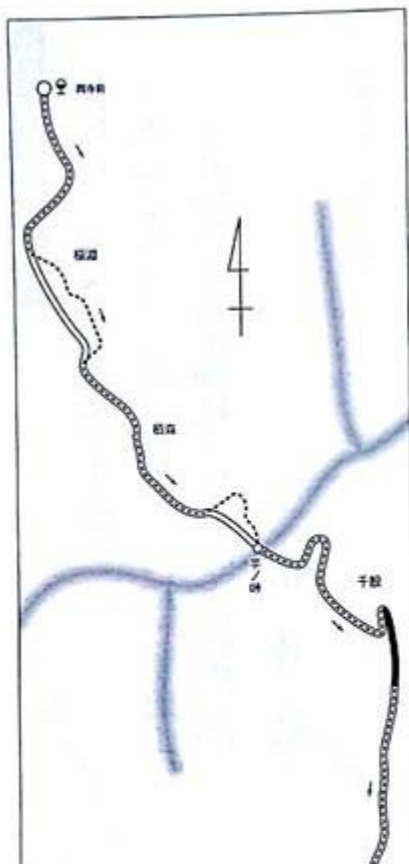
昼食後、役行者像を囲み恒例の記念撮影。旧道に入り山道を歩く。今まで舗装

道路ばかりを歩いたので一回大喜び。そのうえ、ミョウガ採りまで楽しんで最高だ。芋ノ峠手前で舗装道路に出る。芋ノ峠を越えてしばらく行くとヘリポートが見え、奈良県の防災ヘリの訓練が行われていた。しばらく童心に戻って見学。ヘリポート下まで行くとヘリコプターが飛んできて、担架を使っての救助訓練を開始したので帽子を飛ばされながらも見学する。カメラの方たちがシャッターを切りながらなので、なかなか足は前に進まなかった。

下り坂が続き、千股の「岩後大師」よ

り歩測開始。ゆるやかな下り道を観音堂まで測る。里程車を初めて押すので緊張しながら行かないもより距離が短く、あっという間に終了した。

正面に、次回行く吉野山の蔵王堂を見ながら伊勢街道まで進む。古い立派な家々が並ぶ街道を大和上市駅まで歩く。16時到着、解散。（記録・平田てる美）
△地形図▽2万5千 敵傍山・吉野山



岡寺前〜芋ノ峠〜大和上市駅
（本日の歩行距離 約16キロ）
（歩測）711m

栢森入口の勸請縄（雄綱）



エリア別徹底研究

伊能ウオーク INやまと ⑬

大和上市駅→桜橋→飯貝→丹治→吉野山→
金峰山寺→吉水神社→竹林院→一休庵(泊)

上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5「1808」年12月16日「1809・1・31」

朝曇微雨。六ツ半「7時」頃止「やみ」て出立。千股村地先より初「メ」、上市村より吉野川を渡「ル」(左に妹山、背山あり)、飯貝村、丹治村(二ヶ村共、池田御代官所)を経て、吉野「ノ花表」(とりのい)、並に天王橋迄測(吉野は金峰山領、それより竹林院(真言宗)宝物一覽。又庭園を見る。それより桜本坊(真言正大先達にて、三宝院御門跡御入あり。座敷画は雅楽之助という)宝物一覽。吉水院(天台宗にて定院家、天台十八ヶ寺の一老)宝物一覽。実城寺(天台にて学頭兼聖護院の本坊は吉水院なれ共、当時実城寺を本坊とす)宝物一覽す。右の外、奥の院金剛蔵王の脇に、真言宗宝塔寺あり。吉野一山、天台十八ヶ寺、真言十八ヶ寺、各正大先達あり(宝物一山御朱印天台真言の寺院数別紙にあり。聖護院の正大先達は、喜藏院・真如院・南陽院なり)。正大先達という者、聖護院方、吉野、並に國々三十六院、三宝院方(同断、十二ヶ院ありという。着後、吉野町惣年寄久保倉源左衛門、柳原保兵衛出る。此夜宵曇。それより晴る。則、測量終て、又曇る。

〔伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達夫編著より引用

●実施日 平成13年10月15日(月) 晴れ
●参加人数 16名

近鉄大和上市駅9時50分集合。途中壺阪山駅で森田さんよりウオーキングメジャーを受け取る(足の怪我で不参加)。9時55分駅出発。旧道を行く、前日8月28日に歩いた道。途中「蛭子神社」脇に「上市町道路元標」あり。旅籠角屋を右折すると、今日のスタート地点。

役場前を左折、桜橋の途中で妹山・背山を眺め、アユ釣りやヤナを見ながら橋を渡る(昔は「桜の渡し」、下流にも「こ」とに柳・椿・楡の渡しがあったが今はすべて橋に変わっている)。橋を渡り終えた正面が本善寺、お城のような立派なお寺。門前に道標、「右 山上 よしの」とあり、その通り進む。製材所を過ぎ、NTT手前を左折。丹治公民館の前を通り、酒樽をつくっている工場をのぞいたりしてのんびりと歩く。先生より「県道を出た所より歩測する」と聞いて皆んなビククリ。いつも午後なのに!(午前は初めてだ)。

11時15分、県道に出て歩測開始。吉野駅まで約1時。11時32分先頭到着。少し休憩し、ロープウェイの橋を登る。

七曲りの途中で昼食。遠くの山々を眺めながらのお弁当はおいしい。13時出発。

吉野三橋の一つ大橋(外敵の進入を防ぐための空堀)の説明を聞いて、金峰山寺の総門(黒門)をくぐり、黒門坂を登り、吉野一ノ花表(大仏さんの残りの銅で作った鳥居)金峰山寺修験本宗に着く。

仁王門(めずらしい北向)を抜け蔵王堂。南側の二天門跡から四寸岩・大天井を見ている時に中里さんと合流する。吉水神社に参拝、書院の説明を受ける。宝物・庭を見学。境内から見た一目千本は、山が荒れほうだいで残念である。

両側のお店を横目で見ながら先を急ぐ。勝手神社(無惨に焼失)横の少し急坂を登り、13時竹林院着。大和三名園の一つ群芳園へ。池のそばで記念写真を撮り、園内の丘に上る。遠くに金剛・葛城・二上山、右手に竜門と松皮葺きの屋根が美しい。隣のコンクリートの建物がないと一層よかったが。

天王橋(吉野三橋の一つ)を見てから、桜の枯木が目立つ道をくだって民宿一休庵へ。日帰り組3人と別れ、15時45分解散。(記録・増村良子)

△地形図V2万5千II吉野山



エリア別徹底研究

いのう
伊能ウオーク・INやまと⑬

一休庵→吉野神宮→橋屋→左曾→六田→美吉野橋→北六田→新野→越部駅

上田 倅 弘

伊能忠敬・測量日記

文化5〔1808〕年12月17日〔11809・2・1〕

朝曇天。六ツ半〔7時〕頃、吉野町出立。同所関屋町（又、大橋町という）より初
〔メ〕（是迄吉野金峰山寺領、池田仙九郎支配所、橋屋村〔左曾村、橋屋村と入念〕、左曾
村、六田村〔此間、吉野川あり。冬は農人往來の橋かかる〕、北六田村、新野村〔是迄池
田支配御料〕を経て、紀州殿領越部村迄測〔ル〕、止宿庄屋前田伴治郎〔此家陀羅印
背を亮る〕。岡村与七〔伊能ウオークINやまと14参照〕来る。此日午後より雨。
暮に止む。又、深更より雨。

〔伊能忠敬・測量日記〕第二巻 佐久間達夫編著より引用

●実施日 平成13年10月16日(火)

晴れのちくもりのち雨

●参加人数 15名

前日16時前、民宿一休庵に入り、一日の汗を流す。夜の宴席は、鴨鍋に舌鼓を打ちながらの食事となり、和気あいあいと懇親を深めた。

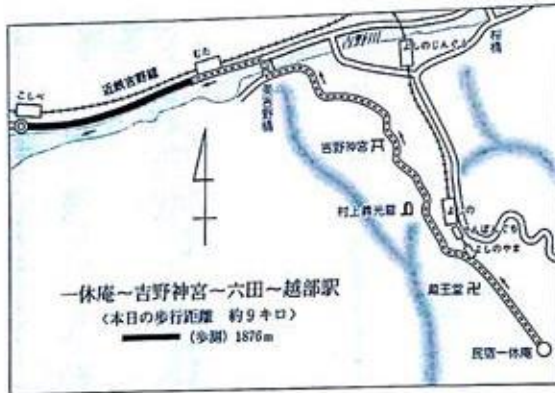
朝6時から蔵王堂での動行を体験後、民宿を9時に出立。今日のスタート点ロープウェイ吉野山駅へ向かい、日帰り参加者を待つ。途中おみやげ店で葛葉子を買ったり、ほら貝吹きに挑戦したり、まるで修学旅行気分。

9時45分にロープウェイ駅に到着し、今朝合流する2名を出迎える。その頃、上田先生がウォーキングメジャーが無いことに気づかれ、一休庵に連絡し、おかみさんが車で届けてくれる。2人の到着とメジャーが揃ったことで、第17回のスタートとなるが、今日のメンバーは総勢15名と若干少なく、メジャー当番が繰り上げとなり小生の担当となる。

10時15分、昨日昼に説明を受けた吉野三橋の一つ大橋よりスタートする。すぐに「左 吉野神宮十三丁」の町石がある。

次に七曲りを見下ろす所に案内板があり、唐鞆（とんがーとうぐわ）という耳慣れない言葉に接する。吉水神社の説明にあった投石（なげし）同様だ。

歩き始めて左の吉野神宮方面に向かう。村上義光墓で先生より説明を受ける。村上義光は護良親王の身代わりとして蔵王堂仁王門で自刃し、親王を逃した由。義



光墓を後にして吉野神宮に近づくにつれ、岩組寄進の常夜燈が多く見られる。

11時15分、吉野神宮着。正門は北側にあり、我々は南側より境内に入る。後醍醐天皇を祭神とする元官幣大社。明治22年に峰の薬師堂跡の丈六平に創建された由。文化5年（1809年）、伊能忠敬が当地を測量してから80年後のことである。

吉野神宮で小休止の後、青年の家から左の旧道を行く。旧道にはアケビの実や自然の雑木が多くあり、神宮参道とは異った歩きやすい道。途中墓地に出て「蓋のないヤカン」の話を生から聞く。このあたりは、桜橋から吉野大橋・美吉野橋まで眺望できるビューポイントである。

美吉野橋に向かう途中に役行者の祠がある。前鬼・後鬼を従えた像が祀られている。役行者像から美吉野橋に出て、川原で昼食をとる。弁当は一休庵で用意してくれた「柿の葉ずし」である。

食後、慣例のティータイムの後、童心に返り、川原での石投げ（水きり）に興じる。美吉野橋袂に建つ「六田の宿・柳の渡し」の説明を受けた後、記念写真を撮る。「柳の渡し」は対岸の北六田と

結ぶ渡河地点で、平安時代に、大峰山中興の祖・聖宝理源大師が初めて渡しの場を開いた所との伝えあり。北六田にも同様の碑がある。

13時30分に、恒例の歩測開始。六田郵便局から国道169号線を西へ越部駅前まで。車道は大型トラックが疾走する。歩道が狭く、少々危険を感じながら、上田先生を先頭に進行する。

約30分で越部駅前ゴール地点に到着し、楽しかった今回の1泊2日の伊能ウオークを終えた。（記録・山縣堅太郎）
△地形図V2万5千II吉野山

民宿一休庵前にて



旗振り通信の資料IX

柴田昭彦

【奈良屋茂左衛門の光通信ネットワーク】

インターネット検索で、OKウェブQ & Aに次のような興味深い質問が見つかった(No.1577312、2005年8月13日)。

「奈良屋茂左衛門の光通信ネットワーク
ある文献(神田川葉翁)を見ていたら、江戸の豪商、奈良屋茂左衛門は光通信網を使って上方の情報をいち早く得て、相場を張ったと書いてありました。そもそもは上方に行ったとき、堂島の会頭から紹介された広島と大阪の間(100里)に構築された海上光通信網を見て、独自

の工夫でネットワークを完成させたとか。

大阪と江戸の150里の間、10里ごとにアクセスポイントを作り、管理者を5人ずつ置いて24時間運用したようですが、実話でしょうか。

天気の良い日は反射鏡で次のアクセスポイントにデジタル信号(モールス信号のようなもの)を送り、夜間は蠟燭の光を利用して、最終的に江戸でデジタル信号をアナログに複写すればよいのでありそんな話です。」

この質問に対して即座に出された回答1は次のとおりである。

信ものがたり」であった。質問者は「奈良屋茂のライバルの紀文は旗振り通信となっておりますし、実話かどうかはともかく、現代人が想像するより高速な通信手段があったのは間違いないようですね」と結んでいる。

「奈良屋茂の正月蜜柑買占め伝説」は、HPの「相場師列伝(第8巻)」に、前編・後編に分けて紹介されている(2002年12月2日・4日)が、「やっちゃ場伝」をもとにした内容である。後編の最後には「史実なんですか?」とあり、この光通信の話の信頼度が低いことを示している。

奈良屋茂左衛門の光通信網の話が載っているのは、神田川葉翁『競り人伊勢長日誌 やっちゃ場伝』(小江戸青物研究連発行、農山漁村文化協会発売、1993年)である。

1612年、江戸神田多町青物市場に開店した初代伊勢屋長兵衛は、世襲で十五代続き、商売仲間では伊勢長と言った。その伊勢屋長兵衛家には、家訓によって書き続けられた「代々商売日誌」が残されている。この商売日誌により、青物を通して世相を語り継いだのが「やっちゃ

場伝」なのであった。その第2話の中に「堂島米取引会所の通信法を使った、奈良屋茂左衛門の『光信号』という項目がある。

伊勢長十代目は安政三年(一八五六)九月十九日、「代々伊勢屋長兵衛」追悼供養(法要)を菩提寺である法光寺で行ったあと、料亭「開花楼」での会食時、奈良屋茂左衛門みかん買占め事件の裏話が話題になった。法要に出ていた「万弥」九代目庄太郎が伝記を整理したところ、「万弥」初代富三旦那の大福帳にこの件が記述されていたと言う。

九代目庄太郎旦那が次のように語った。

「万弥初代の伝記によれば、赤穂義士討入りの四年前、元禄十一年(二六九八)七月二十八日、永代橋が完成し渡り初めが済んだその足で、奈良屋と同道で、初代富三は京、大阪へ旅に出た。二人は吉原友達よ。

大坂堂島の米取引会所に立ち寄り、頭取より教示されたのが通信術だ。

故豊臣秀吉公が文禄元年(二五九二)に派遣した御朱印船がルソンより持ち帰った反射鏡と望遠鏡を、堺商人に頼み量産

「いかにもありそうな話なのですが、私自身も『やっちゃ場伝』(神田川葉翁)でしか目にすることがありません。瀬戸内海で太陽光やロウソクをレンズ反射鏡でリレー伝達する海上通信が存在したのは事実ですが、これは瀬戸内海に無数の島があつてそこに島民がいるから成立するのであって、それだけのために大坂と江戸の間150里に、10里につき5人、総勢約100人を要所に配置するというのは層睡っばいですね。」

このあとの回答2と4はHPを見ていただくとして、回答5は次のとおりである。

「この質問の趣旨は『実話なのかどうか?』のようですが、人名などの詳細はともかく江戸時代にこういう通信インフラが存在したのは事実だと思います。」

割合有名な話ですし、近代以前の中国や欧州でも似たような例はあるようです(雇用が主だと思います)。

URLが参考になるでしょうか。明治時代まで利用されていたとか、当時は電話より安かったとか……意外なお話に乗っています。」

このURLは、筆者のHP「旗振り通

させて、堂島米会所がこれを利用して米相場連絡用に使っていた。

中国筋(広島、岡山)での買付けは一刻を争うので、堂島会所から約百里離れた広島会所へ、レンズ反射光を利用して通信している。高所利用なれば煙草一服だ。ただし、かなりの経費だよ。

曇りと雨天の日は蠟燭代だけでも大変だ。一〇里当たり五人前後が必要。紀伊潮岬と江戸では約一五〇里だ。一〇〇人掛りの大勝負を元禄十五年(二七〇二)に行ったのよ。

多町市場の、大名買いのみかん買占めで、夷講、一ツ目小僧祭りの寄付で、幕府と江戸市民から絶大な信頼を得て、翌年以降の材木入札売りで五十万両の利益よ。何と五〇〇両が一〇〇倍に化けた。

反射光による信号は日光で行った。大坂青物市場の符丁で、船出可能日より見て、江戸着船可能日を数字で信号する。

大阪市場、通常の符丁は、

一〇ム 二〇メ 三〇サ

四〇ク 五〇ラ 六〇マ

七〇ツ 八〇タ 九〇ケ

多町市場競り場で光った「びかり」は

方法)が掲載されている。その中に参考資料として、河合卯平(岡山市昭和町)「旗振り通信」(2003年6月)が掲げられている。この資料は、吉田氏によれば、調査発表用と思われる模造紙にまとめたものが、操山里山センター内に掲示してあったとのこと、それから吉田氏がメモしておいたものを利用したという。

【岡長平著作集より】

岡長平氏には、旗振り通信についての記述が『岡山太平記』や『岡山始まり物語』(岡長平著作集第二巻)にあり、本誌69・78号などで紹介してきた。

平成17年10月28日、富山公民館の吉田節男氏から、岡山県立図書館所蔵の『巷説・岡山開化史』(岡長平著作集第一巻、岡山日日新聞社、昭和52年)の関連ページのコピーが送られてきた。「旗振り速報」と題した記事は次の通り(六二九・六三〇頁)である。

「つぎは旗相場だ。岡山の米は堂島相場に左右されとったから、その相場を誰より早く探知することが勝負のカギになった。戦時時代には大阪の柳屋与四郎という飛脚屋が、堂島の堺屋庄次郎という間

旗の欠点は、どこからでも盗まれることだった。だから毎日、親展書で回数や振り方なんかを知らして来てたので、割合に被害は、なかったそうじゃ。」
内容から、本誌78号で紹介した、桑島一男氏の著書『岡山の電信電話』(昭和50年)および『倉敷の電信電話』(昭和55年)の記述の典拠であることがはっきりする。

筆者が現在、つかんでいる岡山付近の旗振り場の情報は、本誌69・70号で述べた通りで、『巷説・岡山開化史』に見える旗振り地点のうち、書写山、大平鉾山、日差山、皿山では旗振り場であるという裏付けがとれない。

【大坂・岡山間が所要6時間?】

岡長平氏によると、大坂・岡山間の旗振り中継に要した時間は十五分(岡山太平記)または三、四十分(巷説・岡山開化

屋から堂島相場を昼夜兼行の速達で岡山藩庁へ届けとったもんだ。それでもザッと二日、雨でも降れば三日かかった。明治になると、無論その急報は廃止になった。そこで各地取引所が銭をだし合わせてリレー式に、速報を始めたのである。自由な世の中になったから抜駈をする人も出てくれば、買取して誤報を送らすなどの詐欺行為も出るなどして、いつも取引所に騒擾の種をまいて、速報が会所を弱らした。

明治十九年四月十八日付で、滝本町の小林文吉が旗相場の許可を得て、それが正式に会所で発表されることになった。

これは明治十年の西南戦争に手旗信号が、大きな戦果をあげたのにヒントを得て、これを始めたように書かれておるが、それよりも三百年も前の戦国時代には、夜は烽火、昼は遠眼鏡による、伝令通報が行なわれたことは、よく戦書で見られる。徳川時代になっても「伊賀越道中双六」の芝居に遠眼鏡が出て来るところを見ると、内密では可成り活用されてたような気がする。

堂島浜を始めた淀屋辰五郎が伝書鳩をつかって大儲けをしたというから、旗振史とのことだが、広島まで最短記録で二十七分、通常は四十分以内というから、岡山まで十五分が妥当だろう(本誌75号参照)。

HP「まぐまぐ!」のメルマガ(2005年8月23日発行)に転載された、中井久史氏(日本ソフトビジネス)の4月21日例会講演会要旨『先見経済』6月4週号講演録(より)には「そこで見通しのよい山の上で手旗を振り、望遠鏡を使いながら山から山へとリレーし、相場を伝えていった。天気の良い日は東の江戸まで10時間、西の岡山へは6時間で届いたという」とあるが、この所要時間はほしい、どんな資料によったのであろうか。江戸までは1時間40分、箱根の飛脚区間も加えて所要8時間というから、それほどかけ離れてはいないが、岡山までの6時間は、15分や40分という記録とは違いすぎている。

江戸まで8時間というのは、樋口清之『こめと日本人』(家の光協会、昭和53年)にあるが(本誌62号参照)、割合によく知られているようで、松原久子著・田中敏訳『零れる白人と闘うための日本近代史』(文芸春秋、2005年)には次のように入っ

りなんか、ヘッチャラだったかもしれん。

堂島市場の高い屋上から、白い四尺の角旗を、右回りが十位、左回りが一位で、その時にできた相場を振って知らすのを、こんど万国博のできる千里山で望遠鏡でうける。それを直ぐ旗を振って神戸の六甲山へ知らすと、これを姫路の奥の書写山が望遠鏡でうけて、また直ぐ旗を振る。さらに三石の大平鉾山のところの、いまに旗振り台山という地名のこっている、あそこで受け渡すんだ。これは熊山で中継してた。だから熊山に旗が峯という所がある。それを操山の頂上でキャッチして、岡山の操山水源池の少し北手の、旗振り台という所で知らすのを、船着町の会所の二階でつかまえる。旗振り台の台場は都窪郡庄の日差山で受けつけられ、それを天文台のある通照山から、笠岡市城見の皿山に出て、これが福山、尾道を経由して下関まで伝送されたのである。

こうは聞かされたが、明治初年ごろの望遠鏡が、そう遠方まで見えたか……、これが問題だ。

もう一つ納得できんのは、堂島から岡山まで、三、四十分で相場が来た……、

た。
「一七〇〇年以降、大坂の取引市場で決められた価格は、八時間以内には江戸に伝達することが可能になっていた。その方法は旗による信号だった。ヨーロッパの船舶交通で使われた信号と似たものである。このため江戸と大坂をつなぐ街道沿いには、山の頂上や山腹に旗小屋が設置され、天候が許すかぎり、毎日価格が伝達された。ただし箱根の近くの短い区間だけは人が走らなければならなかった。そこは、旗による信号の伝達ができない峻険な地形だったからである。」

【旗振り山】の本の出版】

筆者の初めての単行本である『旗振り山』(ナカニシヤ出版、平成18年5月頃)は、本連載のダイジェストであるほか、主要な旗振り山のコースガイドや、通信ルート図、旗振り場一覧表も収録している。膨大になってしまった本連載のまとめとして、読者にも愛読をお願いしたいと思

(つづく)

(平成17年7月25日初稿)
(平成17年12月28日改稿)

連載

三角点を訪ねて (40)

伊吹山西麓の山、板並岳へ 湖北

磯部 純

山科の大兄と和邇の彼との3人で、板並岳へ登る計画を立てたのが昨年春。天候が悪かったり、個々の都合で延期になっていたが、この日2年越しにその計画が実行できた。

板並岳は、伊吹山北尾根の標高点1083mから西へのびる尾根上にある、標高847・6mの三角点峰である。地形図を見ると、麓はともかく山頂付近は広葉樹の印があり、すばらしい林相を歩けると期待していたのだが、いざ登ってみると、予想に反して情緒ある雑木林は山頂付近だけで、山頂からの展望は無く、登り下りの尾根道は杉や檜の植林が続く山だった。

山科の大兄、和邇の彼と私の3人が計画する山行は、これまで必ずといってよい程、雨に見舞われそうな天気だったが、この日はめずらしく上気になった。7時にJR山科駅に7人が集合し、二台の車に分乗して名神に入り、一路米原インターへと走る。

醒ヶ井駅に着くと、和邇の彼はすでに到着していて、「早く着き過ぎたので、醒ヶ井の宿場町を散策してきた」と言っている。間もなく、稲沢の彼女も時間通りにやって来て、この日の参加者9名が揃った。

四台の車は、山東一色線から奥伊吹へ向かう姉川に沿った山東本奥線と走り、

板並岳3等三角点(点名上板並)

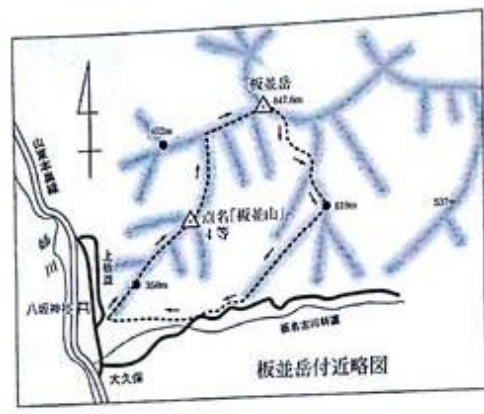


上板並の旧道脇にある八坂神社前に車を止めた。ここがこの日の出発点で、神社裏から尾根へ取り付いて、4等三角点を踏んでから板並岳へ向かおうというものである。

9時5分に出発する。神社の前から東へ入り、山際の道から尾根へ取り付いた。やぶが繁るあまり手入れされてない杉林の尾根だった。やぶの少ない所を選んで

登って行くと、所どころに赤テープが付けられている。どう見ても山ヤが付けたテープで、こんな山に我々と同じような物好きもいるのだと思うと、嬉しくなってくる。

急な尾根を登って標高点350mに着くと、右手から楠道が現れた。古い道のように、あまり人の歩いた様子は無い。そこから上へ、左が雑木林で右は杉の植林の尾根を掘れ込んだ道跡をたどって登っ



杉林を過ぎ、雑木の尾根の道跡を登る

て行く。やぶ漕ぎを覚悟していただけに、道跡があるだけでも得をした気分になっってくる。

斜面にはチゴユリ・ヤマツツジ・ヒメハギ・ノイチゴが次々に咲き、ツクバネウツギの花も見る。この日の参加者は花知りの人が多く、花のない葉っぱの特定にも忙しい。急斜面を道なりにジグザグに登って行き、勾配がゆるくなると美しい雑木の林。芽吹いたばかりの新緑がま

ぶしいほど目に飛び込んでくる。その林からひと登りで植林尾根へ出た。伐採された広い尾根には適当な間隔で広葉樹が残されていて、その間に点々と白いビニールの筒が立っている。植林した檜の苗を鹿に食べられないように保護する筒である。

その尾根を歩き、ゆるく左へ曲がった。その先に4等三角点が埋められている。標高569・8m、点名「板並山」である。例に漏れず、標石はしっかりと磁石の南を向いている。植林尾根の木の間から、これから登る板並岳が間近に見える。

植林尾根が終わっても道跡は続いていくが、やぶがいっぺんにきつくなる。ササダケを掻き分けたり倒木を跨いだり、道の縁を歩いたりして高度を稼がなくてはならない。相変わらず林の密度は濃く、展望は全く無い。どこまで登って来たのかは、地形図を見比べながら、尾根の曲がり具合と、不確かな高度計でいただいた位置を判断するしかなかった。

ササに塞がれた道跡を伝い、尾根がハッキリと東に向くと檜の林に変わり、道跡は林のなかに続いている。暗さを増した

檜林の地面にはシハイスマイレがあちこちで花を開いている。その先で尾根が細くになると、雑木林から、初めて右手の方向に高く高く横たわる伊吹山を垣間見る。その姿は南からの見慣れた格好の伊吹山ではなく、あたかも台地のような平坦な伊吹山である。

やぶを掻き分けて細尾根を登り、さらに最後の急斜面を登ると、平坦なササに覆われた雑木林が広がってきた。ここが広い山頂の西の外れである。三角点は山頂ではなく西の肩に埋められているはず。見渡すが三角点広場らしき所が見当たらない。三角点の位置を地形図で確認しながら歩いてみると、後ろから「あつた」の声。どうやら、前を歩いている大兄も私も、2人共が三角点を見過してしまいい、通り過ぎてしまっていた。

板並岳三角点は、標高847・6m、点名は「上板並」。顔は西向きで10度南へ振っている。ここには三角点広場など無く、三角点標石はササグケのなかに埋もれ、かろうじて頭を出している。見るにしのびず、三角点の周囲に小さな広場をつくり、標石の回りを掘って、三等と三角点の三の字が見えるようにした。あ

る本に「三角点、点名上板並は忘失の情報あり」と書かれているが、このやぶの状況では、三角点を見逃しても「地図読みが出来ない人が書いた」と非難するのは酷かもしれない。

ここで食事するにはやぶがきつすぎ、東のピークの方へ空地を探して移動する。ササグケを掻き分けて進んで行くと、5四方の池があった。岐阜の彼が参加していれば、早速にでもシジミの有無を確認したかも知れない風情ある池である。池の回りに獣の足跡は無かったが、おそらく、ヌク場に水が溜まったものに違いない。そこから東へ100m程進み、やぶの切れている広場で早い昼食とする。あたりはナツツバキ・リョウブ・ブナ・ミズナラ、めずらしく松も混在する林。どこからかヒガラの声が聞こえてきた。

45分間ここでゆっくりと過ごし、下山する。このまま尾根を東へ向かい、二つ目のコブから南の尾根を、標高567mを踏んでくだりたいという声もあったが、初期の計画通り、山頂から直接南へのびる尾根をくだることにした。昼食場所から南へ進み、尾根外れの檜林の境界でくだり始める位置を確認。そ

ここで磁石を合わせて、南東へ向かってくだればよかったのに、くだりやすい檜林を南へくだって東へ振って尾根にのろうと考えたのが間違っていた。檜林が切れると、その下は猛烈なやぶ。前方には木が生い茂り、どこも見る事ができない。急斜面のやぶをくだり、東へ振ったつもりだったが、思っていた程も東へ向いていなかったようで、尾根らしきが無いらしい。少しくだつて木の間から前方を見てビックリ。くだる方向正面には尾根が右から廻り込んでいて、遠くに見えるはずのない送電線が横切っているではないか。目的の尾根に向かっているならば、そんな光景が目に入るはずもなく、一瞬間の中で地図が混乱して、どの方向にくだっているのかわからなくなってしまった。

頭を冷やそうと地形図を広げて見ると、何と、南東ではなく南西へくだっていたのだ。自分を罵りながらも、頭の地図を切り替えて、濃いやぶを掻き分け斜面を東へ向かう。やぶばかりでなく倒木もあり、言うほどに楽な移動ではなかったが、何とか目的の尾根にのった。大兄や和通の彼と3人で声を掛け合ってたから修正できたが、もし1人だったら

大変だった。

目的の尾根にのるとやぶに覆われているが古い道跡が残っていて、その道跡をくだる。尾根分岐の広い杉林になると道跡は消えてしまうが、右の尾根に入り込まないように、左手左手と磁石を頼りにくだって行くと、再び尾根に道跡が現れた。こんなやぶ漕ぎが最後まで続くの



山頂での昼食場所の風景

かといひ加減うんざりしていると、突然やぶが切れて、植林されて間もない尾根へと飛び出した。そこからの展望はこの日一番だった。目の前には伊吹山が高く高く横たわり、伊吹北尾根も見渡せた。伐採された尾根には白い筒があちこちに立っていて、その中には広葉樹の苗木が入っている。近くに咲いているアオダモの花が風に揺れ、それを見ているだけで心地よい。

この尾根には植林のためか、道がしっかりと付けられている。標高点623mからの伐採斜面には、花の無い葉だけのシハイスマイレが雑草を敷いたように広がっている。その尾根をくだると雑木林へと変わり、そこに切られた古い道跡を落ち葉を踏みしめてひたすら行く。やがて、雑木林が杉林に変わり、急になった斜面をジグザグにくだると、板名古谷林道へと下り立った。

林道脇の谷には、カキドオシやキンポウゲが一面に咲いている。オドリコソウ・コハコベ・ラショウモンカズラの花も見る。林道の山際には、ミヤマキケマンの花も残っていた。花を見ながら林道を西へ歩き、14時55分に八坂神社へと戻った

が、後に続いて歩いているはずの4人がなかなか帰ってこない。花談義に夢中になって、道を見逃して遠廻りしてしまつたと言う。全員が揃ったのが15時15分。ここで解散とした。

京都方面へ帰る8人は伊吹の薬草の湯「ジョイ伊吹」へ直行。入湯料は300円だったが、券売機にコインを入れるとお釣りが400円出てきた。「シメタ！得した」とウキウキ気分が風呂に入った。

帰る途中、運転しながら考えたが、機械が間違えるはずがない。どうやら100円玉三個を入れたのではなく、100円玉一個と500円玉一個を入れてしまったものらしくガククリ。何か損をしたような気分になって、山科駅へと走ったのだった。(平成16年5月8日歩く)

▲コースタイム▼

JR 醒ヶ井駅(車30分) 上板並八坂神社(1時間10分) 点名板並山4等三角点(1時間15分) 板並岳(1時間30分) 標高点6155m(40分) 林道(25分) 上板並八坂神社
▲地形図▼2万5千1美東・虎御前山

中高野街道

平野から丹南へ

松永恵一

大念佛寺

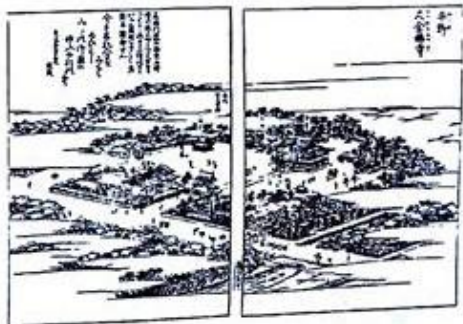
融通念佛宗総本山大源山大念佛寺。正式名称を融通念佛宗本山諸佛護念院大念佛寺という。融通念佛宗は大治二年(1127)、鳥羽上皇の勅命をいただき、良忍上人によって開創された。聖徳太子信仰の篤かった良忍上人は、念佛勧進の途次、四天王寺に一夜参籠し、お告げを受け、平野の地で大念佛会を修し念佛の根本道場とした。良忍上人は声明の天才的演奏者で、信仰を説くときに声明を用いたといわれる。この地は征夷大將軍坂上田村麿の子、広野麿の菩提所であったと伝えられている。

世代下り寺勢は振るわなかったが、元亨元年(1321)第七世法明上人が中

興して寺域を拡大し、堂塔を壮麗にしたが、たびたびの兵火に遭い荒廃した。元禄年間、第四六世大通上人により諸堂が営繕され、法義の用具を完備して一宗の本山としての体裁が整えられた。約7300坪の境内に大小30余の堂舎が豊を並べている。本堂は大阪府内最大の木造建築物で、本尊の阿弥陀佛如来像(十一尊天得如来像)を安置する。

融通念佛宗は、1人の唱える念仏が、他の全ての人が唱える念仏と溶け合い、全ての人の唱える念仏の功德が1人に還って往生できるとする。また、死後や来世でなく、この世で極楽浄土に達するため念仏を唱えたと説いている。毎年5月1日から5日に行われる万部

平野大念佛寺「撰津名所図会」



会聖衆来迎会。阿弥陀経を一万部誦誦し、菩薩の来迎を再現した「お練り供養」が行われる。鐘と太鼓の音を端緒とし、本堂の周りに設けられた橋の上を、来迎に際して阿弥陀如来に随伴する二十五菩薩が練り歩くさまを、「行道面と呼ばれる菩薩の面を着けた僧侶が演じる。各地の信徒が練り歩いて本堂に向かい、菩薩が仏前に献花することで、現世から極楽へ向かうさまを体現する華美荘厳な儀式である。

杭全神社

平安初期、坂上田村麿の子、広野麿は杭全荘を賜わり居を構えた。その子当道は貞観四年(862)、素盞鳴尊を勧請し祇園社を創建する(第一殿)。熊野信仰が流行した建久元年(1190)、熊野詣誠権現(伊弉諾尊)が勧請され(第三殿)、さらに元亨元年(1321)に熊野三所権現(伊弉册尊・速玉男尊・事解男尊)が勧請された(第二殿)。時の帝、後醍醐天皇より「熊野三所権現」の勅額を賜わった。明治初年の神仏分離令により、杭全神社と定められた。

広大な社域には、自治都市平野郷の環濠の遺構が残る。参道を入れてすぐ左側の楠は、歴史を感じさせる巨樹で大阪府指定の天然記念物。稲荷社の前にある銀杏は大阪市の保存樹。本殿の三殿は国の重要文化財に指定されている。第三殿は松皮葺春日造で永正十年(1513)の棟札を持ち、大阪市内で最古の建物。慶長以前に連歌会が催されていた記録が残る連歌所は、現存する建物としては我が国唯一のもの。連歌所に蘇った連歌の伝統が残る。「お田植神事」や「けんか祭り」ともいわれる夏祭りが有名。

柴籬神社

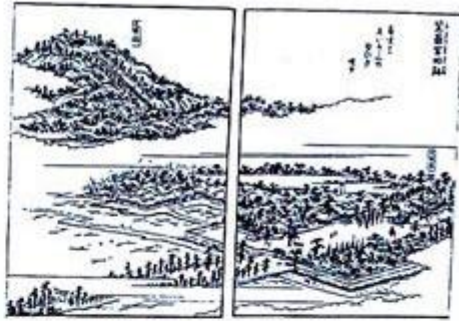
柴籬神社は、第十八代反正天皇(多遅比羅尊)を正殿に、相殿に菅原道真・依羅宿禰を祀る。反正天皇は仁徳天皇の第三皇子で、兄履中天皇の後、丹比柴籬宮で即位したと伝えられ、中国の南朝と通交した「倭の五王」の「珍」とされる。この地に都し給うこと六年、「日本書紀」は、「風雨時に順ひて、五穀成熟れり。人民富み饒ひ天下太平なり」と伝え、「古事記」は「御身の長、九尺二寸半。御齒の長さ一寸、広き二分、上下等しく齊ひて、既に珠を貫けるが如くなりき」と齒の立派さを記している。

南門は神仏分離令により廃寺となった神宮寺の広場山観念寺の山門。「反正天皇柴籬宮跡」の石碑が建つ。「河内名所図会」は、「広庭神祠。今、天満宮と称す」と記した。井原西鶴が詣で、「柴籬宮むくけうへてゆふ柴垣の都哉」の句を残した。境内末社の歯神社の前に「歯磨き面」が建つ。触ると歯痛にならないという。参集殿前の手洗鉢は、「大塚陵墓参考地」隣の墳丘外への立ち退いた「天満宮」から運ばれたもので、大塚山古墳の石室の石材を転用したものである。

来迎寺

来迎寺は、融通念佛宗の中本山格の名刹で、阿弥陀如来を本尊とする。寺伝によると天平三年(731)、行基が狭山池工事の供養のため、毘沙門天をこの地に祀った。天治元年(1124)鳥羽上皇の勅願により融通念佛宗を勧進し、天承元年(1131)、阿弥陀如来を安置する堂を建て、融通念佛十ヶ郷辻本大勧進阿弥陀寺と号した。正中元年(1324)、菅生神社より感得した阿弥陀如来画像を勧請し、阿弥陀寺から河内十ヶ郷六本別寺諸仏山護念院来迎寺と寺号を改めた。

大坂夏の陣で焼かれるが、正保四年(1647)、高木丹南藩主の援助で再興された。山門前に「旧丹南藩主高木主水正陣屋址」の石碑が建つ。大坂の陣で戦功のあった高木正次は元和九年(1623)丹南一万石の藩主となり、高木氏は明治の廃藩置県まで248年にわたり藩政に当たった。陣屋は来迎寺の東に接し、中高野街道までの間に置かれた。昭和16年、三笠宮崇仁親王妃百合子様は高木氏から皇族へ嫁がれている。境内墓には高木氏の代々墓が並び、イブキの名木が府の天然記念物に指定されている。



柴羅宮跡「河内名所図会」

コース概観

中高野街道は、四天王寺を起点に平野の大念佛寺から松原市丹南の米迎寺、河内長野市古野の極楽寺を経て、高野山へと至る。融通念佛宗ゆかりの道で、春には平野本山から黒塗りの木箱に納めた本尊十一尊天得如来像の掛軸を奉持して、末寺や檀家を巡回しながら追善回向や「折拂」をする河内御回在が行われる。鉦を打ち鳴らす聖を求めて訪ねてみた。

J R天王寺駅から大和路線で二つ目の平野駅で下車。南出口から南東へ「杭全神社」に向かう。町全体が「町ぐるみ博物館」と化した大阪、平野舞は、かつて環濠自治都市として、朱印船による交易や綿の栽培で歴史にその名を残した。戦国時代につくられた環濠跡が杭全神社境内に残る。濠は平野川につながり、平野は水陸両方の交通の要衝であった。旧平野町9組によるだんじりが曳行を競い合う勇壮な夏祭は祇園祭。絵馬は熊野信仰のカラーが描かれている。

風を受けてさわさわと揺れる巨大な楠の緑の葉擦れを聞きながら、板上広野麿の昔に思いをはせた。広野がなまって地名の平野になったという。板上家から分かれた七名家の末吉家は朱印船貿易に活躍し、成安家は道頓堀を開削、土橋家は学問所含翠堂の創設に尽力し、平野と共に繁栄した。

国道25号線を横断すると大きな屋根が見えてくる。府下最大の木造建築物大念佛寺の本堂、近づくとそのスケールに圧倒される。多くの文化財を残している。国宝の「毛詩輝燦殘卷」は菅原道真直筆と伝える。5月の阿弥陀教万部会菩薩米

迎練供養、「平野のおねり」は多数の人出で賑わう。

街道に戻り、全興寺に詣でる。「町ぐるみ博物館」の「地獄のぞき」のお寺。聖徳太子自作の薬師如来を本尊とし、俗に薬師として信仰を集めた。流口地蔵は平野郷の南の出入口。街道は大和川までほまっすぐに南下する。落ち着いた喜連の集落を過ぎると瓜破。道昭が修業中、天神の尊像が出現したという瓜破天神が祀られている。瓜を割って供えた瓜破の地名伝承が残る。道昭は当地の出身と伝え、入唐して玄奘、三蔵の教えを受けたと『続日本紀』にみられる。

平野から歩いて来た道は、大和川で切断されている。川の向こうに街道は続いている。右に架かる高野大橋を渡って元の街道に戻る。屯倉神社は菅原道真を祀る。この地には土師氏(のち菅原氏に改姓)の祖神である天穂日命が祀られていた。大宰権帥に左遷された道真は九州におもむく途中、道明寺に立ち寄り叔母覺寿尼に別れを告げたと伝えられている。三宅にも立ち寄り、腰掛けたという伝説の神形石を残した。境内に合祀された酒屋神社は、中臣酒屋連が祭祀した延喜式内社。「延



喜式」に記載された神社で、祈年祭に当たって國家から幣帛を受ける由緒深い神社であった。この地は依網屯倉の地で、「延喜式」は新羅国からの使節をもてなす神酒を、摂津の住道神社(東住吉区の中臣須牟地神社)で醸造すると記している。三宅から阿保に入る。阿保(あお)は、平城天皇の第二皇子阿保親王に由来するという。杭全神社の泥堂口の一里塚から一里(約4km)、一里山という小字が残る。南の阿保茶屋跡で東西へ走る長尾街道と交差する。すぐに近鉄南大阪線の河内松原の駅を通る。まっすぐ南下する道は新道と呼ばれる。旧道は曲がりくねり、西側の集落の中を通る。駅前の「ゆめニテイ松原」の駐車場入口を過ぎた所に古代の運河丹比大溝の説明板がある。丹比柴羅宮の歴史を残す柴羅神社は街道東側の集落の中にたたずむ。宮跡が「松生いし、

丹比の松原」と呼ばれ、市名の松原となる。隣接する「ふるさとヒアプラザ」の郷土資料館には、市内の出土品が展示されている。

街道を南に進むと岡に入る。右手西側の府宮住宅奥の清浄池には出岡弁財天が祀られている。応神天皇の御代、百濟から「論語」「千字文」をもたらしたとされる壬仁の聖堂址伝説が残る。かつては聖堂池と記したという。街道沿いに中高野街道の案内板があり、小さな休憩所もある。休憩所を左に入ると「河内鑑名所記」で連理の松と評判の松と記された正井殿が鎮座する。祭神は素戔鳴命。連理比翼の契り、縁結びの神木として崇拝された。

松原南図書館前で竹之内街道と交わる。平野から二里(約8km)の地で、道標が図書館に移されている。寛政九年(1797)

97) 6月、「いせこう中」が建てた「左さやま 三日市 かうや道」「右ひらの 大坂道」「左さかい道」。この地は丹南茶屋と呼ばれた。竹之内街道を少し西側堺より入るとお大師さんを祀る大師堂がある。室町時代の阿弥陀如来坐像二体と、高野山大円院より招請したという空海坐像・不動明王立像・板彫千手十一面観音立像が安置されている。

府道中央環状線を渡る。そのまま南に進み丹南バス停から右に入る。丹南天満宮が鎮座し、その北側に融通念仏宗の米迎寺がある。

コースタイム

平野駅(5分) 杭全神社(5分) 大念佛寺(40分) 高野大橋(40分) 柴羅神社(30分) 米迎寺(30分) 河内松原駅	160円
△地形図V2万5千II大阪東南部・古市	290円
△費用V	
天王寺駅⇨平野駅	160円
河内松原駅⇨阿部野橋駅	290円
(問い合わせ先)	
杭全神社	06(67991) 02208
大念佛寺	06(67991) 00226
柴羅神社	072(331) 21338

〈山のレポート〉
山の地名を歩く⑦

「ノ」と「ガ」の用法
西尾 寿一

〇〇ノ峰、〇〇ガ岳などの山名の付け方は我が国の山名として大きな位置を占めている。基礎的な〇〇山が時代と共に変化していった過程にいったい何が起きたのだろうか。

本編の目的はその一点にあり、単なる山名分布の分類に当たることではない。それにしても、なぜノやガという片仮名が連体助詞として体言(〇〇の主体)と峰・山・岳などの体言を結びつける役割をになってきたのだろうか、おそらく古代社会においては〇〇山であり、〇〇岳で連体助詞抜きで口詠されていたはずだからである。

例をあげれば「冬キタリ、雪フリタリ」であって現在のように「冬ガキタ、雪ガフタ」ではなかったのである。連体助詞抜きの文例は一部に歌詠・俳諧の世界で健在であるが、一般社会では連体助詞の属性を保持していることでもあるので「の」は、属性を持つことを示す用法を展開した。「あはれの鳥」は「あはれ」に所在する鳥、つまり「あはれ」に所属する鳥であり「あはれ」という属性を保有する鳥である」となるのである。

さらに「ガ」人代名詞または人を指す名詞を承ける場合は、自己の身内とする者に対する卑下・親愛・無遠慮などの意味を併せ示したが「の」は「神の御代」「大君のみこと」「海女の漁火」など、尊敬・敬避・疎遠の対象を承けて用いる点で「ガ」と相違があり、その相違は鎌倉時代まで残った。少し長くなったが、ここに引用した文面には両者の違いの決定的な事項が含まれている。そのなかで両者の違いが鎌倉時代まで残ったと述べたところが特に重要であるが、これは後で詳しく述べてみたい。

ところで先に「冬キタリ・雪フリタリ」と助詞(字)抜きが古代の用法だと述べたが、それに対応するかのように現代にも存在する助詞抜きの用法では、一宮・下関・富士宮、それに鹿屋も含めてよいのではないか。これに対して「ノ・之・野」を入れる場合もかなり多い。むしろ

は完全に定着したものとなっている。ノもガもツと同じく連体助詞であったが、ツが衰退するのは逆に、ノとガは主格たる助詞に発展し接続助詞へと展開する。

「岩波古語辞典」によると、「ツ」が基本的な位置・存在の場所を示したのに対し、ガは地名・植物名・動物名などを承けて所在・所属を表した。例えば、おはやが原・きよみが崎・かほやが沼・あをねが嶽・梅が枝・松が根・尾花が末・雁が音など」と続き、さらに「わが宿・あが身・汝が名・妹が家・君が姿・里長が声」などがあってかなりはつきりした傾向が示されている。こうしたものを辞典は「自分自身、あるいは結婚の相手、両親など卑下・親愛の対象となるもので、「ガ」がそれとの間の所有または所属の関係を表している」と述べており、「ガ」が自分に親しい関係を表すと同時に相手に対して卑下し控える、あるいは謙遜の対象を見下す場合に使われていることがわかる。

しかし、それがなぜ地名の、特に山岳地名に使われているのか、これだけの資料では不明である。例えば先の例では時代が下ると正比例するかのようになり、口詠そのままの形に表現することが多い。

山岳名では圧倒的に助詞が入っているものが多く読みやすいが、古い時代から固有名詞として確立しているものはやはり助詞抜きである。いずれにしても助詞(字)抜きであるうとなかろうと、口詠の場合は助詞が入っているかのように扱われるが通例である。むしろ助詞を抜いて口詠する場合のきちんさは耐え難いものであり、やはり助詞はそうした調整の役割をもっていることや古代から続く日本語の性格を反映しているように思われる。

古来からまず言葉があり、その言葉が先に流通する。これを文字で表現する場面に生じる不可避の現象であるが、これを乗り越えるために先人はさまざまな努力を積み重ねてきた。それが送り片仮名であり助詞であったとみられるが、それでもなお残る古い時代からの慣習である助詞抜き表示は存在する。おそらく日本語の言葉としての助詞があろうとなかろうと慣例としての表現があったのであり、それを記述する際に混乱が生じているの

「あをねが嶽」がなぜそのような対象となるかわからない。

ひとつだけヒントのようなものを挙げると西日本の特に京畿のものとは思われないことだ。これらはたぶん東国の言葉使用が慣習的に出ているものと思われるので、全国的な傾向とは一線を引いておく必要を感じる。

次に問題となるのが「ノ」という連体助詞である。しかし不思議なことに「〇〇ガ岳」が無数に存在する一方で、「〇〇ノ岳」はほとんど無く、「〇〇ノ山」や、「〇〇ノ〇」岳がみられることである。②の山の代わりには峰や峠になったり、③の場合も木や岩など他の要因が加わることが多い。これは何を意味しているのだろうか、その疑問を解く前に再度「岩波古語辞典」をみることにする。

基本助詞解説のなかで辞典は次のように述べている。ノがガと異なる点の重要な点は、存在の場所を示すことであり、これが行為・生産の行なわれる場所に転じ、さらにその場所を所有する人物をも意味した。「古代的心性においては、所属していることは、その所属しているも

ではなかろうか。つまり、混乱しているのは、言葉ではなく文字を記述する側であり、漢字化・地名二文字への政令により混乱に拍車がかかったとみられる。

もとより地名はほとんど新しく生まれる。その地名が漢字で表記されることも多く生じてくれ、古来の日本語読みとの差が生じてくる。その穴を埋めべく考え出されたさまざまな対策のひとつが助詞であったのではなかろうか。中国から入った漢字がいかに立派に確立されているように、我が国で口詠される際に不便な思いをさせ、あるいは発音的に無理が生じる可能性があるとき、庶民は自然に別の方法のあることに気づいたはずだ。

漢字ばかりではない。その後に入ってきた外国語に対しても日本人は発音の困難性乗り越えるために日本流の表現をしてきたことを記憶している。その独自の発音が現代の世界で通用する可能性はほとんどない。少なくとも外国語会話教室では頭から否定されるだけである。

しかし昔から日本に入ってきた外来語は現在では見事に日本語と同化している。それはもはや日本語となっていて、本家では通用しない独自の言葉となって日常の

なかで活躍している。

それでも地名の扱いに混乱が生じたため、国土地理院と海上保安庁水路部が協議して「標準地名」を作成しており、これは日本地図センターで入手可能であるが、特に自然地名を集録した「標準地名集」がよい資料となる。

地名の台帳ともいえるこの資料集をみてもやはり助詞の代用ではないかと思われる。「之・野」があり、古くは「万葉集」で「麓」を助詞に使う例がみられ、現在も固有名詞の一部で使われる。

山名としてはマイナーではあるが、鈴鹿に比婆之山がある。中国地方の比婆山と同じ性格の山名だが、こちらには「之」が使っている。この山が特定の信仰対象とされたからで、尊敬の意味を表すための用法である助詞の扱いに忠実であることに納得する。このように後世になってから助詞を入れる場合もあることの良い例として記憶しておきたい。

発音の便利さから助詞は有用であるが、記述する際には助詞を落としやすいから、いっそのこと仮名書きやローマ字にすべき、という一派まで現れて国語問題は永遠に解消する気配はない。

持主との関係が希薄な時代になったのである。封建社会の主従関係が網目のようにならない時代にはない、戦国時代特有の乱世もそれに拍車をかけたに違いないし、物事を客観視することも可能な時代背景が感じられる。

山岳名の場合に限ってみると助詞はほとんどの名称に付されていて、ノは少なく圧倒的にガが多いことは、こうした時代差を考えると比較的新しい用法であることがわかる。また当然のこと、ノからガへ変化したこともあるのかも知れない。

ノが荘園の山林などの名称に用いられたとするとノからガへの転はその所有が放れたことを意味する場合もあれば、客観的存在となったこともあるのだろう。助詞ノもじびゆく時代である。

現在の山名のうち助詞であるガ又は、ケが以上の説ですべて解けるかというところはいかないのである。

次は項を改めて助詞の「ケ」について述べてみたいと思う。

さてひと通りの話をしてきたが、先述したようにノやガの助詞(字)がどこで生まれ、どう使われてきたかの問題に移る。先にノとガの違いが鎌倉時代まで残ったと述べている。

その原因は両者の出身地にある。ノが主として所有する側の表現であり、ガは所屬する場合と謙讓語に近い違いがあった。その違いの差はこの国の東西関係と結びついている。縄文・弥生時代を経てこの国の東と西では地位(優位性)が幾度も変転している。縄文時代は東国が優位であったが、弥生の米作中心社会となると圧倒的に西日本が優位となり、東国を支配する構図が生じる。これが言葉の上でも確認されるというのである。

先に述べた東日本に流通した助詞にガが多用されている事実がそれに相当する。これに対して、ノを使った西日本では所有者側の言葉として認識されているので言葉の上でも西日本が東日本を支配したことが証明されているという。この説の有力なものが「日本語はいかにして成立したか」を著した大野晋氏である。

大野氏はまず東西の相違について「相違は過去二万年にさかのぼって見出され

る事実で、単に文化的相違ある状況を示しているというよりも、むしろ、非常に古い時代には、東と西とによって、別系の人種、また民族が住んで生活していたと見る方がよいと私は考えている。この東西日本の対立は、奈良時代以後も続いている。従って源頼朝が鎌倉に幕府を開いたことは、東西の力関係の再逆転として重要な意味をもつ」と前置きしておいて、先般から述べてきた東西における助詞の使い方に言及されている。

「東国人は弥生時代以来、畿内の人たちに対して、自己を卑下して表現し(中略)ノでなくガを使った。(中略)西国優位の政治・文化の状態による(中略)鎌倉時代から室町時代にかけて、日本の東西の力関係に徐々に変化が生じ、東国の影響が大きくなってくると、卑下・親愛の表現として多く使われていた東国風の用法が下層社会から広く一般社会に使われるようになった。明らかに尊敬すべき対象に対しては助詞ノを使ったが、尊敬にかかわらない対象、あるいは客観的に扱う対象を主とする際に、従来は、助詞なしで表現したところに、ガを入れて表現する風が広まった。」つまり所屬・



滋賀県神崎郡永源寺町佐目村の若宮八幡社に残る古文書「金峯塔尾參詣道名所跡付・上之巻・下向道之巻」から、水舟の池と姫ヶ瀑布については本誌33号、「蜂巣山併せ鬼坂・野首・人衆坂之事」については55号の「伝説・伝承の紹介」ですでに紹介したが、今回は御金明神について紹介する。

「金峯塔尾參詣道名所跡付上之巻」より金峯塔尾霊場
金峯塔尾の宝所は用明天皇の御宇に露れ定なるなり。宝塔の高さ一丈礼盤の高さ七尺五寸台座の高さ四丈五尺。山高く溪深くして人跡至らざる靈地にして、誠に人力の及ぶところにあらず、怪石奇塔なり。抑々この閻浮檀金の鑿口は薬師如来の器なり唇の形ち鑿口のごとく鑿こと、そのゆえいかなればこの鑿口にして極悪重罪のもの海に赴く時、彼鑿忽ち難

風を起して罪業深き者に信心の志を發せしめて、彼鑿口悉く罪業を取て啖となり。そのゆえをもつて彼鑿の形ち鑿口の如く鑄て、薬師これを囑して一切の衆生を救うい給うと云々。ここに天竺の月氏国の阿育大王の太子拘那羅王・繼母の説によりて左眼を失す。この時にあたって薬師如来阿育大王の宮中に出現あつて、太子瞎眼を治し忽ちに癒ぬ。阿育大王厚く菩提心を発して、不可思議神通大力の鬼神に命じて一日に八万四千塔を造り、南閻浮提八万四千の国土へ投られ、先薬師如来へ報恩のために第一東方に投らるる。即ちこの山に留る。これを多宝塔と謂う。即ち薬師如来の垂跡なり。それより金峯塔尾と云々。



五十年作り重し罪業を塔を拜して懺悔するなり一筋に願う心の消ければ作りし罪もきえて行くらんわがごとき罪業深き身なれども瑠璃光如来助たまえや

(里山シリーズ33 米原)

みどりと戦国ロマンの里山

史跡 太尾山城跡と南尾根

一般コース(★)

長宗 清司

京阪神方面からJR東海道線(琵琶湖線)で米原駅に近づくと、琵琶湖と反対(東側)に低い山並が目飛びこんでくる。数年前、鳥居本に住む知人から「一度歩いてほしい」と言われていた里山である。おおよそ地元の人以外歩くこともない、登登山の対象にするほどでもない山だと思ってしまうほどだったが、すずめられていたこともあり、滋賀県で、JRの駅から間近かな里山は、もうここだけしか残っていないようなので、今回登ってみることにした。ところが、これが結構楽しいコースだった。

米原駅東口から、まっすぐ東へ進むと突き当たりに「青岸寺」がある。今日は

やぶ漕ぎを予想していたので拝観はカットし、鎌刃城跡の記事(本誌80号・シリーズ25)で紹介した青岸寺の駐車場(手前の広場)から左へ遊歩道に入る。以前は道標も無かったが、城跡の調査を終えたらしく、きちんとした案内の看板が立っている。みどりと戦国ロマンの里山「史跡太尾山城跡」を巡るハイキングコースへと誘導している。山道は、すぐに寺の上部に出て境内を見下ろせる位置に三叉路があり、八田山自然道へ左折した。やがて町境尾根に登り着き、南下すると関電の鉄塔下に出た。北側には遮るものもなく伊吹山の雄姿が望めた。

しばらく、よく踏みしめられた尾根道をたどると、まるで飯頭を半分に分けたような奇妙な形の大きい「盗人岩」に着いた。岩の上に立つと、まだそんなに登っていないのに琵琶湖が鮮やかに目に入った。この尾根筋には南北に関電の高圧線が走っていて、この先四つも五つも鉄塔に出くわした。

太尾山城の築城年代は明確ではないが、『近江国坂田郡志』によると地元の土豪米原氏が築いたと記されている。文明三年(1471)、米原山で合戦があった頃

盗人岩から琵琶湖が見える(北城跡手前)



に築かれたらしく、戦国時代には、湖南の守護六角氏の城となっていたようで、天文二十一年(1552)に京極高弘が太尾山城攻略を今井氏に命じたが失敗している。永禄四年(1561)には浅井長政によって攻略され、長政は浅井郡の土豪中嶋宗左衛門を城番に入れ置いたが、元亀二年(1571)、織田信長によって彦根の佐和山城が攻められると、中嶋宗

左衛門も太尾山城から退き、以後廢城となった。

太尾山城は、南北二つの城郭から構築されている。北城は254・3層の山頂に築かれて、北辺は土塁を巡らせた主郭と南方の三段の曲輪からなり、その先端は「堀切」によって尾根を切断していた。このあたりクヌギが多く、今年はドンダリの実がたくさん落ちていた。

やがて、登山口の青岸寺へ戻る「湯谷神社」へのT分岐点回遊路と分かれ、さらに南へと向かう。南城は、標高242・4層の山頂に築かれ、方形の主郭を中心に尾根筋を階段状に削り平らにして曲輪

を配し、南北端には巨大な「堀切」を設けていた。南城跡付近には白いかわいいコウヤボウキの花が多く咲いていた。アオスジアゲハの仲間らしい蝶が数匹ひらひら舞って、目を楽しませてくれた。

この先で、あまりに尾根を追いすぎ、目的とは逆に下りそうなので、道を左にとったがまた行き過ぎで、同じ所を引き返すアルパイトを強いられた。あとは松茸山を示すポリテープで区切られた際を忠実に歩いて、七つ目?の鉄塔に出た。葛蒲岳城跡の3等三角点294層は、ここから100層先の雑木のなかで見つけた。鉄塔下に戻って昼食をとった。



結局、この尾根筋はほとんどが関電の巡視路で、思わぬ拾い物をした。最後は、中山道の「番場宿」と「鳥居本宿」の間あたり、名神高速道路沿いの三叉路に

降り立った。

好みによってどちらへ向かってもいい。旧鳥居本宿は、昔の中山道六十七次、江戸から数えて第六十三次にあたる旧宿場町。摺針峠を越え、町の北外の国道8号と交わるあたりの松並木がその面影をとどめ、約2km続く袖帯に格子構えの家並や看板が旧街道の雰囲気をもたし出している。(平成17年10月16日歩く)

▲コースタイム▼

- JR米原駅(10分) 青岸寺(10分) 八田山自然道分岐点(10分) 関電鉄塔下(15分) 盗人岩(30分) 太尾山城北城跡(20分) 湯谷神社への分岐点(20分) 南城跡(30分) 松茸山際(45分) 鉄塔下(45分) (葛蒲岳城跡三角点(10分往復)) 旧中山道、名神高速道路三叉路(20分) 摺針峠(45分) 近江鉄道鳥居本駅
- △地形図V2万5千 彦根東部(問い合わせ先)
- 米原市教育委員会社会教育課
- 0749(52) 1551
- 青岸寺
- 0749(52) 0463
- 米原市観光協会
- 0749(52) 1551
- 近江鉄道
- 0749(22) 3303

2等三角点のある山

母袋烏帽子岳・毘沙門岳・見当山

山形 歳之

母袋烏帽子岳

(1340・9分 2等点名栗果)

初級コース(★)

東海北陸自動車道の郡上八幡インターで降り、栗果に向かう。母袋温泉の道標に従ってスキー場に到着する。

シーズンオフで人影も無い駐車場に車を停める。管理の建物が一軒あり、入口に母袋温泉ののれんが垂れている。建物も民宿並みで客の姿も見えず、温泉の趣もない。声をかけ登山道の様子を尋ねる。「林道はキャンプ場にのびているが車はここに置いてください。温泉は500円です」との話。

キャンプ場を過ぎると道標が出てくる。

れて槍峰に到着する。峰の左右にはスキー場が広がる。左折して白鳥高原スキー場下の駐車場に車を停める。

上の駐車場に向かう道左手から林道が分岐し、登山口迄700分の標示がある。折から車が来たので尋ねると、「登山口まで車で行ける」とのこと。車を乗り入れた。地道を500分くらいで登山口に到着する。駐車場ではないが、道端に四つ五台の余裕はある。

案内板には「山頂迄120分」とある。最初は植林の急斜面だが、10分程でゆるやか道になり、稜線の一角に登り着く。視界が開け、毘沙門岳が姿を現す。左に大きく弧を描く稜線がのびて「山頂迄80分」の標示。ササ刈りされたゆるやかな道の鞍部に到着する。右下から「林道」と表示された道が合流し、「山頂迄30分」



分岐には必ず標示があつて道を外すことはない。刈り払われたササが道を塞いでいるが、手人はよくされ歩きやすい。稜線近くになるとシラカバの道となり、やがてブナの道となる。小さい鞍部に簡易トイレのボックスが一つある。使用されているのか？ 自然林のなかでは場違いの感がする。

山頂には東西南北を示す方位柱と、山名標識・三角点。展望はあまり無いが、西北方に高速道の橋梁が望まれた。立派な山名のわりには味気ない山頂である。

下山はトイレのある鞍部から林道にくだった。ガイドにも記載されている道だが、標示も無くやぶが被って不明瞭。今は歩かれていないようだが、林道までそう遠くはない。

林道上部はブル道状で、普通車では通行不能である。

人家が見え、温泉下の村道に降り立つ。少し登って駐車場に戻った。

(平成17年10月20日歩く)

▲コースタイム▼

キャンプ場(50分) 古林道横断(40分)

トイレの峠(8分) 母袋烏帽子岳(5分)

トイレの峠(15分) 林道(1時間) 母袋

とある。ここからは最後の急登で、時間通りに30分汗をかかされた。

展望はすばらしく、大日岳がひときわ高く、眼下に石徹白の集落が広がる。遠く白山連峰が霞んでいる。それにしても山肌を削るスキー場の姿は痛々しい。

下山後、満天の湯に入る。こんな山中で営業が成り立つのだろうか、スキーシーズンには人も多だろうが700円はちと高い。(平成17年10月21日歩く)

(平成17年10月21日歩く)

▲コースタイム▼

白鳥高原スキー場登山口(1時間30分)

毘沙門岳

5万1白鳥 2万5千1石徹白

▲地形図▼

見当山(1352分 2等点名一色)

国道156号線をさらに北上し、高鷲村のひるがの高原に向かう。郡上高原ゴルフ場の入口を過ぎ、左折した所に車を置く。右の砂利林道に入り、大きく右折した所で左の林道をとる。

見当山は近年オリエンテーリングの道が付けられ、各所に番号がある。しかしすでに古くなって消えかけている。ガイ



毘沙門岳登山口

温泉駐車場
▲地形図▼5万1白鳥 2万5千1那留

毘沙門岳

(1385・5分 2等点名毘沙門岳)

初級コース(★)

長良川沿いの国道156号線を北上し、前谷から石徹白に向かう槍峰に登る。阿弥陀ヶ滝を過ぎ、満天温泉の道標に導か

DにあるP19が見つからず、気づいたのはP25であった。地形図を確かめて稜線に出ると、P14となる。山頂はP17からだが右左か不明なので、先ず右に稜線をたどるとP13になった。引き返して左に伝って行くと、P17の小さいピークに登り着いた。ここからオリエンテーリングの道と分かれ、山頂への登山道を10分程で見当山に到着した。

稜線の一角にあり、山頂の趣はなく、展望も良くない。三角点のみであった。下山はP17から西に向かい、P19から林道にくだる。稜線にはなお良い道がのびていたがどこにくだるのか不明なので、林道にくだった。しかし道は悪く、登りに見越こした登山口の道標も木の陰で、「P24見当山登山口」の文字も消えかけている。

地図に山名があり、ガイドに載っている山にしては登りがいかなかった。

(平成17年10月22日歩く)

▲コースタイム▼

郡上高原ゴルフ場、林道分岐点(20分)

P24登山口(約30分) P17(10分) 見当山

▲地形図▼5万1白鳥 2万5千1大鷲

特選コースガイド

井天堂の沢に咲くクリンソウ

比叡山から瓜生山・狸谷不動院

一般コース(★)

松尾 一郎

JR湖西線比叡山坂本駅から西へ国道161号線バイパスを渡り、比叡の山並を望み西進する。鳥居と京阪坂本駅を過ぎ、二つ目の鳥居が現れると道幅が広くなり、やがて日吉大社前に着く。本坂登山口には大きな常夜燈が並び、幅広い石段を比叡山高校の脇沿いに登る。

5分足らずで大宮林道とX字状に交差し、舗装された本坂道をしばらく行くと南善坊コリ坂下に着く。まっすぐ木坂道を行ってもよいが、右へコリ坂の石段を登る。コリ坂の石段の両脇には花木や山野草が植わっており、四季折々の花、特に秋にはシユウメイギクが楽しめる。コリ坂は階段上部で左へ本坂道に合流

し、急な地道の登りで高圧電線の鉄塔に着く。ここからゆるく登って、途中花摘堂への小径を左に分け上部で合流し、地蔵を祭る道標の建つ開けた三差路に出る。右へゆるくくだる道は悲田谷、大宮林道を経て坂本への下山コース、東塔へはまっすぐやや広くなった登り道をとる。このあたりから比叡の道跡が断片的に現れ、程なく広場状の亀塔に着き、休憩所を兼ねた御堂がある。

東塔へは奥の簡易舗装の登り坂を行く。やがて急坂となって左へゆるく曲がり、左に法然堂をやり過ごす。登り切ると新装なった延暦寺会館の前。坂道がゆるくなる。東塔の「一隅を照らす会館」前の広場に出る。根本中堂へは広場前から右の幅広い階段を降りる。

比叡最高峰の大比叡へは、会館前から西へ舗装の坂道を登り、季節にはシャクナゲの咲く境内を進むと幅広い54段の石段が現れ、登り切ると阿弥陀堂前になる。左奥の朱赤の回廊を滑り、左の回廊沿いの木製階段を上ると、数基の鎮魂碑の建つ広場に出る。その前を通り過ぎ舗装階段を登り、「山頂」への道標に従いジグザグの山道に入って高度を稼ぐ。左か

井天堂の沢沿いに咲くクリンソウ



ら比叡山ケーブル延暦寺駅からの登り道に合流(道標無し)し、N.T.Tの無人中継所の右横に出る。道は左右に分かれるが、左の山道を登ると二基の無人テレビ中継塔に続き大きな用水槽がある。その水槽の奥、小高い木立ちが大比叡(848.3m)山頂で一等三角点がある。ただし樹木が繁茂し、展望は無い。大比叡からケーブル延暦寺駅へは先ほ

どの分岐まで戻り、まっすぐくだるルートをとる。左に智證大師(円珍)廟を見て急勾配の下りとなり、墓石群が見えるとその下が比叡山ドライブウェイで、三



比叡山・瓜生山付近略図

差路に降り立つ。車道を二度渡り無動寺バス停横の朱塗りの鳥居を滑り、ジグザグ道をくだるとケーブル延暦寺駅。駅前広場からは東方の展望に優れ、琵琶湖や沖ノ島・竹生島・伊吹山、ときには白山や御嶽が遠望でき

る。井天堂へは延暦寺駅より鳥居を滑って、参道(東海自然歩道併用)を南に進み、無動寺地域に入る。杉の古木に囲まれ、小砂利の広い参詣道をくだって行く。行場を兼ねた水場があり道が水平になると鳥居の建つ井天堂への分岐点に着く。

道標に従い右へ鳥居を滑ってくだると、井天堂境内。クリンソウ(注1)の群生地は井天堂の奥外れで、左の沢(四つ谷川源流)への石段を降りる。クリンソウはサクランウウの仲間では一番の大型種で湿地や水辺を好み、花期は5月連休~下旬頃で絶滅危惧種である。クリンソウはお寺

(井天堂)が世話をしており、比叡山城でも貴重な植物なので、けっして採ったり湿原に入ったりしないように。また、お寺の話では、この一帯にはイワタバコが群生(比叡山の自生地はここだけ)しており、花期(7~8月に赤紫の花を着ける)には観賞に訪れる人があつたこと。

クリンソウを観賞したら元に戻り、沢の上部を木橋で渡り、左に曲がり土道の登りになる。ここから比叡山境内を出ていよいよ東海自然歩道に入る。土道をジグザグに登り、鳥居のある三差路は右に行く。コースは山腹を捲いており、いくつもの支尾根・支沢を越えて行く。途中に落石や崩落状の場所もあり、雨天・雨後には慎重に行動しよう。

しばらく行くと鳥居の建つ広場状の桜茶屋跡に出る。かつては茶店もあったが、今はベンチすら朽ちている。そのすぐ先で東海自然歩道は比叡山ドライブウェイに近づき、北白川方面への道標が建つ。病ダレの四角い隣道が右に現れる。ここで東海自然歩道と分かれて右へ隣道を滑る。小径を進むとすぐ左からドライブウェイから分かれてきた坂端林道に出る。坂端林道は舗装と砂利道が入り交り、音羽川



坂端林道終点の大鳥居

源流に沿って大鳥居までゆるい下りが続く。左岸から源流の清流を見下ろしながら、車の通らない明るい静かな林道をゆっくりくわだてて行く。朱塗りの祠と取水場が現れ、林道は右岸に移る。初夏ならツツジの咲く明るい道で、再び左岸に移ると、林道は音羽川より次第に高くなってゆき、南比叡登山コースの一拠点、大鳥居に着く。

坂端林道の終点でもある大鳥居は五差

路(注2)の分岐点で、道標が設置され京都東山トレイル飯標(67)もある。大鳥居からはまっすぐ南方向への尾根道(東山トレイル)をとり、ススキ・雑木まじりの明るい尾根道を行くと、道が溝状になって曼珠院分岐に着く。道標(トレイル66)に従い左のやや登り道に入る。なお、ここからまっすぐくだる道は一乗寺川コースで、曼珠院を経て叡電修学院駅へ出るが、沢は少々荒廃しており、余りすすめられない(一応倒木で塞いである)。

ゆるい登りから下りになると、右斜めから林道(ここで終点)が近づいてくる。

この林道は曼珠院からのもので、下部で先ほどの一乗寺川コースと合流する。

雑木の尾根道を行くと、すぐ左に地蔵谷への下り道を分け、次いで見晴台(草木が茂り展望なし)への迂回路を左に分けすぐ合流し、続いて登山路は左に北白川ラジウム温泉への道を分ける。しばらく行くと東山トレイル(60)も左に分かれる。登路はその先で右からの山道と狸谷不動院からの参詣道が合流し、左に曲がり尾根道を一気に登り切ると、右から狸谷不動院からの近道コースを併せ、瓜生

山(3011m三角点無し)(注3)にたどり着く。木が繁り展望は無く、狸谷山不動院奥の院が覗かれている。

瓜生山から狸谷への下山路は三コース(順次参詣道に合流)(注4)あるが、最初に合流した参詣道をくだる。先ほどの分岐まで戻り、道標に従い左の参詣道をくだる。すぐ先で左へ三十六童子巡りの巡拝路(近道コース)を分け、右にどんどんくたてて行くと建物が現れ、不動院の男尼坂階段(4段)の上に着く。石段を降り本殿始め多くの伽藍が並ぶ狸谷山不動院境内に下り立つ。

全部で250段の境内階段を順に降り不動院を出て、西へまっすぐ進み詩仙堂を左に過ぎ、宮本武蔵と吉岡一門の決闘で有名な一乗下り松を左に見やり、車行き交う白川通を渡り、叡電一乗寺駅に着く。

Aコースタイム

JR比叡山坂本駅(18分)本坂登山口(6分)大宮林道交差(3分)南善坊コリ坂下(5分)コリ坂上(13分)鉄塔(35分)悲田谷分岐(10分)危塔(15分)東塔(会館前広場)(5分)阿弥陀堂

一般ルートではない。

(注3)：瓜生山には、狸谷不動院の奥の院として幸願大権現が奉られている。このあたりは大永7年(1527)、室町幕府管領細川高国が築いた北白川城の跡地で、戦国の世には幾多の戦陣が敷かれた。

(注4)：瓜生山から狸谷への下山三コースを案内する。
①一般参詣道……参詣道分岐点で左の下り道に入る。まっすぐの尾根道(山道)に入らぬこと。
②近道コース……道標に従い山頂からすぐくだるが、最初の三差路は巡拝路で右に行き、次の三差路は参詣道に合流するので左にくだる。

③三十六童子巡り巡拝路……巡拝路を避にくだるコースである。瓜生山頂から北白川方面にくだり、三差路を右(巡拝路)に入る。急坂道をくだって行くと左に狸谷不動院の本殿などの建造物が現れるが、左は崖で道は無い。巡拝路をおも行くのと朽ちた丸太橋(圓運橋)で慎重に渡り、岩場(危除け坂)が現れ鎖につかまって登る。しばらく進むと道は②の山頂からの近道コースに合流する。



瓜生山山頂の幸願大権現(狸谷不動院の奥の院)

(30分)大比叡(15分)ケーブル延暦寺駅(12分)無動寺分岐(5分)弁天堂(40分)桜茶屋跡(3分)病ダレ隧道(坂端林道30分)大鳥居(15分)曼珠院分岐(13分)林道終点合流(17分)瓜生山(15分)狸谷山不動院(20分)叡電一乗寺駅

*時間の都合等により、大比叡(比叡山頂)登頂をカットしてもよい(約40分短縮)

縮)。東塔(舗装の水平道8分)ケーブル延暦寺駅
△地形図▽2万5千(京都東北部)

(注1)：クリンソウは、かつては比叡山全域で自生していたが、濫獲と環境の激変で大幅に減少した。京都府始め西日本地域では絶滅危惧種に指定されている。京都府の自生地は数ヶ所だが、比叡山では弁天堂以外にもレッドデータブックにも載っていない自生地があるとのこと。

弁天堂の湿地には秋(9~10月)になると、黄色い花のオタカラコウも咲く。(注2)：大鳥居からの各コースを案内する。

- ①右へは沢を二つ渡って、水飲場対陣跡に出る。そこから、霊母坂を経て修学院へ、または梅谷道を経て赤山禅院へ。
- ②まっすぐ南下する尾根道は瓜生山を経て北白川伏伏町へ、または狸谷へ。
- ③まっすぐ鳥居を過ぎる道は地蔵谷を経て北白川ラジウム温泉へ。地蔵谷は刈り払いされてなく荒廃気味。
- ④左へ小尾根を登る小径は比叡山ドライブウェイの一本杉へのルートで道標無し。

悲しい伝説の山

人形山

健脚コース(★★★)

金谷 昭

越中五箇山と奥飛騨白川郷との間にそびえる人形山は、悲しい伝説の山である。女性的な山容の頂上からの大展望、ニッコウキスゲを始めとする山野草が楽しめる山で、日本三百名山になっている。

昔、庄川のほとりに住む仲の良い姉妹が病気の母親に和菓子を採りに雪深い山に入り、山上の権現堂に詣でての帰り道に迷って谷底に消えたのを村人は大変悲しんだが、春になると姉妹2人が手を握りあった姿の雪形が現れることから、いつしか人形山と呼ばれるようになった。越中五箇山の国道156号線の上梨バス停より庄川を渡り、国民宿舎を左に見

て湯谷右岸の舗装林道(高成線)に入ると行く、左に地道の林道が出てくる。この林道は後述するマルツンポリ山への林道で、これを見送って先に進む。支流船頭川に架かる橋を渡った所で分岐となり、谷奥にのびる舗装林道から離れて左の田向尾根の地道の林道に入って山腹に取り付く。雪崩による土砂崩れの多い場所だが維持管理が行き届き、地元の努力がうかがえる。林道は尾根にのり、やがて尾根が広がる中根平に達して山小屋「中根山荘」が出てくる。

この山荘は、付近の登山道や大笠山遊離小屋の建設と維持管理に奮闘されている地元の山崎富美雄氏によるもので、最近是一般登山者の宿泊にも開放され、人形山登山の良好な足場となっている。山崎氏からは付近の山の情報も聞ける。林道は山荘よりさらにのび、東屋のある休憩所が出てきて、その脇に4等三角点(830.75)が置かれている。ここからは尾根の左にのびる林道を離れ、道標の脇から登山道に入る。

ゆるやかな樹林帯を登って行く。この山には一本道。約1時間程で第一ベンチ、さらに半時間程で第二ベンチ。こ

こでも4等三角点(1208.7)6等点名奥山(上)があり、この付近からは人形山の北面が望めるようになる。サラサドウダン・マイヅルソウなど花の多い平坦地(的場平)を過ぎると、ロープもある急登が始まる。次第に広がる展望を楽しみつつ登って行くくと高木が無くなり、鳥居のある広い台地に飛び出す。

ここが宮屋敷と呼ばれ、昔上梨の白山宮が置かれていたという。展望はすばらしく、ポリウムのある人形山は圧巻である。例の雪形は全開になった東北面に、5月下旬から6月上旬に見られるようだ。宮屋敷から灌木のなかを少し登って尾根線に出る。曲りくねったタケカンバの巨木を過ぎ、見返り坂をくだると前方にピラミダルの三ヶ辻山が現れる。極楽

平と呼ばれる見晴らしの良い平坦地を行くと梯子坂の登り返しなり、登り切ると梯子坂乗越の三ヶ辻山との分岐となる。三ヶ辻山へは人形山の場途に寄ることにして西に向かう。付近にはニッコウキスゲの咲く池塘もあり、チシマザサやオオコメツグの草原となっている。ゆるやかなアップダウンを繰り返すと、人形山頂上(1726)に達する。

展望は山頂からよりも、10分程南の草原が優れ、360度の大展望。南西の白山から始まって北に笈ヶ岳・大笠山・大門山から日本海、そして鋸岳から始まる北アルプスの奥穂岳・御嶽、山座同定に時の経つのを忘れるほどである。頂上には三角点はないが、北西にのびた次の1679・3がピークのカラモン峰に3等三角点が置かれている。点名に人形山と



あるが、そこまでは濃いササやぶの踏み跡をたどる。帰途、時間と余力があれば三ヶ辻山に寄ろう。往復2時間を見ておけばよい。梯子坂乗越の分岐から南に入るが、登山道は人形山に比べて悪く、特に前半は木の根をまたぎ枝を滑り抜けて行く。道ははっきりして迷うことはない。中間付近ではホンシヤクナゲの群落があり、そのうちに道は良くなりゆるやかにくだって登り返して頂上台地に着き、平坦地を少しで頂上に着く。2等三角点(1764.4)が中心とした小広場。周囲は低灌木で人形山同様展望は優れている。なお頂上南側にオアシスのような二つの池塘がある。

下山は往路を忠実にたどればよい。宮屋敷からはすばらしい春の新緑、秋は紅葉を楽しみながらの下山となる。なお、宮屋敷からマルツンポリ山への地形図にある点線路は現在廃道となっている。(平成17年10月22日〜23日歩)



三ヶ辻山への乗越より人形山

この山は、付近の登山道や大笠山遊離小屋の建設と維持管理に奮闘されている地元の山崎富美雄氏によるもので、最近是一般登山者の宿泊にも開放され、人形山登山の良好な足場となっている。山崎氏からは付近の山の情報も聞ける。林道は山荘よりさらにのび、東屋のある休憩所が出てきて、その脇に4等三角点(830.75)が置かれている。ここからは尾根の左にのびる林道を離れ、道標の脇から登山道に入る。ゆるやかな樹林帯を登って行く。この山には一本道。約1時間程で第一ベンチ、さらに半時間程で第二ベンチ。こ

こでも4等三角点(1208.7)6等点名奥山(上)があり、この付近からは人形山の北面が望めるようになる。サラサドウダン・マイヅルソウなど花の多い平坦地(的場平)を過ぎると、ロープもある急登が始まる。次第に広がる展望を楽しみつつ登って行くくと高木が無くなり、鳥居のある広い台地に飛び出す。ここが宮屋敷と呼ばれ、昔上梨の白山宮が置かれていたという。展望はすばらしく、ポリウムのある人形山は圧巻である。例の雪形は全開になった東北面に、5月下旬から6月上旬に見られるようだ。宮屋敷から灌木のなかを少し登って尾根線に出る。曲りくねったタケカンバの巨木を過ぎ、見返り坂をくだると前方にピラミダルの三ヶ辻山が現れる。極楽

- (参考) マルツンポリ山(健脚向き)
- 前述の左に分岐する地道の林道に入る。大変な悪路であるが中腹で最近開設の林道となり、走りやすくなる。尾根を越える付近からブナ林の高原台地が出てくる。三差路に立派な作業小屋が出て、右をとりますぐ林道終点となる。右の小沢をつめ、最後は激やぶを300m滑り下り、3等三角点(1588.6)が置かれた大動場に出る。
- 山崎氏から、人形山からの尾根コースを近々復旧すると聞いた。
- ▲コースタイム▼
- 中根山荘(15分) 東屋の休憩所(1時間)
- 第一ベンチ(40分) 第二ベンチ(35分)
- 宮屋敷(35分) 梯子坂乗越(30分) 人形山(1時間) 宮屋敷(1時間35分) 東屋の休憩所(15分) 中根山荘*道標あり
- △地形図▽2万5千1:1上梨
- *6月第一日曜日に山開きがある。
- (問い合わせ先)
- | | |
|------------|--------------|
| 山崎富美雄 | 0763(66)2320 |
| 加越能バス | 0766(22)4888 |
| 南砺市(旧上村役場) | 0763(67)3211 |

沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

近鉄

▽奈良ふれあいハイキング「葦原・高取を歩こう」5月7日(雨)雨天中止(集合)葦原山駅9時40分〜10時10分(コース)葦原山駅―(土佐街道)―葦原寺―五百羅漢―高取城跡―猿石―砂防公園―植村邸―夢創館(観光案内所)―葦原山駅(約11分)参加自由・無料(拝観料は別途)、近鉄大飯イオン(係員同行)係06(6775)3566
▽駅長お薦めフリーハイキング「みどり豊かなくろくろ池周辺を散策」5月13日(雨)雨天中止(荒天の場合5月17日(休)に延期)(集合)けいはんな線白庭台駅9時〜11時(コース)白庭台駅―高山竹林園―くろくろ池自然公園―学研北生駒駅(約11分)係員同行(不参加)参加自由・無料(拝観料は別途)、生駒駅0743(74)2056
▽朝日・五私鉄リレウウォーク「能登野の土舞台から日本三文殊の安徳文殊院まで(飛鳥の里へ)」5月14日(雨)雨天中止(集合)昭和公園(桜井駅より約5分)(コース)昭和公園―土舞台―安徳文殊院―御厨子観音妙法寺―橿原市昆

京阪バス

▽三角点トレック「タキノタニ・廣村八丁コース」5月13日(出)柳駅コンコース8時〜8時30分(コース)出町柳駅(バス)小塩ノットバ峠―タキノタニノットバ峠―廣村八丁―刑部谷―ダングノ峠―佐々里峠(バス)出町柳駅(約11分)参加定員各200名(電話申込制)(4月13日(休)より受付)参加無料(バス代別途)(申込先)京都バス運輸部営業課075(871)7521152(月曜)金曜の9時〜18時

山陽電車

▽山陽ハイキング「垂水・史跡めぐりハイク」5月28日(雨)雨天中止(集合)西舞台駅北0.2(大蔵山遺跡公園)10時(コース)大蔵山遺跡公園―多聞寺―雅祥院―舞子墓園公園―五色塚古墳(県下最大の前方後円墳)―殿ヶ丘駅(約9分)参加自由・無料(電話申込制)参加無料(バス代別途)須磨浦遊園ハイキング係078(731)25220

神戸電鉄

▽神戸ハイキング「伝説の権左衛門」5月3日(雨)雨天中止(集合)箕谷駅9時40分(コース)箕谷駅―大滝口―無動寺―山崎谷川―権左衛門山―志久道―箕谷駅(約12分)参加自由・無料(神鉄観光事業部078(521)0321)

▽三角点トレック「近江今津の武奈ヶ嶽コース」6月3日(出)10日(休)小南沢行(集合)京阪出町柳駅コンコース8時〜8時30分(コース)出町柳駅(バス)角川生活改善センター―光明寺―赤岩三角点―武奈ヶ嶽―三重嶽への分岐―ワサ谷林道入口―石田川ダム(バス)出町柳駅(約9分)参加定員各200名(電話申込制)(5月2日(休)より受付)参加無料(バス代別途)(申込先)京都バス運輸部営業課075(871)7521152(月曜)金曜の9時〜18時

▽火曜ハイキング「紅葉谷・地獄谷西尾根コース」5月16日(雨)雨天中止(集合)有馬温泉駅10時(コース)有馬温泉駅―紅葉谷道―六甲ガーデンテラス―記念碑台―グアイヤモンドポイント―地獄谷西尾根―大池駅(約13分)参加自由・無料(神鉄グループ総合案内所078(592)4611)

▽火曜ハイキング「紅葉谷・石切道コース」6月27日(雨)雨天中止(集合)有馬温泉駅10時(コース)有馬温泉駅―紅葉谷道―石切道コース(約13分)参加自由・無料(神鉄グループ総合案内所078(592)4611)

▽山陽ハイキング「西福寺・金ヶ崎自然公園ハイキング」6月11日(雨)雨天中止(集合)山陽魚住駅下車(魚住住吉公園)10時(コース)魚住住吉公園―西福寺―長坂寺跡―金ヶ崎自然公園―柳井住吉神社―江井ヶ島駅(約10分)参加自由・無料(須磨浦遊園ハイキング係078(731)25220)

▽山陽ハイキング「西福寺・金ヶ崎自然公園ハイキング」6月11日(雨)雨天中止(集合)山陽魚住駅下車(魚住住吉公園)10時(コース)魚住住吉公園―西福寺―長坂寺跡―金ヶ崎自然公園―柳井住吉神社―江井ヶ島駅(約10分)参加自由・無料(須磨浦遊園ハイキング係078(731)25220)

せせらぎ

題字・小林玻璃三

平成17年2月、一市二町八村が合併して白山市が誕生した。白山の名を拝借するに当たって岐阜県側に遠慮はなかったのだろうか。岐阜県側からは高い所に登らないと白山が見えないが、加賀平野からはおよそどこからでも白山が見えるので、あれはおらが山ということになるのだろう。山頂一帯は石川県の行政区で、毎年室堂のし尿処理に八千万円もの費用を支出していることから権利を主張できるのかもしれない。

あり、春一番には福寿草が咲く。荒川から西へ丘陵地を上り切った所に家があるので眺望が良い。荒川の土手に立つと筑波山・男体山・皇海山・尾瀬の山・赤城山・浅間山・両神山・雲取山・富士山・丹沢山塊等、名だたる山がぐるっと見える。近所には全国唯一のめずらしい生息地がある。今では見かけなくなつたゴネットバスを全国の愛好者がここに集め、いつでも走れるように手入れをしているとかで、その生息数は約三〇台。(熊谷市 山形 明)

冬の低山日だまりハイク・師走。旧一志町の白山比咩神社へ丸

尾山(4等△)を歩き、その後、旧久居市境の立石山へ麓登山に登った。東は朝熊ヶ岳から西は布引山地までの展望。冬も落ちないカシワの葉が、朝日差しに黄金色に輝いていた。朝熊ヶ岳の北の昼川(ひるが)山は、やぶも無く、雄目標林の間を快速に登れた。山頂(3等△)を踏んでから北に3分くだると展望所。答志島、神島、瀬美半島、伊勢崎越しに冠雪の伊吹山、藤原岳、布引山地から左に目を移すと伊勢の三つ星、重なり合う飯高の山々の先に、真っ白な高見山も見えた。ちなみに、寛政九年の「伊勢参宮名所圖會」中には「晝川山(ひるかはやま)……昔朝熊宮此所にあり。俗にヒルカウ山、又ヒルガウ田といふ。長明伊勢記にひる川の横根といふ是なり」との旨、記されている。

山へ鹿島山・大鈴山經由で5人で行った。今回で4年連続になる山だが展望は最高で、初めて南アルプス南部の赤石・聖付近、ほとんど隠れた富士山を見た。富士山だとかわかったのは、前週に率比曾岳から見て富士山を確認していたからである。率比曾岳よりも東に位置する山なのでさらに南アルプスが近くで眺められた。今年は雪が無く、平山明神山から堀石峠までの五回のアップダウンも難無くクリアできた。このあたりの山は設楽火山群の山々で、イワカガミはヒメイワカガミといわれる種類がある。ヒメイワカガミの花はまだ見えないので今年は見てみたいが、白か赤か? 楽しみだ。(海津市 山田明男)

である。日本には800〜900種のシダがあるといわれている。シダに恵まれた日本にいるのだから、そっぽを向くことなく、よりかかわりを深めてみたい。

この度「旅の本棚」で山の花旅ツアーのお手伝いをする事になり、新ハイのリーダーをしぼらく休むことになりました。今後は旅の本棚のツアーでお会いできれば望外の喜びです。(長岡京市 田中 明)

冬は山登りを敬遠し、平地のウォーキングに専心する形になる。今冬は「富士を眺める東海道ウォーキング」を実施した。もっとも印象に残るのは富士川近くの雁塚からの展望である。雁塚は東海道から少し離れたいる関係だろうか、持参のウォーキング資料などには全く記載されておらず、地元植木屋さんに教えてもらった。富士山頂から宝永山へ、そして裾が愛鷹連絡に連なる眺望は、真蒼な晴天下に送るものなく、パノラマ連写によりすばらしい写真が撮れた。

私が富士山へ登ったのは50年前になる。それ以来富士型の山に注目するようになり、「関西のふるさと富士」では、52山中36山に登っている。昨年のトルコ旅行では、六千五年前に噴火してカッパドキアの基を造つたという富士山型のハサン山(3217呎)に注目し、とれだけシャッターを切つたことだろう。富士山を眺めながら思い出に耽っているときがない。(枚方市 東中 宏)

山行短歌

12月1日 丹波三岳山
雲海の直中に差し伸ばす手は
見えない世界の見えない君に
12月8日 大峰中八人山
ブッシュ掻き分け処女雪踏んで
やつと会えた久遠の恋人に
12月15日 室生大平山
われにはとく美しく山伝い
会いに行くべき君ひとりいて
12月18日 紀北鏡石山
ふしぎなる雪に南海の陸奥まり
1月3日 近江比叡山
遠き宙からの幸風のしずくかも

みずうみに舞い降りる雪は
1月8日 播磨高御位山
呼ぶ声の何かをたしかめに駆け
光がやがて岩尾根を越えて
1月11日 美作黒沢山
日本三福の山に在り幸福に連れ
わがころのうちの風車よ
1月15日 伊勢矢頭山
輝いていた遠い幻の日を見たか
矢尻のごとき御蜂の果てに
1月17日 備前熊山
枯れたままの森に世紀はゆらく
1月26日 伊勢細坂山
鶴海灣から春は来るものを
冬のひかり祝祭のように照り
われらが胸に希望ふくらみて
2月8日 台高三峰山
霧氷映くはなやぐ空を忘れるな
帰らざる歳月の想い出に
(吹田市 木村太郎)

北信五岳の一つ、斑尾山から北東に、長野県と新潟県の境を貫く山脈があります。関田(せきだ)山脈と呼ばれ、標高1000m級の級程度にもかかわらず、冬には積雪5mを越える豪雪地帯です。今冬、豪雪のため孤立した新潟県津南村、長野県栄村の報道は記憶に新しいところで

すが、山脈の北端にはその両村を隔て山脈には豊かたブナ林が育ち、様々な生物が生息して多様な生態系がつくられています。中央部にある黒岩山は、ギョウチョウとヒメギョウチョウが混棲する数少ない地域であるとの理由から、山全体が国の天然記念物に指定されているのです。

山脈には、斑尾山から天山水山(あまみずやま)を結んで尾根沿いを縦走する、全長80kmに及ぶロングトレイル(長距離自然道「信越トレイル」)があり、昨年7月に斑尾山から牧峠までの50kmが整備されました。

「信越トレイルを歩いてみたい」。縦走には4泊5日を要するようですが、数回に分けて新ハイ例会で実施していこうと思えます。(各務原市 鷺見守康)

定期退職時、持病の座骨神経痛で悩んでいた。体重を減らし、腹筋背筋を強くするのが良いと、医師から聞いており、天気の良い日にはよく散歩した。数ヶ月後、愛宕山にゆっくりゆっくり登ると、その翌日は体調も気分

も良くて、適度の山歩きは腰痛に良いとわかった。そして、3年後には痛みは皆無になった。山を歩くことで気分転換ができ、健康と心の安らぎを得た。山ですばらしい光景に感動して元気を貰い、写真でさらに楽しみが増し、最高の幸せである。山の楽しみを教えてくださいたい。リーダーや先輩の方々、岳友・写友の皆様は感謝の気持ちを一杯です。(京都市 中川光郎)

の紅葉尾から石樽峠を越えて三重県へと続く。冬期は雪のため「通行止」となる。この狭い峠越えの道はマンサクトロードといってもよい。早春の山で一番に咲き出すマンサクトの花が道路の両斜面に次々と現れ、木によって微妙に花の色が違ふ。赤味をおびた花、黄色、薄い黄色等、いろいろ楽しませてくれる。

花がぼつぼつと見られた。何の花だろうと思ひ、早速北向岩屋十一面観音の参道を登って見ると、マンサクトの花はあんな程度高い山でないと思われ、近づくにつれて、近づくにつれて、早春の楽しみの一つになっている。

候、特に雪の降る量がかなり違う。湖北から琵琶湖を渡って吹きつける冬の北風をまともに受ける山だからと思われる。なお、南側の安土城考古博物館の公園にもマンサクトが植えてあるがあまり育っていない。(近江八幡市 岩野明)



どこへ行こうか
SHCサービス
チェーン

サービスチェーンを利用するときは、電話が往復ハガキで、必ず予約してください。
予約のときに、料金を確認してください。

清里イーハトーヴ
ユースホステル
〒0999-1440-3
新里町清里町内路282
電話 01522-1513 9995

大雪山層雲峡ユースホステル
〒078-1170-1
北海道十勝郡上川町層雲峡
電話 01658-1513 418

SHCサービスチェーン

〒0999-1440-3 北海道十勝郡清里町内路282 電話 01522-1513 9995	大雪山黒岳ロープウェイへ徒歩5分 今006年グループ(新設) 8名以上で1名無料(6月8-10月の冬 期)
〒0181-1514-1 秋田県鹿角市八幡平大沼温泉 電話 01866-1311 2111 F 01866-1311 2111 http://www.hachihappi-sh.com	東北の百名山の登山基地 国立公園八幡平温泉郷 雲上の大露天岩風呂
〒0330-0111-1 青森市荒川字寒水沢1161 電話 01777-2811 512	八甲田山荘 ロープウェイ前
〒0200-0508-2 岩手県岩手郡常呂町常呂 直通 0900-0303-4734 5月から11月10日まで営業 連絡先 019-6003-cerulea	岩手県常呂町常呂 常呂温泉 石塚旅館
〒0202-1157 福島市土湯 温泉町野地 新野地温泉バス停 電話 0242-1641 3624	胃腸病の名湯・山菜料理 岩手温泉スカイライン入り口 新野地温泉 相模屋旅館
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0255-1655-3 新潟県南魚沼郡湯沢町清水 電話 025571821 3402	自然の宝庫 尾瀬ヶ原見晴 尾瀬 小 屋
〒0255-1655-3 新潟県南魚沼郡湯沢町清水 電話 025571821 3402	清里イーハトーヴ 黒沢池ヒュッテ
〒0255-1655-3 新潟県南魚沼郡湯沢町清水 電話 025571821 3402	黒沢池ヒュッテ

SHCサービスチェーン

〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 森吉山一の腰登山口 妖精の森「リニール」 1泊2食4000円(税込送迎可) 森吉山こもりの山荘 1泊2食4000円(税込送迎不可)
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル
〒0248-0411-2 秋田県秋田市西町11-11 電話 018-844-5111 F 018-844-5111 http://www.rikuzo.jp/mesugi/	花の百名山 秋田駒ヶ岳乳頭山へ 夏は登山、ハイキング 冬はスキー、雪中かんじき体験 田沢湖高原温泉 駒ヶ岳観光ホテル

山行計画
(5・6月)

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤積死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復はがき」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりませんが、緊急時の連絡先、および生年月日必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたしますのでご了承ください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
 - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース(3〜4時間コース)
 - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース(5時間コース)
 - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース(6〜7時間コース)
 - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長く続くコース(6〜7時間コース)
 - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉など、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース(7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

5月	行先	定員	リーダー	サブ
5(初〜6(出))	朽木・京大青生研究林〜三國岳	15	山田	田中賢
5(出〜7(回))	台高・迷岳〜明神岳(テント)	*	高島	
6(出)	北摂・電王山〜旗津峡	30	塚元	
7(回)	美濃・伊吹北尾根	20	鷺見	
7(回)	鈴鹿・御所平〜ペンケイ	*	岩野	
9(火)	愛宕山・明礬〜愛宕巡礼道〜ツツジ鷹根	40	仲谷	
11(木)	奥高野・清水ヶ峰	40	木村	
13(土)	美濃・飯盛山〜西津波	20	鷺見	
13(土)	奥美濃・螺帽子嶺	*	金谷	
13(土)	加越・富士雪ヶ岳〜丈観山	20	森脇	
13(土)	加越・富士雪ヶ岳〜丈観山	20	古賀	
13(土)	播州・トンガリ山	20	古賀	
14(日)	湖北・土蔵岳(テント)	*10	田中賢	
15(月夜〜16(火))	加賀・大嵐山	40	木村	
17(水)	台高・木槻山〜伊勢辻山	40	西上	
19(金)	鈴鹿・冷川岳	*	稲垣	
20(土)	美濃・湧谷山	20	鷺見	
20(土)	比良・蓬萊山〜権現山	20	秦	
21(日)	鈴鹿・日本コバ〜衣掛山	*	岩野	
21(日)	湖北・横山岳	25	木村	
25(水)	山梨・王岳〜三方分山	20	鷺見	
26(木夜〜28(日))	奥美濃・母袋鳥帽子岳	25	木村	
27(土)	奥美濃・藤無山	25	仲谷	
28(日)	京都西山・川久保尾根〜ポンポン山	40	村田	
30(火)	養老・笹ヶ岳	*	岩野	
	鈴鹿・芹川谷南尾根	22	狩野	
	朽木・百里ヶ岳	22	狩野	

31(水)	北山・妙法火床〜深泥池周辺		呉山	
-------	---------------	--	----	--

6月	行先	定員	リーダー	サブ
3(出)	朽木・百里ヶ岳	22	狩野	
4(回)	鈴鹿・芹川谷南尾根	*	岩野	
4(回)	養老・笹ヶ岳	40	村田	
6(火)	京都西山・川久保尾根〜ポンポン山	25	木村	
8(木)	奥美濃・母袋鳥帽子岳	20	鷺見	
10(土)	丹波・弥仙山	22	村田	
10(土)	鈴鹿・ブナ清水	*	筒井	
10(土)	湖北・山本山〜鏡ヶ岳	*	高島	
10(土)	北信越・飯綱山〜黒姫山	16	山田	
10(土)	鳥取・鷲峰山	20	古賀	
13(火)	台高・槍塚奥峰〜千秋峰	*10	田中賢	
16(金)	大峰・大川口〜行者還岳	40	西上	
17(土)	鈴鹿・旗山〜小平山	*	稲垣	
17(土)	鈴鹿・大洞路・安藤〜仏坂〜長井坂	22	村田	
18(日)	比良・楊梅ノ滝〜ヤケオ山	*	秦	
18(日)	鈴鹿・釈迦ヶ岳〜仙香山	*	岩野	
21(水)	六甲・再度山	20	木村	
23(金夜〜25(日))	上濃・白砂山〜八幡山〜三疊山〜モト山	20	鷺見	
25(日)	朽木・京大青生研究林	*15	山田	
28(水)	芦生・杉尾坂〜板倉谷		呉山	

*リマーカー山行

養生堂古観堂3・展望の山16
京都大学養生学研究林・三國岳
(中級向き)
期日 5月5日(祝)6日(土)
1泊2日

集合 *日帰りのみも可
*5日 J.R.関ヶ原駅7時15分/J.R.近江今津駅8時10分/道の駅朽木本陣9時00分

コース <5日>各集合駅(車)
生杉休憩所-三國峠-野田畑峠-シンコボ-杉尾坂-水谷-地蔵峠-生杉休憩所(車)
<6日>宿(車) 道の駅朽木本陣(車) 桑原-三國峠-経ヶ岳-桑原(車) 朽木温泉-てんくう(入浴・車) 各集合駅(解散)

費用 交通費各目(車代)1500円・10000円
宿泊代茶泊まり3500円程度

地図 2万5千1古屋
係 山田明男
申込み 503-0535
海津市南瀬町松山621の19

鈴鹿を歩く239
御所平・ベンケイ
(やや健脚向き)

期日 5月7日(日) 日帰り
集合 里滝集落田村谷林道入口
広場8時30分

コース 広場(車) 田村谷林道取付点-割谷-ヨコネ-御所平-水無し-くみの木-平-舟石-ベンケイ-黒滝(解散)

費用 交通費各目
地図 昭文社「徳在所・雲仙・伊吹」
係 岩野 明 ○山田景二
申込み 610-0121
後藤康幸
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行

火曜ハイイク21
愛宕山シリーズ12
明智越・愛宕巡礼道・ツツジ尾根
(一般向き)
期日 5月9日(祝) 日帰り
集合 J.R.保津駅9時00分
コース 保津駅-明智越尾根

山田明男まで
*定員15名程度
*集合駅、日帰りか泊まりかも明記ください(日帰りはマイカーのみ)
4月例会から2週間後ですが、花は変わるでしょう。雨天決行

鈴鹿遊山21(テント泊)
台高・迷岳と明神岳周辺の山
期日 5月5日(祝)7日(日)
テント2泊3日

コース <5日>運ダム管理棟駐車場8時00分
<6日>運ダム(車) 塩ヶ瀬-桃ノ木平-迷岳-布引山-運ダム(泊)
<7日>運ダム(車) 宮ノ谷合合-奥ノ平峰-千石山-運江-千石林道-宮ノ谷合合(車) 運ダム(解散)

費用 参加費(1日付) 2000円

明神峠-愛宕巡礼道-社務所-水尾分れ-ツツジ尾根-保津駅(解散16時20分頃)
◎伊吹礼司 ○沖 伸
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

フファミリーハイイク82
奥高野・清水ヶ峰(一般向き)
期日 5月11日(祝) 日帰り
集合 J.R.新大阪駅 階止面口7時20分/近鉄急行駅8時30分

コース 各集合駅(バス) 赤谷緑地-十坪平-芍薬沢-平田平-清水ヶ峰-赤谷緑地(バス) 大塚温泉(バス) 新大阪駅(解散)
費用 約4000円(バス代)2万5千100円
地図 木村太郎
申込み 565-0854
吹田市桃山台1の2のB

池田 2万5千1大豆生・七日市・大和柏木・宮川野水
昭文社「大台ヶ原」
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行

3日間の参加が原則で、テント泊装備は各自で用意。一部分未踏のコースがありますが、通過には期待あり。雨天決行(悪天中止)

地図 北摂・竜王山から摂津峡
(一般向き)
期日 5月6日(日) 日帰り
集合 阪急茨木駅前バスのりば8時45分

コース 茨木駅(バス) 翠頂寺-竜王山-車作-竜仙滝-萩谷-摂津峡-上ノ口(バス) 高槻駅(解散)

費用 約1500円(大阪から)2万5千1高槻
地図 昭文社「北摂・京都西山」
係 塚元二彦 ○中村 登

12の209 木村太郎まで
*定員40名(集合駅を明記ください)
伯母子山塊北端に静寂の時を刻む、奈良教育大犬塚寮の美しい瀟湘林をめぐる。雨天中止
自然観覧山行210
美濃・飯盛山から西津波

期日 5月13日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 飯盛山林道入口-大狗の森駐車場-飯盛山-西津波-飯盛山-大狗の森駐車場-林道入口(バス) 大垣駅(解散19時頃)
*帰路に入浴します。
申込み 504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
昨年登った飯盛山から、さらに西津波に足をのびし、動物の世界に踏み込んでみます。小雨決行

奥美濃・蝶帽子嶺(中級向き)
期日 5月13日(日) 日帰り
集合 樽見駅(車) 根尾西谷登山口渡渉点-908岩峰-蝶帽子峠分岐-蝶帽子嶺-蝶帽子峠-蝶帽子峠分岐-登山口渡渉点(解散)

費用 交通費各目
地図 谷谷 昭 ○磯部 純
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行
昨年9月の再挑戦。水盆により再び登山方向変更の場合があります(64号・65頁参照)。雨天中止

加越・富士写ヶ岳と丈鏡山
(中級向き)
期日 5月13日(中)14日(日) 1泊2日
集合 <13日> J.R.京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース <13日> 京都駅(バス) 大内峠登山口-富士写ヶ岳(1往路)-登山口

新ハイキング関西支部と合同
京都市西山区西宮の最終回は、東海自然歩道に沿って歩きます。シルバー型コンバスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

自然観覧山行209
美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 5月7日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅9時00分
コース 大垣駅-大赤山-御座峠-園見峠-大赤山-御座峠-静馬ヶ原-笹又-さざれ石公園(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千1谷波・横山
◎鷺見守康
申込み 504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
昨年登った飯盛山から、さらに西津波に足をのびし、動物の世界に踏み込んでみます。小雨決行

恒例の春の伊吹北尾根フラワー・トレッキングです。小雨決行

奥美濃・蝶帽子嶺(中級向き)
期日 5月13日(日) 日帰り
集合 樽見駅(車) 根尾西谷登山口渡渉点-908岩峰-蝶帽子峠分岐-蝶帽子嶺-蝶帽子峠分岐-登山口渡渉点(解散)

費用 交通費各目
地図 谷谷 昭 ○磯部 純
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行
昨年9月の再挑戦。水盆により再び登山方向変更の場合があります(64号・65頁参照)。雨天中止

加越・富士写ヶ岳と丈鏡山
(中級向き)
期日 5月13日(中)14日(日) 1泊2日
集合 <13日> J.R.京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース <13日> 京都駅(バス) 大内峠登山口-富士写ヶ岳(1往路)-登山口

新ハイキング関西支部と合同
京都市西山区西宮の最終回は、東海自然歩道に沿って歩きます。シルバー型コンバスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

自然観覧山行209
美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 5月7日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 園見峠-園見峠-大赤山-御座峠-静馬ヶ原-笹又-さざれ石公園(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千1美東・関ヶ原
◎鷺見守康
申込み 504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
恒例の春の伊吹北尾根フラワー・トレッキングです。小雨決行

奥美濃・蝶帽子嶺(中級向き)
期日 5月13日(日) 日帰り
集合 樽見駅(車) 根尾西谷登山口渡渉点-908岩峰-蝶帽子峠分岐-蝶帽子嶺-蝶帽子峠分岐-登山口渡渉点(解散)

費用 交通費各目
地図 谷谷 昭 ○磯部 純
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行
昨年9月の再挑戦。水盆により再び登山方向変更の場合があります(64号・65頁参照)。雨天中止

加越・富士写ヶ岳と丈鏡山
(中級向き)
期日 5月13日(中)14日(日) 1泊2日
集合 <13日> J.R.京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース <13日> 京都駅(バス) 大内峠登山口-富士写ヶ岳(1往路)-登山口

新ハイキング関西支部と合同
京都市西山区西宮の最終回は、東海自然歩道に沿って歩きます。シルバー型コンバスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

自然観覧山行209
美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 5月7日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 園見峠-園見峠-大赤山-御座峠-静馬ヶ原-笹又-さざれ石公園(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千1谷波・横山
◎鷺見守康
申込み 504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
昨年登った飯盛山から、さらに西津波に足をのびし、動物の世界に踏み込んでみます。小雨決行

恒例の春の伊吹北尾根フラワー・トレッキングです。小雨決行

奥美濃・蝶帽子嶺(中級向き)
期日 5月13日(日) 日帰り
集合 樽見駅(車) 根尾西谷登山口渡渉点-908岩峰-蝶帽子峠分岐-蝶帽子嶺-蝶帽子峠分岐-登山口渡渉点(解散)

費用 交通費各目
地図 谷谷 昭 ○磯部 純
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行
昨年9月の再挑戦。水盆により再び登山方向変更の場合があります(64号・65頁参照)。雨天中止

加越・富士写ヶ岳と丈鏡山
(中級向き)
期日 5月13日(中)14日(日) 1泊2日
集合 <13日> J.R.京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース <13日> 京都駅(バス) 大内峠登山口-富士写ヶ岳(1往路)-登山口

新ハイキング関西支部と合同
京都市西山区西宮の最終回は、東海自然歩道に沿って歩きます。シルバー型コンバスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

自然観覧山行209
美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 5月7日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 園見峠-園見峠-大赤山-御座峠-静馬ヶ原-笹又-さざれ石公園(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千1谷波・横山
◎鷺見守康
申込み 504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
昨年登った飯盛山から、さらに西津波に足をのびし、動物の世界に踏み込んでみます。小雨決行

恒例の春の伊吹北尾根フラワー・トレッキングです。小雨決行

奥美濃・蝶帽子嶺(中級向き)
期日 5月13日(日) 日帰り
集合 樽見駅(車) 根尾西谷登山口渡渉点-908岩峰-蝶帽子峠分岐-蝶帽子嶺-蝶帽子峠分岐-登山口渡渉点(解散)

費用 交通費各目
地図 谷谷 昭 ○磯部 純
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行
昨年9月の再挑戦。水盆により再び登山方向変更の場合があります(64号・65頁参照)。雨天中止

加越・富士写ヶ岳と丈鏡山
(中級向き)
期日 5月13日(中)14日(日) 1泊2日
集合 <13日> J.R.京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース <13日> 京都駅(バス) 大内峠登山口-富士写ヶ岳(1往路)-登山口

新ハイキング関西支部と合同
京都市西山区西宮の最終回は、東海自然歩道に沿って歩きます。シルバー型コンバスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

自然観覧山行209
美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 5月7日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 園見峠-園見峠-大赤山-御座峠-静馬ヶ原-笹又-さざれ石公園(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千1美東・関ヶ原
◎鷺見守康
申込み 504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
恒例の春の伊吹北尾根フラワー・トレッキングです。小雨決行

奥美濃・蝶帽子嶺(中級向き)
期日 5月13日(日) 日帰り
集合 樽見駅(車) 根尾西谷登山口渡渉点-908岩峰-蝶帽子峠分岐-蝶帽子嶺-蝶帽子峠分岐-登山口渡渉点(解散)

費用 交通費各目
地図 谷谷 昭 ○磯部 純
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行
昨年9月の再挑戦。水盆により再び登山方向変更の場合があります(64号・65頁参照)。雨天中止

加越・富士写ヶ岳と丈鏡山
(中級向き)
期日 5月13日(中)14日(日) 1泊2日
集合 <13日> J.R.京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース <13日> 京都駅(バス) 大内峠登山口-富士写ヶ岳(1往路)-登山口

新ハイキング関西支部と合同
京都市西山区西宮の最終回は、東海自然歩道に沿って歩きます。シルバー型コンバスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

自然観覧山行209
美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 5月7日(日) 日帰り
集合 J.R.大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス) 園見峠-園見峠-大赤山-御座峠-静馬ヶ原-笹又-さざれ石公園(バス) 大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)
地図 2万5千1谷波・横山
◎鷺見守康
申込み 504-0828
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名
昨年登った飯盛山から、さらに西津波に足をのびし、動物の世界に踏み込んでみます。小雨決行

恒例の春の伊吹北尾根フラワー・トレッキングです。小雨決行

奥美濃・蝶帽子嶺(中級向き)
期日 5月13日(日) 日帰り
集合 樽見駅(車) 根尾西谷登山口渡渉点-908岩峰-蝶帽子峠分岐-蝶帽子嶺-蝶帽子峠分岐-登山口渡渉点(解散)

費用 交通費各目
地図 谷谷 昭 ○磯部 純
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
新ハイカー山行
昨年9月の再挑戦。水盆により再び登山方向変更の場合があります(64号・65頁参照)。雨天中止

加越・富士写ヶ岳と丈鏡山
(中級向き)
期日 5月13日(中)14日(日) 1泊2日
集合 <13日> J.R.京都駅八条口団体バスのりば8時20分
コース <13日> 京都駅(バス) 大内峠登山口-富士写ヶ岳(1往路)-登山口

新ハイキング関西支部と合同
京都市西山区西宮の最終回は、東海自然歩道に沿って歩きます。シルバー型コンバスを持参してください。初心者歓迎。雨天中止

(バス) たけくらべ温泉
(14日) 温泉宿(バス)
龍ヶ鼻登山口ーじょんこ
ろ広場コース分岐ー大岩
広場ー北大嶽山ー南支嶽
山ー(往路)ー登山口
(バス) 京都駅(解放18
時頃) * 時間があれば浄
法寺山まで足をのばす。

費用 約20000円(京都駅
からバス・宿泊代等)
地図 2万5千・越前中川・山
中・丸岡・鹿谷

係 ◎森脇貞義 ○磯野重治
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

集合 5月14日(日) 日帰り
JR加古川駅8時20分
加古川駅(バス) 橋原川
ートンガリ山ーフトウガ
リ

費用 交通費各自
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・生野・長谷・
但馬新井・神子畑

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・生野・長谷・
但馬新井・神子畑

係 ◎古賀豊一 ○岡田 昇
申込み 〒675-0112
加古川市平岡町山之上684
の33・17A03
古賀豊一まで

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

係 ◎田中賢治 ○簡平くさ子
申込み 〒518-0626
名張市桔梗が丘6の2の
18 田中賢治まで

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

係 ◎岩野 明 ○山田 三
申込み ○後藤康幸
〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

費用 約40000円(バス代)
地図 2万5千・美濃川上

村富士(泊)

(28日) 休暇村富士(バス) 精進湖温泉駐車場-女坂峠-三万分山-根子峠-精進湖温泉駐車場(バス) 岐阜駅(解散) *帰路に浴食します。

費用 約38000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)

地図 昭文社「富士・富士五湖」

係 昭文社

申込み 〒504-0828 各務原市蘇原村雨野1の19の5 鷺見守康まで *定員20名 *4月24日まで

湖北・奥山(一般向き) 御坂山の王居からさらに西へ三方分山までの縦走路を2日に分けて歩きます。終期富士山を仰ぎ、眼下に河口湖・西湖・精進湖を眺めます。雨天決行

期日 5月27日(日) 日帰り 集合 金栗坂登山口高山キャンプ場手前広場9時00分

コース 高山キャンプ場-奥山(往路)-キャンプ場

地図 昭文社「京都北山」

係 昭文社

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで *定員22名(会費に限り)

福井・滋賀県境に位置し、百里四方が眺望できるという百里ヶ岳に登ります。雨天中止

期日 6月4日(日) 日帰り 集合 河内線向之倉入口手前広場8時30分

コース 広場-向之倉(カッラの巨木・井戸神社)-登り尾-杉峠-向山-P627-P657-中村-向之倉入口(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」

係 昭文社

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで *マイカー山行

井戸神社のカッラの巨木を見て、

(解散)

費用 交通費各自 地図 2万5千-近江川合 係 ◎高島伸浩 申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで *マイカー山行

展開の山17 奥美濃・御前山(萩原町) (健脚向き)

期日 5月28日(日) 日帰り 集合 JR西岐阜駅7時00分

コース 西岐阜駅(車)-萩原町(車)-四合目駐車場-御前山(往路)-四合目駐車場(車)-西岐阜駅(解散)

費用 交通費各自(車代2000円)

地図 2万5千-萩原・湯屋 係 ◎山田明男

申込み 〒503-0535 海津市南道町松山621の19 山田明男まで *定員15名程度

旧道の登り尾を杉峠に登る。宮前(風穴)エチガ谷出合の長大な未踏の山稜を歩く。雨天中止

期日 6月4日(日) 日帰り 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

コース 京都駅(バス)-養老公園-養老の山-リフト終点駅-林道-山道取付-みじ峠-大洞谷流-笹ヶ岳(往路)-もみじ峠-あせび平-笹原峠-小倉山展望台-三万山-リフト終点駅-養老公園(バス)-京都駅(解散18時30分頃)

費用 約3000円(京都駅からバス代等)

地図 昭文社

係 昭文社

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで *定員40名(バス利用)

*マイカー・中京地区の人は養老公園駐車場へ9時30分までに集合

1等三角点の御前山です。下呂御前山ではありません。雨天中止

台高・赤ソレ山から木尻山 期日 5月30日(日) 日帰り 集合 近鉄橋原駅8時10分/高見トンネル東口駐車場8時50分

コース 集合地(車)-木尻川木原滝駐車場-木尻林道-赤ソレ山北尾根-赤ソレ山-馬場-木尻山-北尾根-木尻林道-駐車場(解散)

費用 交通費各自

地図 2万5千-大豆生 係 ◎田中賢治◎岡平くみ子

申込み 〒518-0626 名張市桔梗が丘6の2の18 田中賢治まで *定員10名 *マイカー山行(5名まで乗合可能。希望者はその旨明記ください)

木尻山を赤ソレ山北尾根から登ります。小雨決行

北山ちよつと歩き78 妙法火床から深泥池周辺散策

養老山地の最終峰で展望も申し分がない。アセヒを見て歩く。時間があれば養老山へも。小雨決行

火曜ハイイク22 京都西山 川久保尾根からポンポン山(一般向き)

期日 6月6日(火) 日帰り 集合 JR高槻駅8時50分

コース 高槻駅(バス)-川久保-尾根道-釈迦橋-ポンポン山-本山寺-旧参道-神峯山寺バス停(解散15時30分頃)

費用 交通費各自

地図 昭文社「北摂・京都西山」

係 ◎仲分利司 ◎沖 伸

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

今は植林で展望はありませんが、気持ちのよい木陰の尾根道を歩きます。雨天中止

フファミリーハイイク85 奥播磨・藤無山(一般向き)

期日 6月8日(日) 日帰り 集合 JR新大阪駅-階止西口

(一般向き)

期日 5月31日(日) 日帰り 集合 京都地下鉄北山駅下車府立植物園北西前9時30分 府立植物園北西前-妙法火床(送り火)-宝ヶ池-深泥池-小池-太田小径-太田神社前(解散15時30分頃)-北山駅

費用 交通費各自

地図 昭文社「京都北山」

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

二つの火床と三つの名池を散策します。雨天中止

週末ハイイク73 朽木-百里ヶ岳(一般向き)

期日 6月3日(日) 日帰り 集合 JR京都駅八条口団体バスのりば7時50分

コース 京都駅(バス)-小人谷越登山口-シチケル峠-百里ヶ岳-根米坂峠-焼尾地蔵-小人谷バス停(バス)-京都駅(解散)

費用 約3000円(京都駅からバス代)

7時40分 新大阪駅(バス)若杉高原大屋スキー場-スキー場上部-尾根取付-鞍部-藤無山(往路)-若杉高原温泉(バス)-新大阪駅(解散)

費用 約4000円(バス代)

地図 2万5千-戸倉峠 係 ◎木村太郎

申込み 〒565-10854 吹田市桃山台1-2のB12の209 木村太郎まで *定員25名(会費に限り)

登路が無く、白山や立山より登り難いと多田繁次が紹介した、播磨最西部の山を訪ねる。雨天中止

自然観察山行213 奥美濃・母袋鳥帽子岳

期日 6月10日(日) 日帰り 集合 JR岐阜駅9時15分

コース 岐阜駅(バス)-母袋スキー場-母袋鳥帽子岳(往路)-スキー場(バス)-岐阜駅(解散)

費用 約5000円(岐阜駅からバス代等)

地図 2万5千ニ徳水・那留
係 ◎鷺見寺
申込み 504-0828
各務原市藤原村雨野1の
19の5 鷺見寺庫まで
*定員20名
奥美濃の手頃なブナ林の山です。
(本号72頁参照) 小雨決行

丹波・弥仙山(一般向き)
期日 6月10日出 日帰り
集合 J R京都駅八条口団体バ
スのりば7時40分
コース 京都駅(バス)石の鳥居
登山口―水分神社―於成
神社―弥仙山(金峯寺付)
―日置谷分岐―元権現跡
―光明寺分岐―日置谷
(バス) 京都駅(解散17
時30分頃)

費用 約3000円(京都駅か
らバス代)
地図 2万5千ニ丹波大野・梅
道
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝
◎奥比裕美
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員22名

の33・17A43
古賀慶一まで
*定員20名(会員に限る)
ブナ新緑と花を見ます。
雨天中止

台高・木屋谷川ワサビ谷から
檜塚奥峰・千秋峰(健脚向き)
期日 6月13日(日) 日帰り
集合 近鉄線原駅8時10分/青
田発車前駐車場9時10
分
コース 各集合地(車) 檜屋谷対
岸―方成橋―ワサビ谷―
檜塚奥峰―千秋峰―北尾
根―駐車場(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千ニ七日市・大豆
生
係 ◎田中賢治 ○岡平くみ子
申込み 518-0626
18 田中賢治まで
*定員10名
*マイカー山行(5名ま
で乗合可能。希望者は
その旨明記ください)
体力勝負のコースに再々挑戦で
す。小雨決行

大峰・大川口から行者道岳
(やや健脚向き)
期日 6月16日(日) 日帰り
集合 近鉄線原駅南中央口
8時05分
コース 檜原神宮前駅(バス)大
川口―行者道岳―行者道
小屋―ノノ多和トトンネ
ル東口(バス) 檜原神宮
前駅(解散19時30分)

費用 約4000円(阿部野橋
駅起点バス代共)
地図 昭文社「大峰山脈」
◎西上利和 ○東山道夫
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員40名
新緑のブナ林とクサタチバナの
群生地が見所です。小雨決行

三重の山87
鈴鹿・旗山から小平山
期日 6月17日(日) 日帰り
集合 J R柘植駅9時30分
コース 柘植駅―大日如来石塔―
熊鷹大神―鉄塔―旗山―
小平山分岐―小平山―小

湖北・山本山から磯ヶ岳縦走
(初級向き)
期日 6月10日(日) 日帰り
集合 木之本町飯浦(奥長尾湖
ドライブイン) 9時40分
コース 飯浦(車) 山本山
自然歩道―磯ヶ岳―余良
湖分岐―飯浦(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千ニ竹生島
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行(常車の
方は木之本駅からタクシー
で20分)

琵琶湖を展望しながら自然歩道
を磯ヶ岳へ北上します。雨天決行
展覧の山18
北信越・飯綱山と黒姫山
期日 6月10日(日) 11日回
集合 (10日) J R中央線勝川
駅6時35分
コース (10日) 勝川駅(車) 長
野市(車) 飯綱山南登山
道入口―飯綱山―黒姫山

平山分岐―ソコ峠―林道
―余野公園分岐―柘植駅
費用 1500円
地図 2万5千ニ鈴鹿峠
係 ◎稲垣逸夫
申込み 519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
*マイカー山行
展覧島 雨天決行
紀伊山地の参詣道を歩く9
大辺路2 (一般向き)
①安居の渡し場から仏坂越
②熊参見から長井坂越
期日 6月17日(日) 18日回
1泊2日
集合 (17日) 近鉄上本町駅8
時00分
コース (17日) 上本町駅(バス)
安居の渡し場跡左岸―仏
坂茶屋跡―仏坂―不動尊
―地主社(バス) いこい
の村わかやま(泊)
(18日) 宿(バス) 大串
の浜―馬鞍坂―タオの峠
―和深川王子神社―丸山
の掘割―長井坂―見老津
(バス) 難波駅(解散)

費用 約18000円(上本町
駅)

中国自然歩道10
鳥取・鷲峰山(一般向き)
期日 6月11日(日) 日帰り
集合 J R西明石駅西7時25分
コース 西明石駅(バス) 河内―
安徳峠―鷲峰山―古川谷
―鹿野温泉(バス) J R
加古川駅(解散19時頃)
費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千ニ岩岸・鹿野
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 675-0112
加古川市平岡町山之下684

鈴鹿遊山22
鈴鹿・ブナ清水(中級向き)
期日 6月10日(日) 日帰り
集合 近鉄湯ノ山温泉駅8時40
分(マイカーも)
コース 湯ノ山温泉駅(車) 朝明
林道(車数調整) 伊勢谷
―ブナ清水―コアラ岩―
桃ちゃん岩―ヤシオ谷―
根ノ平峠―伊勢谷―朝明
林道(解散)
費用 参加費2000円
地図 2万5千ニ御在所山
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行(駅から
車に便乗希望はその旨記
入ください)
やぶ清さの服装でご参加くださ
い。雨天中止

③簡井克治
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行(駅から
車に便乗希望はその旨記
入ください)
やぶ清さの服装でご参加くださ
い。雨天中止

駅からバス・宿泊代等)
詳細を当日配布
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝
◎奥比裕美
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員22名(会員に限る)
仏坂から歩き始め、馬鞍坂・長
井坂を枯木灘を見ながら見老津ま
で。雨天決行

比良を歩く50
檜梅ノ滝からヤケオ山
期日 6月18日(日) 日帰り
集合 J R北小松駅9時00分
コース 北小松駅―檜梅ノ滝―涼
峠―ヤケ山―ヤケオ山―
東尾根―大雲川堰堤下―
近江舞子駅(解散19時頃)
*歩行5時間30分
費用 約13000円(京都から)
地図 2万5千ニ北小松
係 ◎秦 康夫
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
ヤケオ山からは、荒れ道の東尾

山田明男
申込み 503-0535
海津市南郷町松山624の19
山田明男まで
*定員16名
花は多くが見込め、楽しみです。
雨天決行

高妻山・信濃原
2万5千ニ戸隠・若槻・
宿泊代)
費用 約20000円(車代・
宿泊代)
地図 2万5千ニ戸隠・若槻・
高妻山・信濃原
申込み 503-0535
海津市南郷町松山624の19
山田明男まで
*定員16名
花は多くが見込め、楽しみです。
雨天決行

中国自然歩道10
鳥取・鷲峰山(一般向き)
期日 6月11日(日) 日帰り
集合 J R西明石駅西7時25分
コース 西明石駅(バス) 河内―
安徳峠―鷲峰山―古川谷
―鹿野温泉(バス) J R
加古川駅(解散19時頃)
費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千ニ岩岸・鹿野
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 675-0112
加古川市平岡町山之下684

比良を歩く50
檜梅ノ滝からヤケオ山
期日 6月18日(日) 日帰り
集合 J R北小松駅9時00分
コース 北小松駅―檜梅ノ滝―涼
峠―ヤケ山―ヤケオ山―
東尾根―大雲川堰堤下―
近江舞子駅(解散19時頃)
*歩行5時間30分
費用 約13000円(京都から)
地図 2万5千ニ北小松
係 ◎秦 康夫
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
ヤケオ山からは、荒れ道の東尾

山田明男
申込み 503-0535
海津市南郷町松山624の19
山田明男まで
*定員16名
花は多くが見込め、楽しみです。
雨天決行

高妻山・信濃原
2万5千ニ戸隠・若槻・
宿泊代)
費用 約20000円(車代・
宿泊代)
地図 2万5千ニ戸隠・若槻・
高妻山・信濃原
申込み 503-0535
海津市南郷町松山624の19
山田明男まで
*定員16名
花は多くが見込め、楽しみです。
雨天決行

中国自然歩道10
鳥取・鷲峰山(一般向き)
期日 6月11日(日) 日帰り
集合 J R西明石駅西7時25分
コース 西明石駅(バス) 河内―
安徳峠―鷲峰山―古川谷
―鹿野温泉(バス) J R
加古川駅(解散19時頃)
費用 約4500円(バス代等)
地図 2万5千ニ岩岸・鹿野
係 ◎古賀慶一 ○岡田 昇
申込み 675-0112
加古川市平岡町山之下684

比良を歩く50
檜梅ノ滝からヤケオ山
期日 6月18日(日) 日帰り
集合 J R北小松駅9時00分
コース 北小松駅―檜梅ノ滝―涼
峠―ヤケ山―ヤケオ山―
東尾根―大雲川堰堤下―
近江舞子駅(解散19時頃)
*歩行5時間30分
費用 約13000円(京都から)
地図 2万5千ニ北小松
係 ◎秦 康夫
申込み 610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
ヤケオ山からは、荒れ道の東尾

山田明男
申込み 503-0535
海津市南郷町松山624の19
山田明男まで
*定員16名
花は多くが見込め、楽しみです。
雨天決行

高妻山・信濃原
2万5千ニ戸隠・若槻・
宿泊代)
費用 約20000円(車代・
宿泊代)
地図 2万5千ニ戸隠・若槻・
高妻山・信濃原
申込み 503-0535
海津市南郷町松山624の19
山田明男まで
*定員16名
花は多くが見込め、楽しみです。
雨天決行

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/B6判352頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/B6判336頁/定価1631円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
2刷A5判340頁/定価1837円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
B6判328頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第23巻 多摩100山** 守屋龍男 著
B6判244頁/定価1575円 多摩の山100山を選び、50のコースにまとめた案内書
- 第24巻 山岳巡礼** 佐藤光雄 著
B6判362頁/定価1680円 山に魅せられた一登山家の珠玉の紀行集
- 第25巻 東京近郊里山ハイキング** 新ハイキング・ベンクラブ 著
A5判232頁/定価1680円 武蔵野/多摩を中心に房総・三浦半島の里山歩き69コース
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判389頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 花と山** エーデルワイス・クラブ 編
A5判219頁/定価1680円 山と花を愛する100人が綴った100山
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
B6判234頁/定価1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと雑々雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社** 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル
電話/Fax 03-3915-8110 振替00130-9-146915

●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担

根をくだります。雨天中止

鈴鹿を歩く242
釈迦ヶ岳・仙香山 (やや健脚向き)

期日 6月18日(日) 日帰り
集合 国道421号線八風谷合出
合広場8時30分
コース 広場―八風谷林道―中峠―仙香山―仙香山―釈迦ヶ岳―赤坂谷―八風谷林道―広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社『温泉所・露仙・伊吹』

係 ◎岩野 明 ○山田景三
○後藤康幸

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー1山行

期日 6月21日(祝) 日帰り
集合 JR三ノ宮駅をこぎ前バスのりは9時00分

コース 三ノ宮駅前(バス) 諏訪山公園―寝ヶ池―太電寺―再度山―市ヶ原―本松―堂徳山―風見道の館前―三ノ宮駅(解散)

費用 約2000円(食料費)
2万5千―神戸首都

地図 ◎木村太郎
申込み 〒565-0854 吹田市桃山台1の2のB
12の209 木村太郎まで

再度山に登り、北野野人館街へくたると、芥川の河原でペーペキューを楽しむ。食料・飲料・道具等は係で準備します。雨天中止

自然観察山行214
上信越・白砂山から八間山、三壁山からエビ山 (一般向き)

期日 6月23日(金) 25日(日)
前夜発 1泊2日
集合 ◎JR岐阜駅22時00分

コース ①23日 岐阜駅(バス) 野反湖―地蔵峠―白砂山―八間山―富士峠(バス) 六白村宿(泊)
②25日 六白村宿(バス) 野反湖―ロッジ―三壁山―

エビ山―若天山―高十真峰(バス) 岐阜駅(解散)
*帰路に浴食します。
約3900円(岐阜駅からバス・宿泊代等)
昭文社『谷川岳』『志賀高原・草津』

◎警見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村南町1の19の5 警見守康まで

*定員20名
*4月24日まで

野反湖を中心に花と展望に恵まれた山々を巡ります。雨天決行

養生定点観察4
京都大学養生学研究科(中級向き)

期日 6月25日(日) 日帰り
集合 JR関ヶ原駅7時15分/JR近江今津駅8時10分/道の駅朽木本陣9時00分

コース 各集合駅(重) 生杉休憩所―三國峠―野田畑峠―シンコボ―杉尾坂―上谷―地蔵峠―生杉休憩所(重) 各集合駅(解散)
交通費各自(車代1500円・1000円)

地図 2万5千―古巣
係 ◎山田明男
申込み 〒503-0535
海津市南濃町松山62の19
山田明男まで

*定員15名程度
*集合駅を明記ください
初夏の花、オオバアサガラは咲いているでしょうか。雨天決行

北山ちよつと歩き79
養生京大演習林
杉尾坂から板倉谷(中級向き)

期日 6月28日(祝) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりは7時10分

コース 京都駅(バス) 生杉―地蔵峠―上谷―杉尾坂―板倉谷―須後(バス) 京都駅(解散18時30分頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社『京都北山』
◎真山繁三

申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

由良川源流域の大自然のなかに上谷から板倉谷にたります。ニッコウキスゲも見られます。各自長靴でご参加ください。雨天中止

山行報告
(1・2月号)
新ハイキングクラブ関西

播磨・とんがり山
1月4日(例) くもり

(集合) JR太市駅10・00 石倉
10・30 登山口10・40 神岩11・
00 一とんがり山11・20 40 大黒
岩12・05 鶴足寺跡12・15 観音
堂12・35 (昼食) 14・00 太市駅
14・45 (解散)

年末の寒波が嘘のような暖かい
日。ユックリと手数を食べながら
今年の元気を約す。今年も、下ご
しらえしてくれた住田さんに感
謝。

(参加者) 宮西和子 市井ユリエ
岩田育士 小池一郎 友田美保子
中島 隆 島田亮子 船越利明
岩城豊子 福岡 章 松尾麗子
三井 一 宮下淳一 佐古田文字
金谷 昭 宮本真幸 兼田幸子
石田賢二 眞田久子 森実澄美子
橋原良彦 湯浅康夫 湯浅みや子
多賀久子 加藤元彦 長沢佑美
岡田 昇 青木一雄 田所真里子

前川 一 中村静香 河本美子子
村井寿和 小林優子 光川一美子
小山 輝 ◎須藤岡 榎(計23名)

三重・経ヶ峰(展望の山12)
1月4日(例) くもり
(集合) 近鉄桑名駅8・00 / JR
関駅8・50 (車) 菅原神社9・25
一 仲之郷道9・45 林道終点9・
55 一八合目付近見晴らし場10・40
一 経ヶ峰11・15 山頂展望小径11・
30 (昼食) 12・30 一 平尾原 林道
終点13・30 菅原神社13・40 14・
15 (解散)

雪は残っていたが尻滑りはでき
なかった。展望は知多半島まで見
られたが、北の山は雪でよく見え
なかった。
(参加者) 成瀬忠市 成瀬みち子
竹内正子 春見重美 伊藤恵美子
久米孝子 東中次夫 岡本美子子
西村 正義 福本樹子 南 智恵子
西村文男 小林 修 砂原恵美子
栗橋善吉 栗橋樹子 岡平くみ子
藤野容子 北村 稔 北村つねみ
石田真由美 宮路ちへ子
宮路亜希子 ◎山田明男(計24名)

飛騨下呂・湯ヶ峰(鈴鹿登山16)
1月4日(例) くもり
(参加者) 成瀬忠市 成瀬みち子
竹内正子 春見重美 伊藤恵美子
久米孝子 東中次夫 岡本美子子
西村 正義 福本樹子 南 智恵子
西村文男 小林 修 砂原恵美子
栗橋善吉 栗橋樹子 岡平くみ子
藤野容子 北村 稔 北村つねみ
石田真由美 宮路ちへ子
宮路亜希子 ◎山田明男(計24名)

ヒヨノ・杉坂山・アマダ峰

(鈴鹿を歩く23)
1月8日(例) 雪

(集合) 一円バイパス道8・30
(車) 四手林道広場9・15 P4
4.3.10 ヒヨノ12・10 杉坂
落12・45 (昼食) 13・40 杉坂集
落14・10 八重垣15・40 多賀北セ
ブンイレブン16・10 (解散)

大雪が続き、四手林道も深い雪
で始めからラッセル。カンジキ隊
が交代でアタックし、P4.4.3か
らヒヨノに向かう。杉坂落は1日
以上の雪で、別世界のなかで昼食。
杉坂落からは旧道を一気にくだっ
た。吹雪のなかの深い雪山で、夢
かのような別世界を堪能した。
(参加者) 木下朝子 北村つねみ
精方由子 服部 晃 奥野太一郎
山田妙子 岩本彩子 伊藤喜久男
池田繁美 一芝義雄 一芝美知子
吉村 昭 櫻田勝利 石田真由美
大西裕子 高原芳彦 伊藤恵美子
武村千鶴 水戸妹治 吉田峰子
杉山能久 ◎山田景三
◎後藤康幸 ◎岩野 明(計29名)

播磨・高御位山
(ファミリーハイク74)
1月8日(例) 晴れ

(集合) JR岐阜駅7・23 (電車)
下呂駅9・37 (タクシー) 林道途
中10・10 尾根12・00 (昼食) 13・
00 一 湖ヶ峰14・00 一 林道15・30 一
下呂温泉16・15 (入浴) 17・00 一
下呂駅17・36 (電車) 美濃太田駅
18・51 (解散)

雪のためタクシーは林道の途中
まで、林道をつめて尾根の高みを
目指し、尾根上で昼になった。そ
こから空身で山頂を往復してから
往路を下呂温泉へくだった。
(参加者) 原 文字 吉村 昭
吉田峰子 大岡のり 久坂静夫
◎筒井克治 (計6名)

丹沢・塔の岳と鍋割山
(花巡り山行26)
1月4日(例) 6日(例) ◎田中 明
*都合で中止しました。
河南・一徳防山
1月7日(例) くもり時々小雪
(集合) 近鉄・南河内長野駅9・
00 (タクシー) 南ヶ丘かいと大橋
9・20 40 一 7坂峠10・00 一 観
音講山10・30 40 一 尾根根合流点
55 一 三角点11・00 一 尾根根合流点
広場11・05 (昼食) 11・45 一 徳
防山12・00 一 扇畑合流点12・15 一

見晴し12・35 40 一 奥倉山分岐12・
50 一 池畔13・10 40 一 中目野13・
40 45 (バス) 一 解散 一 下高向13・
56 (バス) 一 河内長野駅14・10
地元の西原さんに案内してもら
い、南ヶ丘から日野へ一徳防山を
周囲するコースをとった。小雪の
舞う寒い日で昼食休憩もゆっくり
とせず、狭い山頂から急下りの道
をくだった。予定より1時間早く
下山でき、温泉(風呂)を目標
してバスに乗った。

(参加者) 山縣 隆 山縣勝美
小田潤子 神 昭司 神 美奈子
竹内正子 宮西和子 武部美美子
川原富子 山崎義治 山崎多恵子
上野信子 沖 伸 伊東ナナ子
宮野哲郎 宮野穂子 中嶋日出男
高部和美 遠藤 幸 西原辰夫
佐野信江 川島勝美 村井寿和
小林 桂 山本博子 ◎呉比呂美
◎安倉正勝 ◎村田智俊(計28名)

奥美濃
見当山と大日ヶ岳と水後山
(自然観察山行196)
1月7日(例) 9日(例) 2泊3日
(7日) くもり一時雪 (集合)
JR岐阜駅9・15 (レンタカー)
郡上高原ホテル12・00 05 見当

(集合) JR加古川駅9・50 (バ
ス) 北池バス停10・20 一 北山鹿島
神社10・40 50 一 長尾登山口11・
00 一 鉄塔下11・15 20 一 高御位山
11・50 (昼食) 12・35 一 鹿島山東
峰13・20 30 一 別所奥山13・50 一
展望台14・10 20 一 豆崎奥山14・
50 15・00 一 中所登山口15・20 一
25 一 JR曾根駅15・35 (解散)
高御位山で南に湖内、北に水
ノ山などを眺めてくつろいだ。お
助けロープが無くなってしまった百間岩を
無事にくぐり、播磨アルプスの縦
走路を歩き抜いた。
(参加者) 宮下淳一 中澤ちず子
若林文夫 村上勝子 安田文美江
金森節子 富松雅子 柴村敏子
須藤浩子 崎山悦子 木村 豊
長沢佑美 田中延子 久保田玲子
後藤純子 渡部和美 中尾美智子
山根邦枝 和田純子 井上恭子
志水明美 林 信男 川島勝美
上田裕子 多賀久子 小坂さゆり
和田直樹 ◎秋葉正人
◎木村太郎 (計29名)

播州・明神山
1月8日(例) 晴れ
(集合) JR姫路駅8・00 (バス)
神元神社9・52 一 第一鉄塔10・10
一 明剣岳10・17 一 三角点10・52 一
ハサミ岩11・20 一 小明神12・20 一
明神山12・40 (昼食) 13・15 一 分
岐13・40 一 六合目14・00 一 ツツ岩
岳14・25 一 遊歩道14・40 一 夢やか
た14・50 (解散)
鉄塔までのいきなりの急登は、
短時間ながら少し面食らった。大
明神尾根は変化に富んで小刻みな
アップダウンで適度に岩場があっ
た。やがて雪が現れ、小明神を目
前にクラストの尾根に変わって、軽
アイゼンを着用した。山頂からの
下山ルートはAコースから三ツ岩
岳コースをとった。下山後、夢や
かたで新年を祝った。
(参加者) 塩尻香織 小谷和子
森 瑞代 西原俊弥 西原裕子
福岡 章 朝倉義雄 光川一美子
狩野東彦 河合敏行 市井ユリエ
上田直代 松村雅子 石田賢二
岩崎健司 柳川富雄 砂原恵美子
岩田育士 河崎妙子 首藤智子
◎岡田 昇 ◎古賀慶二(計28名)

越畑口9・50→越畑10・10→20
芦見峠10・45→55→旧反射板跡地
12・15(曇) 13・05→地蔵山13・
10→社務所14・20→30→水尾分れ
14・50→保津峡16・20(解散)
バス路面の硬く雪の状態でコー
スを変更したが、天気にも恵まれ、
雪深い奥谷や比叡山・比良の展
望が楽しめた。

(参加者) 竹内正子 木下朝子
小田潤子 中川光郎 宮路ちへ子
加藤元彦 君塚郁子 小川富士雄
後藤勝子 塚本忠次 大和 敏
本間 隆 岩佐 修 竹田善美
山根弘美 渡部和美 平田輝美
中尾博子 村井寿和 橋本賢一郎
林 弘毅 筒井克治 豊原恵美子
緒方由子 青木一雄 豊村雅子
和田直樹 山縣勝美 ○小松志信
○加納由紀子 ○沖 伸
◎供合札司 (計32名)

八風大明神安全祈願 (鈴鹿登山17)
1月14日(日) ◎筒井克治
*都合で中止しました。

御在所岳(鈴鹿百山78)
1月15日(日) 晴れ
(集合) 近鉄桑名駅7・55/近鉄

湯ノ山温泉駅8・40(車) 旧料金
所駐車場9・10→日向小屋9・30
→藤内小屋10・00→国見峠11・15
→山頂ロープウェイ休憩所11・45
(曇) 12・50→御在所岳三角点
13・10→14・20→国見峠14・30→
藤内小屋15・20→旧料金所駐車場
16・20(重) 湯ノ山温泉駅11・40
(解散)

天候は快晴でまれに見る展望が
あり、みんな感激していた。北部
鈴鹿はゆうに及ばず、中央アルプ
ス・恵那山・御嶽・乗鞍・穂高・
槍・笠・双六・白山・能登白山・
伊吹・金嶺と、北・東がよく見ら
れた。
(参加者) 成瀬忠市 成瀬みち子
久米孝子 竹内正子 伊藤恵美子
笹岡任蔵 川俣 勲 南 智恵子
朝倉公雄 吉田峰子 北村つねみ
佐藤文枝 中川美子 石田真由美
山口敏明 小澤栄子 岡本美千子
中井昭一 山田妙子 ○高原芳彦
◎山田明男 (計21名)

曾爾・大梅山から清水山
1月17日 くもり時々晴れ
(集合) 近鉄桔梗が丘駅9・00
(車) 布引林道終点10・20→大梅
山11・00→清水山12・00(昼食)

1→峠13・15→兜岳14・25→布引
谷→布引林道終点15・55(車) 桔
梗が丘駅16・40(解散)
布引林道へ入ると、ちょうど材
木の切り出し中で、断りを入れな
がら駐車地へ。大梅からの視線が
出る。朝からのガスも晴れ、小
太郎岩が正面に見える。兜岳から
はスポットライトを浴びた高見山
も見えて、すばらしい景観が広がっ
ていた。

(参加者) 緒方由子 前川和佳子
大村俊子 鞍田二郎 佐古田文字
山縣勝美 池田繁美 湯浅みや子
上田久子 小林 修 落合ひろ子
松村雅子 筒井克治 梶原泰彦
村田紀生 ○岡平くみ子 (計17名)
◎田中賢治

尾鷲・亥谷山(三重の山83)
1月21日(日) 晴れ
(集合) 滝原神宮8・00(車) 道
の駅「海山」9・15(重) 賀田小
学校10・00(車) 林道入口10・10
→登山道入口10・30→鉄塔11・00
→10→亥谷山12・10(昼食) 12・
55→ヒヨ峠13・55→タノヒラ峠14・
15→車道15・25→林道入口駐車場
15・35→45(解散) 有志は三木里
町民宿「うれしの」(宿)

前夜の雪情報が気になったが、
南下するにつれ天気は回復、お山
は晴天。点在するカゴノキ(鹿子
の木)、下り尾根筋に群生するヒ
カゲツツジがよかった。民宿の料
理の味も、翌日の「橋の森」散策
もよかった。
(参加者) 永戸鉄治 岡本美千子
山本雅子 村田紀生 石田真由美
平 龍一 平 幸子 岡平くみ子
川村政和 中森義信 林崎 功
奥野富美 ◎稲垣逸夫 (計13名)
スノーハイキング
美濃・天狗山山西尾根
1月21日(日) ◎鷺見守康
*荒天予報のため中止しました。

樹氷の綿向山 (鈴鹿を歩く232)
1月22日(日) 晴れ
(集合) 藤王ダム広場8・25(重)
熊野8・35→水無山9・25→綿向
山11・25→北峰11・45(曇) 12・
35→綿向ブナの木平13・10→塩の
道14・30→谷山谷15・10→熊野
15・25(解散)
熊野からの直登は凄く急斜面を
一気に990段まで突き上げる。

白鳥忠子 志水明美 菅 キヤウ
○西條良彦 ◎木村太郎(計22名)
野坂山(敦賀市)
1月28日(日) くもり。
(集合) JR敦賀駅9・40(車)
少年自然の家10・10→一の岳11・
55→野坂山12・40(昼食) 13・40
→一の岳14・20→少年自然の家15・
15(昆虫館見学) 16・00(解散)
夏道は閉ざされて冬道コースを
たどる。急傾斜に途中からカンジ
キを看せる。積雪は1・5→2。頂
上の避難小屋で他の登山客と賑
やかに昼食。再び雪と戯れながら
下山した。
(参加者) 平塚明美 森 美智子
細野欽也 小林 桂 六戸喜久江
光川一美子 ◎高島伸浩(計17名)
京都北山・大杉谷ひぐらしの滝
から愛宕山
(平日ふれあいハイイク56)
2月2日(日) 晴れ
(集合) 清滝バス停9・10→20→
大杉谷一ひぐらしの滝分岐10・30
→水尾分れの上11・20→愛宕神社
石段下11・55(昼食) 12・40→月
輪道から南向き尾根に入る13・15
→ひぐらしの滝→空也の滝→清滝

穏やかな冬晴れて雪も降り、水無
山・綿向山は、樹氷の花が光り輝
やいて大パノラマが展開。北峰の
日溜りでのんびりと昼食し、ヒッ
プスキーで爽快にブナの木車にく
だってはまた登り、ヒップスキー
を楽しんだ。
(参加者) 木下朝子 奥野太一郎
服部 奏 小林 修 宮野哲郎
三上伸夫 原 光一 原 幸子
武村千鶴 北村 稔 北村つねみ
大河原隆 一芝義雄 一芝美知子
池田隆一 杉山能久 網本美恵子
櫻田勝利 小松志信 ○山田景三
○後藤康幸 ◎岩野 明(計22名)

東山36峰(第3回)
第12峰→第19峰(火籠ハイイク15)
1月24日(日) 晴れ
(集合) 北白川バス停9・20→吉
田山(吉田神社)→栗谷(愛宕山・
金堂光明寺)→若王子神社→南神
寺→日向神宮12・10(昼食) 12・
50→南神寺山→椿ヶ峰→大登神社15・
50→16・00(解散)
神社仏閣の歴史に触れながら、
わかりにくい山々の頂を踏んで歩
いた。
(参加者) 東中次夫 吉塚孝次

八丁尾根から神護寺
1月25日(日) 晴れのち曇り
(集合) 清滝バス停9・10→20→
空也の滝分岐9・55→10・00→梨
ノ木神社10・35→八丁尾根分岐11・
15→高堆山分岐11・50(曇) 12・
50→高堆山三角点13・30→文堂上
入道13・50→神護寺14・10→高堆
バス停14・40→50(解散)
ちょっと歩きは、雪の無い山へ
と思っただけだったが、八丁尾根で
も積雪があり、今冬はさすがに厳
しと実感した。
(参加者) 河内正治 中嶋日出男
中川光郎 巻田 晃 塚本忠次
岩佐 修 上田桂子 大園加代子
山岸勝雄 小林 桂 砂原恵美子
田中 明 磯田 純 原 ひとえ
豊村雅子 本間 隆 木間孝子
加藤元彦 中尾博子 宮崎紀正
中村英雄 後藤勝子 和田直樹

市野博文 武村千鶴 妹尾一正
角江朝子 山科邦彦 山盛加奈子
石原君子 林 弘毅 岩本彩子
竹田善美 秦 康夫 秦 美代子
○谷 守 ◎奥山繁三(計22名)
伊勢・堀坂山 (ファミリーハイイク75)
1月26日(日) 晴れ
(集合) JR新大阪駅7・20(パ
ス) 堀坂峠10・10→20→大日如来
像10・40→堀坂山11・00(昼食)
11・50→堀坂峠12・25→35→観音
岳13・10→20→松阪森林公園14・
30→40(バス) 志保原やすらぎ
の湯15・10(入浴) 16・20(バス)
新大阪駅19・30(解散)
富士権現をまつる堀坂山から飯
南や飯高の山々を眺めた。縦走し
た観音岳からは一志の矢頭山を眺
めた。時には富士山まで見えると
いうが、遠方は霞んでいた。
(参加者) 宮西和子 中澤すず子
村上嘉子 本間昭恵 川上久堅
岩井明忠 栗栖崇吉 栗栖君子
岩城勝夫 上田久子 加藤淳二
西原辰夫 妹尾一正 木村 豊
岩村登子 小田潤子 村田紀生 江
川保寿子 渡部和美 成川みさお
松尾潤子 大谷章子 平田輝美

1月28日(日) くもり。
(集合) JR敦賀駅9・40(車)
少年自然の家10・10→一の岳11・
55→野坂山12・40(昼食) 13・40
→一の岳14・20→少年自然の家15・
15(昆虫館見学) 16・00(解散)
夏道は閉ざされて冬道コースを
たどる。急傾斜に途中からカンジ
キを看せる。積雪は1・5→2。頂
上の避難小屋で他の登山客と賑
やかに昼食。再び雪と戯れながら
下山した。
(参加者) 平塚明美 森 美智子
細野欽也 小林 桂 六戸喜久江
光川一美子 ◎高島伸浩(計17名)
京都北山・大杉谷ひぐらしの滝
から愛宕山
(平日ふれあいハイイク56)
2月2日(日) 晴れ
(集合) 清滝バス停9・10→20→
大杉谷一ひぐらしの滝分岐10・30
→水尾分れの上11・20→愛宕神社
石段下11・55(昼食) 12・40→月
輪道から南向き尾根に入る13・15
→ひぐらしの滝→空也の滝→清滝

1月28日(日) くもり。
(集合) JR敦賀駅9・40(車)
少年自然の家10・10→一の岳11・
55→野坂山12・40(昼食) 13・40
→一の岳14・20→少年自然の家15・
15(昆虫館見学) 16・00(解散)
夏道は閉ざされて冬道コースを
たどる。急傾斜に途中からカンジ
キを看せる。積雪は1・5→2。頂
上の避難小屋で他の登山客と賑
やかに昼食。再び雪と戯れながら
下山した。
(参加者) 平塚明美 森 美智子
細野欽也 小林 桂 六戸喜久江
光川一美子 ◎高島伸浩(計17名)
京都北山・大杉谷ひぐらしの滝
から愛宕山
(平日ふれあいハイイク56)
2月2日(日) 晴れ
(集合) 清滝バス停9・10→20→
大杉谷一ひぐらしの滝分岐10・30
→水尾分れの上11・20→愛宕神社
石段下11・55(昼食) 12・40→月
輪道から南向き尾根に入る13・15
→ひぐらしの滝→空也の滝→清滝

16・10(解散)

昨日の雨で雪はずっかり解けていたのに、愛宕神社あたりだけ霧水で樹々が真っ白だった。日向ぼつこの昼食を楽しんだ。

(参加者) 神 照司 神 美奈子 木下朝子 木村 豊 大須賀 實 中川光郎 志水明美 松尾剛子 後藤純子 塚本忠次 本間 隆 渡部和美 市野博文 水見真砂子 小栗大直 中尾博子 菅 キヤウ 阪口貴司 平田輝美 砂原恵美子 中村英雄 妹尾一正 谷 守 石原君子 岩本彩子 中谷繁子 ○川上久望 ◎寺井恒夫(計29名)

京都北山・天ヶ岳から電王岳

(週末ハイキング)

2月4日(日) くもり一時雪
(集合) JR京都駅7:50~8:05(バス) 大原9:05~15:15 寂光院9:25~35 栗原山10:30~40 寂光院道出合11:15 シンクナゲ尾根出合11:55 鉄塔広場12:50(昼食) 13:40 天ヶ岳13:50~14:00 三ツ岳14:55 静原分岐15:15~20 薬王坂16:00~10 寂電鞍馬駅16:25~30(解散)
新雪を踏んで大原バス停を出発、晴れてきたので踏み跡の無い雷道

を寂電山経由に変更した。しかし、登りに弱い人がいたので時間のロス結果となり反省点が残った。天ヶ岳の稜線は膝上の積雪があり、昼食は雪が降るなかでとった。三ツ岳を過ぎると雪も止み、たんたんと尾根道を薬王坂から鞍馬駅へくだった。

(参加者) 木下朝子 馬龍忠男 竹内君子 船越利明 船越みよ子 栗原崇吉 栗原君子 小椋きぬ子 沖 伸 松田 久 小川富士雄 松尾剛子 吉本博暢 吉本巳代子 傍田治美 傍田昌子 森 美智子 仲谷和司 高松雅子 後藤純子 高橋舞治 松村雅子 渡部和美 平田和子 君塚郁子 山本京子 小川 桂 緒方由子 野末あや子 宮野哲郎 宮野純子 岡田芳良 堀田昌子 兼丸勝子 小山明美 小松志信 岡田憲章 船木裕巳子 若林文夫 川田洋子 竹内喜久子 ○瓜取利明 ◎狩野東彦(計43名)

美濃・貝月山

(自然観察山行198)

2月4日(日) ◎登見守庫
*都合で1月14日(日)に変更したが、当日も荒天のため中止しました。

静ヶ岳・電ヶ岳(鈴鹿遊山18)

2月4日(日) 小雪

(集合) 宇賀落合橋8:00 電金尾根1:10 電ヶ岳11:30 雪化のランチ場12:00(昼食) 12:30 クラーク遊尾根1:30 落合橋15:30(解散)

電金尾根から蛇谷を渉り、本峰へは力登山。凍った斜面、底雪崩の竜舌に出会う。ペットボトルがたちまち凍る、雪花のなかを彷徨した。

(参加者) 大石智美 吉村 昭 山田妙子 吉田隆子 北村つねみ 鈴木 浩 鈴木友子 岡平くみ子 井沢重正 山村恭男 南 智恵子 鳥居信吾 真島 和 真島知恵 伊東友隆 ◎筒井克治(計16名)

能登ヶ峰(鈴鹿を歩く233)

2月5日(日) 雪

(集合) 大河原「かもしか荘」8:30~35(車) 鮎川公園8:45 林道登山口9:30 能登ヶ峰10:50 一の薬園11:15 鞍部雪原11:50(昼食) 12:40 P7 4 8 13 35 ウグイ川林道15:00 鮎川16:00(解散)
山頂の稜線は40~50cmの雪でふわふわ。草原に着くと一気に風量

が開けた。強風と吹雪の鹿の薬園はすばらしく、絶景に見とれていたが寒い。鞍部の雪原にぐぐって昼食。P7 4 8からの尾根が一部凍結して木につかまりながら慎重にくだった。ふわふわの深雪の能登ヶ峰を楽しく歩き、最高の冬山となった。

(参加者) 木下朝子 奥野太一郎 吉村 昭 原 光一 原 幸子 奥野民恵 奥野富美 武村千鶴 岩本彩子 一芝露雄 一芝英知子 永戸鉄治 小林 修 石田真由美 大西節郎 樫田勝利 網木美恵子 細野欽也 金谷 昭 ○山田景三 ◎後藤康幸 ◎岩野 明(計29名)

伊賀・雲山(展望の山13)

2月5日(日) くもり

(集合) 近鉄桑名駅8:00/JR 柘植駅9:15(車) 雲山寺9:30~40 雲山10:40~50 雲山寺11:30(昼食) 12:15(車) 白藤の滝12:30~50(車) 石山観音13:20(解散) 14:10(解散)
寒波で雪が舞い、山頂近くでは霧水も見られ、積雪は5cm程。下りて少し見晴らしもあったが、遠望は無い。時間が余ったので、車で白藤の滝へ行き、開町の石山観

音へも足をのびした。

(参加者) 竹内正子 成瀬みち子 朝倉依雄 佐藤文枝 伊藤恵美子 栗栖崇吉 栗栖君子 谷 千代子 筒居義文 村田紀生 石倉真砂子 西村文男 林 正義 光川一美子 加藤元彦 小林一世 落合ひろ子 北村 隆 山田妙子 生越恵美子 長坂佐知子 ◎山田明男(計29名)

比良・権現山から蓬萊山

2月5日(日) 雪のちくもり

(集合) JR堅田駅8:40~50(バス) 平9:30~40 林道登山口10:00 アラキ峠11:30 権現山12:15(昼食) 12:55 一ホッケ山14:15(撤退) 権現山15:00 山14:15(撤退) 平16:00(バス) アラキ峠15:30 平16:00(バス) 堅田駅16:30(解散)
前々日からの寒波で新雪がさらに積もり、トレースが無い。権現山までは先を行く他メンバーのラッセルに助けられたが、ホッケ山の登りで先頭になり、大苦戦する。遠くにかさむ蓬萊山を見上げながら、なおラッセルして行く気力も失せ、トレースの往路を平へ引き返した。ドレンビヤリでバスが来て早目に堅田駅へ帰れた。
(参加者) 木本恭子 小坂さゆり

佐野信江 松井明忠 武部美奈子 山縣 隆 松村雅子 砂原恵美子 山科邦彦 宮下淳一 久保田玲子 中尾博子 青木一雄 稲葉大太郎 川戸せつ 井上壽子 猪俣美穂子 楠部和代 磯野重治 猪狩美穂子 多賀周二 多賀久子 村田はる江 緒方由子 福岡 章 山野志保江 牧 和夫 小池一郎 小杉流明 山田幸子 小川明美 内田康夫 山田幸雄 小谷和子 ○安倉正勝 ◎村田智俊(計36名)

愛宕山シリーズ

2月7日(日) くもり

(集合) JR保津峡駅9:00 中尾根大岩10:10~15 大谷道一七合目出合11:20 旧ケーブル駅11:40(昼食) 12:35 一ホッケ山12:15 25 表巻道 瀧瀬14:10~15(解散)
昨夜の大雨後の山行となったので、雪が解けていて悪路一步手前そんななかでも皆さん元気アタックした。
(参加者) 大林 進 大國加代子 木下朝子 中川光郎 岡田史二郎 岩佐 修 磯部 純 大須賀 實

後藤純子 田中 明 友田美保子 中村英雄 谷 守 北村つねみ 石原君子 米山富子 砂原恵美子 小松志信 岩本彩子 加山由紀子 渡部和美 櫻島康一 中川節子 武村千鶴 村井寿和 林 弘毅 ○青木一雄 ○沖 伸 ◎仲谷和司(計29名)

高見山地・坂本谷から三峰山

2月7日(日) くもり時々晴れのち雨

(集合) 近鉄桔梗が丘駅8:15(車) 奥子院青少年旅行村9:20 弓木の丸10:15 坂本谷林道終点11:25 右又出合付近11:45(昼食) 12:20 一ホッケ山13:45~14:00 不動滝 青少年旅行村15:10(車) 桔梗が丘駅16:00(解散)
弓木コルを越え、予想外に雪の少ない坂本谷へ入る。時折ガスが切れて、太陽が覗くとまるで春山気分。稜線では西の風がゴウゴウと吹く。三峰頂上へ着くと、西の空がにわかには晴ってきたので、不動滝コースをくった。旅行村へ戻ると同様に雨が降り始めた。
(参加者) 大村優子 佐古田文子 校田二郎 山縣勝美 湯浅みや子 池田繁美 ○岡平くみ子

◎田中賢治(計8名)

台高・三峰山

2月8日(日) くもり

(集合) JR新大阪駅7:40(バス) 青少年旅行村10:05~15 登り尾口休憩小原10:45~11:10 遊歩小原12:00(昼食) 12:25 三峰山12:45~55 八丁平13:00~10 遊歩小原13:30~35 不動滝14:25~30 青少年旅行村15:00~10(バス) みつえ温泉蛇石の湯15:30(入浴) 16:40(バス) 新大阪駅19:20(解散)
繊細な樹木に包まれた三峰山頂上からは、雪まじりの風が吹き荒れて何も見えなかった。八丁平に廻ると風がやわらぎ、台高の山並が浮かび上がった。冷えた身体を温泉に浸かり、暖まって帰路についた。
(参加者) 和田直樹 松井明忠 栗栖崇吉 栗栖君子 野末あや子 岩城豊子 河本英雄 河本美子子 高松雅子 西條良彦 山縣 隆 妹尾一正 松尾剛子 平田輝美 本間昭恵 村上嘉子 久保田玲子 西原辰夫 大石吉彦 大和 絃 河合晃行 上田直代 道平さわみ

村上嘉子 小田潤子 成川みさお
山根弘美 長沢佑美 渡部和美
志水明美 松尾麗子 安田文美江
大谷章子 平田輝美 道平さきみ
中村静香 眞田久子 小栗大直
堅田 弘 関口寿一 山口高子
岩本彩子 関口恵子 小河美奈子
松田 久 澤田高治 妹尾一正
小林 桂 東中次夫 須藤浩子
崎山悦子 河本英機 河本美千子
河合敏行 上田直代 西條良彦
○松井明忠 ◎木村太郎(計15名)

中債・湯ノ丸山と鹿沢高原
(自然観察山行200)

2月24日(日)26日(回)
前夜発1泊2日
24日 くもり(集合) J R 岐阜駅23:00(バス)
25日 晴れ(バス) 鹿沢温泉旅館2:20(飯・朝食) 8:30(バス) 地蔵峠8:40(50)鳥帽子峠分岐9:30(つじ平9:45)10:00(湯ノ丸山10:45)登山コン平13:55(14:15)県道出合14:30(バス・観心)唐谷温泉15:30(泊)
26日 雪 宿8:00(バス) 軽井沢9:30(観光) 11:00(バス)

東御市湯釜里12:10(昼食) 13:30(バス) 岐阜駅17:40(解散)
冬晴れの湯ノ丸山は360度の大パノラマ。八ヶ岳・富士山・中央アルプス・御嶽・乗鞍・北アルプス・妙高・火打・高妻・戸隠・黒姫・鶴橋様の浅間山を眺めた。翌日は降雪で軽井沢に遊んだ。
(参加者) 内田康夫 林 えい子 栗栖恵吉 栗栖君子 森 美香子 田中義雄 宮本真幸 宮本悦子 田邊弘子 佐々木三千代
◎長尾一令 ◎警員守康(計15名)

摺鉢山(敦賀市)

2月25日(日) 晴れ
(集合) J R 敦賀駅9:50(車)
池内10:20(長野峠11:35)摺鉢山12:30(昼食) 13:30(長野峠14:20)池内15:25(解散)
摺鉢山は残雪が中途半端なので、摺鉢山に変更した。長野峠から上谷山が真っ白に、山頂から東方附近に大黒山が見えた。残雪のブナ林を楽しんだ。
(参加者) 狩野野彦 武藤由美子 吉村 昭 平塚明美 光川 美子 山形 明 岩本彩子 谷 守 神野孝允 金谷 昭 中山 勇 ◎高島伸浩 (計12名)

大辺路1

③草堂寺から富田坂越
④安原から仏坂越
(記)伊土地の参詣道歩く?
2月25日(日)26日(回) 1泊2日
25日 晴れ(集合) 近鉄上本町駅8:00(バス)草堂寺11:10(30)七曲登り口12:00(富田坂茶屋峠12:50(昼食) 13:30(安原江松峠13:50)林道分岐14:00(10)三ヶ川バス停15:30(40)安原の渡し(右岸)16:00(バス)琴ノ滝(在) 16:40(泊)
(26日) 大雨 宿9:00(バス)海中公園9:50(10:40(バス)本宮大社12:20(昼食) 13:30(バス)渡瀬温泉13:40(入浴) 14:30(バス)近鉄大和八木駅17:50(解散)
遠く太平洋を見ながらのんびり歩いた。大辺路の難所富田坂の七曲道もたいたことなく登った。26日は朝から強風と大雨で古道歩きを中止し、南紀州を一廻りした。
(参加者) 和田純子 河原美代子 岩城豊子 岡崎知子 武部美美子 中川光郎 富松雅子 野末あや子 宮野敏子 白鳥忠子 伊東ナナ子 川田洋子 中川節子 村田はる江 岩鶴健司 高橋裕治 宮路ちへ子

川島勝美 西原辰夫 小河美奈子 大石吉彦 遠藤 幸 ○奥比格美 ○安倉止勝 ◎村田智俊(計15名)

蛇谷ヶ峰から富坂尾根
(比良を歩く46)
2月26日(回) ◎泰 康夫
*雨天のため中止しました。
大峰・勝負塚山
2月28日(火)くもりのち小雨
(集合) 近鉄樺原駅8:10(車)
伊坪谷出合9:25(磯原11:00)勝負塚山12:00(昼食) 12:45(伊坪谷出合14:47(車) 樺原駅16:00(解散)
雪は全く無く、無雪期の道を行く。問題の伊坪谷右岸第一支流は、滝下を迂回して通過。山頂付近でガスに巻かれ、視界は全く無し。帰路は伊坪谷左岸の仕事道が地滑りで見えず、登路をくたった。
(参加者) 鮫田二郎 石倉寛佐子 上西節子 森本健雄 佐古田文子 上田久子 大石吉彦 西原辰夫 ◎岡平くみ子 ◎田中賢治 (計10名)

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。
この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体づくり、自然のなかを歩く喜びをとらに広げましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に55年間余、好評のうちに活動してまいりました。関西は平成3年秋発足で15年目に入りますが、すでに多数の会員で活動しています。
会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて楽しい山歩きを、多くの仲間たちと味わいませんか。
リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。
会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お届けします。
四季の自然に触れながら山を歩

き、若々しい心と健康をいつまでも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円(ラッペル共)
年会費 3000円(送料共)
入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずに記入ください。
なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただきます。毎号確実にお手元に届きますので便利です。
切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」最新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回(1回程度)の山行例会を計画・実施していただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル「リーダー必携」をご参考に送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5160番から5184番まで(敬称略)。
【愛知】 木村富子
小田武茂 荒川義子
堀 良方
【京都】 井上力香 辻本芳高
辻 閃 小杉新明
南 嘉彦 南 一枝
宮川和生 岡本春美
山本重一 辻 隆志
吉本博暢 吉本巳代子
坂井和子 土佐博佐
前原郁夫 宮尾信子
岡本和子 中辻勝子
【兵庫】 西 茂子 池田美恵子 (25名)

訂正とお詫び

87号(隔春) 9ページ目次5行目「綱木逸雄」は「綱木逸雄」が正しい。
87号(隔春) 11ページ目下段6行目「9行目の「殿」は「殿」が正しい。
(編集室)

新ハイキング社

(東京本社) 〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 高橋ビル301
TEL・FAX 03-3915-8110 (編集室) TEL 03-3915-8852
「新ハイキング」(月刊)・新ハイキング選書
(関西分社) 〒610-0121 京都府城陽市寺田大群10-10
TEL・FAX 0774-53-2754
「新ハイキング 別冊 関西の山」(隔月刊)

「新ハイキング」ホームページ
インターネットで「新ハイキング」の全てがご覧になれます。
<http://shinhai.net/>

書店でお求めになりたい方へ
前もって毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どの書店でもお買い求めいただけます。「関西の山」は隔月20日頃(隔月刊)の発売。